

注目の
私立中高
一貫校

2024年

この 学校のここが スゴイ!

プレジデントファミリー特別企画
プレジデントムック
「中学受験大百科」特別付録

プレジデント
Family



Special
Interview
Tsuji Asako

中学2年から単身で海外留学

自分のやりたいこと、
好きなことを貫いた

クリエイティブディレクター
辻愛沙子
さん



その先にあるもの

大学在学中にクリエイティブディレクターとして一躍脚光を浴びた辻愛沙子さん。
発信力のある社会派クリエイターとして、ますます注目されている、その挑戦する力と創造力はどこから来ているのか。
幼少期から今に至るストーリーを伺った。

自分の人生と親の人生は別早くから芽生えた自立心

1995年生まれの辻さんは、ミレニアル世代の最後尾でありZ世代の先頭だ。時代の端境期で、専業主婦世帯と共働き世帯の数が逆転したのもちよほどの頃。従来の社会規範と、新しい価値観が混在し混乱していたなか、辻さんはミッシヨンの名門女子校付属幼稚園に入園。小学校に入學したときに一つ変化があった。

辻愛沙子さん(以下、辻さん) 私が小学校に入學すると母が本格的に仕事を始め、学校では珍しい、共働き家庭の鍵っ子になりました。私立だったため近所に住んでいる友達は少なく、家の中で絵を描いたり、赤川次郎、ハリイ・ポッターなどの本を読む内省的なタイプでした。愛情は感じていたので留守番でも寂しさはなく、仕事を頑張る両親の背中が誇りでした。親には親の人生があり、自分は自分なのだと思立心が芽生え始めた頃です。学校はどちらかというと保守的で、とても厳しかった。女子校の気持ちはあつたし、マナーや礼儀は身に付いたし、あの学校に通えて良かったとも思うのですが、小学校高学年になって、友達

も環境もずっと変わらない平和な場所で、一つの価値観しか知らないまま過ごしていいんだろうか？ と疑問を持ち始めたんです。

中学が上がっても状況にさほど変化はなく、ほかの学校に移りたいという気持ちが募った。共学校や、公立中学に移ることも考えたが、次第に海外留学に気持ちが傾いていく。

辻さん 姉と見ていたアメリカのドラマ『The OC』(格差社会を背景にした学園もの)に影響されました。海外まで選択肢を広げれば、ここでは想像もできない世界があるようだと。カナダのサマースクールに参加した経験があったので、カナダはどうだろう、ほかの国はどうだろうと、家の片隅にあった古いパソコンを使って候補地を調べ、リストにして両親に留学希望プレゼンをしました。

見たことがない世界を見た！

10代で体験した異文化と多様性

辻さん もちろん両親は非常に驚きましたが、「今の環境が嫌なわけではない。見たことのない世界を見たい。外の世界を知りたいのだ」という理由には納得してくれました。私の熱量がすごかったから、「この子は本気だ」と思ったのかもしれない

せんね。留学先を一緒に調べてくれました。

中学2年の9月から、スイスの全寮制私立学校に入學することが決まり、その前の夏休みにイギリスの語学学校に入學した。

辻さん 語学学校は母の勧めです。行って大正解でした。英語力がついただけでなく、そこは、大學生準備のために世界中から人が集まる学校だったので、貴重な経験ができました。自分が当たり前と思っていたことが、当たり前じゃないことも知りました。中2だった私が大人に交ざって、「あなたはどう思うの？」と聞かれ、言葉を尽くして対話するわけです。受け身ではいられない。自由に何でも話していいんだという感覚は、日本での学校生活ではなかった経験でした。

その後、予定どおりにスイスの学校へ。同級生たちは年齢こそ近いが、国籍も文化も宗教も違っていた。とてつもない富豪もいたが、お金があれば幸せになるわけでもないことも見知ったという。そこで2年を過ごし、高校は、別の地域へ行きたいとアメリカへ。ヨーロッパとはまた違うハイスクールライフを送った。卒業後は日本の大学への進學を選択し、5年ぶりに帰国する。

「好き」と「やりたい」がつながるクリエイティブな仕事

辻さん 帰国したときの私は、厚底靴を履いて完全な原宿ファッション。前髪はつんの金髪ツインテールで、空港に迎えに来てくれた家族はほんとうに驚いていました(笑)。スイスの寄宿学校にいた頃からUKロックや日本のパンク系バンドが大好きになり、日本のPOPカルチャーにはまっていたのです。結局、POPカルチャーに引かれて日本に戻ったようなものです(笑)。

海外で受けた刺激があまりにも強かったのか、

大学ではエネルギーを持って余し気味に。好きなデザインや映像の仕事をしてみようというインタビューを始める。

辻さん 初めにインタビューをしたアパレル会社や広告代理店では、私がりきってアイデアを出したりすると、社長は面白がってくれるものの、誰かひとりが目立つことを良しとしない組織の中での集団心理を痛感しました。「日本の企業文化は難しい、一生懸命が歓迎されないのか」と自信をなくしていた矢先、次に働いた広告系ベンチャー企業は、私のエネルギーを正面から受け止めてくれました。当時社員15名くらいの会社で、とても熱気にあふれていました。インタビューは募集していなかったのですが、人事に直談判をしてクリエイティブの部署で働くことになりました。

「やりたい！」という気持ちと行動が直結しているのが辻さんらしさであり強みのだろう。クリエイティブの仕事が「やりたい」と思った辻さんのメンターとなったのは、大手から独立して会社を起こしたコピーライター。師匠とも呼べるこの人と出会い、辻さんは目の前の仕事に120%の力を注いでいく。

辻さん 打ち合わせに一緒に行かせてもらったり、コピーのアイデアを出させてもらったりしました。何が正解かわからないので100もアイデアを提案するなど、時間を忘れて頑張りました。よそでは頑張ることを冷笑されたのに、ここでは、いい



辻 愛沙子 つじ・あさこ

クリエイティブディレクター、株式会社arca代表取締役
1995年東京都生まれ。社会派クリエイティブを掲げ、「思想と社会性のある事業づくり」と「世界観にこだわる作品づくり」の2つを軸として広告から商品プロデュースまで領域を問わず手がける。2019年春、女性のエンパワメントやヘルスケアをテーマとした「Ladyknows」プロジェクトを発足。2019年秋より2024年3月まで、日本テレビ「news zero」にて水曜パートナーをレギュラーで務めた。

ね、面白いと評価されるのがとてもうれしかった。師匠は細かく人を管理しなかったので、自由に動けたのも私には向いていました。まさに水を得た魚のように、伸び伸びと力を発揮。「これが好き！ やりたい！」という気持ち

が仕事につながり、商品企画やイメージ広告、SNSを使った手法などが話題を集め、起業・独立に至った。

辻さん 数年前、母に言われました。「アメリカから帰国したときのファッションにはびっくりしたけれど、あのとき、娘のこだわりを全否定しなくて良かった」と。当時、母とは髪色などでもめることもありました。私は「好き」を貫いたので、母は心配だったと思います。今では「あのときはお騒がせしました(笑)」という感じです。

個人が発信する時代 クリエイターも社会と向き合う

辻さんは、さまざまな社会問題に対して、疑問や自身の考えをSNS等で発信している。思想・信条の披歴に臆しがちな日本では、勇気がある行動かもしれない。

辻さん スイスにいたとき、町はみんなのものであり、町づくりはみんなと一緒にしていくものだという「公共」の概念を強く感じました。公共の事物や課題に対しては全員が当事者ですから、私も疑問があれば言いますし、より良い方法を提案します。意見を述べることは正解を提示することではなく、「私はこう思うんです」とカードを出すこと。自分の考えを言うことは、戦うことが目的ではないのです。疑問や意見を表明しづらい風潮というのは、これまで多くの人が社会課題を自分のこととして考えてこなかったからではないでしょうか。一方で、若い人たちが、さまざまな社会課題に対して「よくわからない」と感じるのは当然です。大人たちが社会問題をタブー視した結果、経緯を知る機会がなく、連ドラを途中から見せられているようなもので、関心が持てないのも無理はない。私は自分の仕事を通じて社会課題の背景を解説したり、広告やコミュニケーションの手法を通じて、知るべき課題を世の中にお届けしていきたいと考えています。

辻さんの会社では、純粋な広告のほか、さまざまな社会課題を共有し、知識・情報を提供するプロジェクトを立ち上げている。21世紀になつてすでに24年。辻さんの話を聞いていると、ようやく社会が動き出すのではと期待が膨らむ。

最後に、α世代(2010年生まれ以降)と呼ばれる小学生の保護者へのメッセージをもらった。

辻さん ここまでの自分の歩みを振り返ってみると、子供をこれが正解という型にはめないこと、子供を信じることで、そして、親御さんが自分自身の人生を生きることで、この三つが大切なのではないかと思えます。私自身は、この三つが自分の背中を押す力になりました。一見理解しにくい子供のこだわりも、可能性の種になるかもしれません。

中学2年から単身で海外留学

自分のやりたいこと、好きなことを貫いたその先にあるもの

辻愛沙子さん クリエイティブディレクター

探究

探究対談

大切なのは知識の量ではなく、持てる知識を柔軟に使う力

滝澤博胤さん 東北大学理事・副学長
福本雅俊さん コアネット教育総合研究所横浜研究室室長

East

- 学ぶ力を未来につなげる
探究学習「ニコルプロジェクト」
11 神田女学園中学校高等学校 (東京都)
- 英語サイエンスキャンプで身に付ける
実践力と探究力
12 実践女子学園中学校高等学校 (東京都)
- 「じぶんを、育みじぶんを、活かす」
中高6年間の体験が未来につながる
13 女子聖学院中学校高等学校 (東京都)
- SDGs特化型の探究活動を展開する
社会に貢献できる女性を育てる伝統校
14 東京家政学院中学校・高等学校 (東京都)
- 社会と自分のつながりに気づき、
課題発見力を磨く「探究活動」
15 東京女学館中学校・高等学校 (東京都)
- 視野を広げる学びと体験の6年間
チャレンジングな女子が育つ伝統校
16 横浜女学院中学校高等学校 (神奈川県)
- 新設の教育ビジョンに基づき
他者愛、利他の精神を育む
17 関東学院中学校高等学校 (神奈川県)

East

人間力を育む仏教校の伝統と
先端技術の学びは、探究学習を深める

駒込中学校・高等学校 (東京都)

新しい価値観を創出できる
非認知能力を高く伸ばす6年間

青稜中学校・高等学校 (東京都)

「夢の創造と実現」に向けて
「共創し、新たなステージへ」

東京農業大学第一高等学校中部 (東京都)

未来を見据えて、真の力を育てる
「R」プログラムとキャリア教育

立正大学付属立正中学校・高等学校 (東京都)

West

「英語」と「探究」を通して
多様な未来を開く可能性を育む

松蔭中学校・高等学校 (兵庫県)

多彩な行事で生徒の興味を広げ
難関大学進学を実現する力を育む

開明中学校・高等学校 (大阪府)

学校全体で探究学習を推進
生徒が自ら考え、学び、輝ける場に

近畿大学附属高等学校・中学校 (大阪府)

「本物の学び」が「探究」の原点
自ら学ぶ姿勢を身に付け、世界に羽ばたく

雲雀丘学園中学校・高等学校 (兵庫県)

グローバル

グローバル対談

多様性を力に変えて
国際社会に貢献できる人材

小林りんさん ユナイテッド・ワールド・カレッジISA KJAPAN 代表理事
松原和之さん コアネット教育総合研究所所長

起業家精神を育成し実践する
特色あるグローバルコース

佼成学園中学校・高等学校 (東京都)

時代の流れを見つめ続ける伝統校の
新たなグローバルキャリア教育

成城中学校・成城高等学校 (東京都)

East

- 18 駒込中学校・高等学校 (東京都)
- 19 青稜中学校・高等学校 (東京都)
- 20 東京農業大学第一高等学校中部 (東京都)
- 21 立正大学付属立正中学校・高等学校 (東京都)
- 22 松蔭中学校・高等学校 (兵庫県)
- 23 開明中学校・高等学校 (大阪府)
- 24 近畿大学附属高等学校・中学校 (大阪府)
- 25 雲雀丘学園中学校・高等学校 (兵庫県)
- 26 国際社会に貢献できる人材
- 29 佼成学園中学校・高等学校 (東京都)
- 30 成城中学校・成城高等学校 (東京都)

East

日本とカナダ、両国の教育が融合
世界水準の英語と国際教養を育む

国本女子中学校・高等学校 (東京都)

31

中学のグローバルコース
2025年度新設へ向け準備中

佼成学園女子中学高等学校 (東京都)

32

新生「SHOWANEXT」が目指す
世界レベルで活躍できる女性像

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校 (東京都)

33

探究を軸にグローバル教育を展開
確固たる自己肯定感を育む

城西大学附属城西中学・高等学校 (東京都)

34

TOKOオリジナルプログラムで
学園のグローバルゼーションを加速

桐光学園中学校・高等学校 (神奈川県)

35

中高6年間で培う挑む力が
世界に踏み出す一歩に生きる

目白研心中学校・高等学校 (東京都)

36

意志あるところに未来は開ける
自ら伸びる力を引き出す国際教育

山手学院中学校・高等学校 (神奈川県)

37

中学で1年間の留学が可能
「英語の薫英」の独自性が光る

大阪薫英女学院中学校・高等学校 (大阪府)

38

文理の枠にとらわれず
自らデザインした未来へ羽ばたく

武庫川女子大学附属中学校高等学校 (兵庫県)

39

ネイティブ教員が深く関わり
グローバル感性が育つ学びを強化

神戸龍谷中学校高等学校 (兵庫県)

40

グローバルリーダーを育成し
海外大学進学への道を開く

三田学園中学校・高等学校 (兵庫県)

41

サイエンス

East

中1から始まるプログラミング
共通テストを見越す「情報」教育

城北中学校・高等学校 (東京都)

42

East

発達段階に合わせた4・4・4制と
生活に関わる理科教育に特色

聖心女子学院初等科・中等科・高等科 (東京都)

43

「サイエンスリテラシー」を基礎に
社会課題の解決に挑む実践教育

三田国際学園中学校・高等学校 (東京都)

44

探究から研究へ、
そして未来を創る人になる

順天中学校・高等学校 (東京都)

46

リベラルアーツなカリキュラムで
自由で多様な未来を開く力を育成

大阪女学院中学校・高等学校 (大阪府)

47

新たな学び舎が誕生
可能性を広げる6年間が始まる

龍谷大学付属平安高等学校・中学校 (京都府)

48

首都圏

East

夢の実現のため、社会と自分を知る
中高6年間の「自分発見プログラム」

東京都市大学付属中学校・高等学校 (東京都)

50

探究・グローバルの2本柱で
一人ひとりの資質能力を伸ばす

文京学院大学女子中学校高等学校 (東京都)

51

自分軸を打ち立て、他者と協働し
人生を輝かせるための6年間

共立女子中学高等学校 (東京都)

52

6年間の独自のキャリア教育が培う
「セルフリーダーシップ」

共立女子第二中学校高等学校 (東京都)

53

体験を優先するPBL授業を
多彩な外部機関との連携で展開

和洋九段女子中学校高等学校 (東京都)

54

「EMK未来プロジェクト」で
「好き」や「得意」を伸ばし、夢の実現へ

穎明館中学高等学校 (東京都)

55

活躍中の卒業生が全面協力する
キャリア教育と学習支援

神奈川大学附属中・高等学校 (神奈川県)

56

- 広大なキャンパスで伸び伸び過ごす6年間
豊かで多彩な体験が未来につながる
- 先進的な教育を推進し
次世代グローバルリーダーを育成
- 武南中学校・高等学校 (埼玉県)
- 独自の新教育プログラムで
世界へ目を向ける生徒が急増
- 文教大学付属中学校・高等学校 (東京都)
- 協働を大切にする授業を展開
大学受験にとられない学びが魅力
- 法政大学第二中・高等学校 (神奈川県)
- 2025年度に中学が男女共学に！
進化する21世紀型プログラム
- 明法中学・高等学校 (東京都)
- 2025年首都圏入試が決定！
真の次世代教育が進路実現へと導く
- 松本秀峰中等教育学校 (長野県)
- 69
- 68
- 67
- 66
- 65
- 64
- 63
- 62
- 61
- 60
- 59
- 58
- 57

関西

- 混迷の時代にこそ求められる
ぶれることのない「人間教育」を実践
- 清風中学校・高等学校 (大阪府)
- 自分自身で未来を切り開き、
可能性を見いだす生徒を育てる
- 東山中学・高等学校 (京都府)
- 感謝と人を思いやる心を育み、
社会に貢献できる「報徳人」を育成
- 報徳学園中学校・高等学校 (兵庫県)
- 対話を通して、自ら思考・発見し
判断できる新しい学びを
- 甲南女子中学校・高等学校 (兵庫県)
- 「心の教育」がもたらす
人を大切にする精神と、学び続ける力
- 神戸海星女子学院中学校・高等学校 (兵庫県)
- 「なりたい私」になる！
時代に求められる「選ぶ力」を育む
- 樟蔭中学校・高等学校 (大阪府)

- 愛を持って子供たちを見守る
面倒見のいい伝統校
- 上宮学園中学校・上宮高等学校 (大阪府)
- 「驚き」をきっかけに
「学び」の大切さに気付く真の探究学習
- 追手門学院中学校・高等学校 (大阪府)
- 未来をイメージしながら学ぶ
多彩なプロジェクトを推進
- 関西大倉中学校・高等学校 (大阪府)
- テーマは、2050年の世界をデザインする
「京都発世界人財」の育成
- 京都先端科学大学附属中学校高等学校 (京都府)
- 誰しも自分が輝ける場所がある
夢に向かう生徒を全力で応援
- 京都橘中学校・高等学校 (京都府)
- 可能性の扉を開く「自治自立」の精神が
「しなやかな人間力」を育む
- 同志社香里中学校・高等学校 (大阪府)
- 進学その先を見据え、
スキルやコンピテンシーを身に付ける
- 常翔学園中学校・高等学校 (大阪府)
- 思春期の心を健やかに伸ばし、
中高大10力年で次世代能力を育成
- 常翔啓光学園中学校・高等学校 (大阪府)
- 共学化でさらなる高みを目指す
滝川リーダーシップ教育
- 滝川中学校・高等学校 (兵庫県)
- 得意分野を伸ばせるコースが
子供を大きく成長させ、夢の実現へ
- 滝川第二中学校・高等学校 (兵庫県)
- 自由闊達な校風の中で育まれる
自主的な学びが、未来への夢を広げる
- 桃山学院中学校高等学校 (大阪府)
- 生徒が自分の成長を自覚できる
「伸び率日本一の学校」へ
- 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 (奈良県)
- 82
- 80
- 79
- 78
- 77
- 76
- 75
- 74
- 73
- 72
- 71
- 70

大切なのは知識の量ではなく 持てる知識を柔軟に使う力

募集人員の3割超を総合型選抜(旧AO入試)で選抜する東北大学。

その判定では高校までの探究活動への熱量も重視されています。

同大学副学長の滝澤博胤さんと、コアネット教育総合研究所の福本雅俊さんが、中等教育での探究の現状と、大学が寄せる期待について語りました。



総合型選抜の学生は優秀 研究室でも個性を発揮

福本 東北大学は2000年からAO入試、今でいう総合型選抜を実施していますが、これはどのような背景から導入されたのですか。

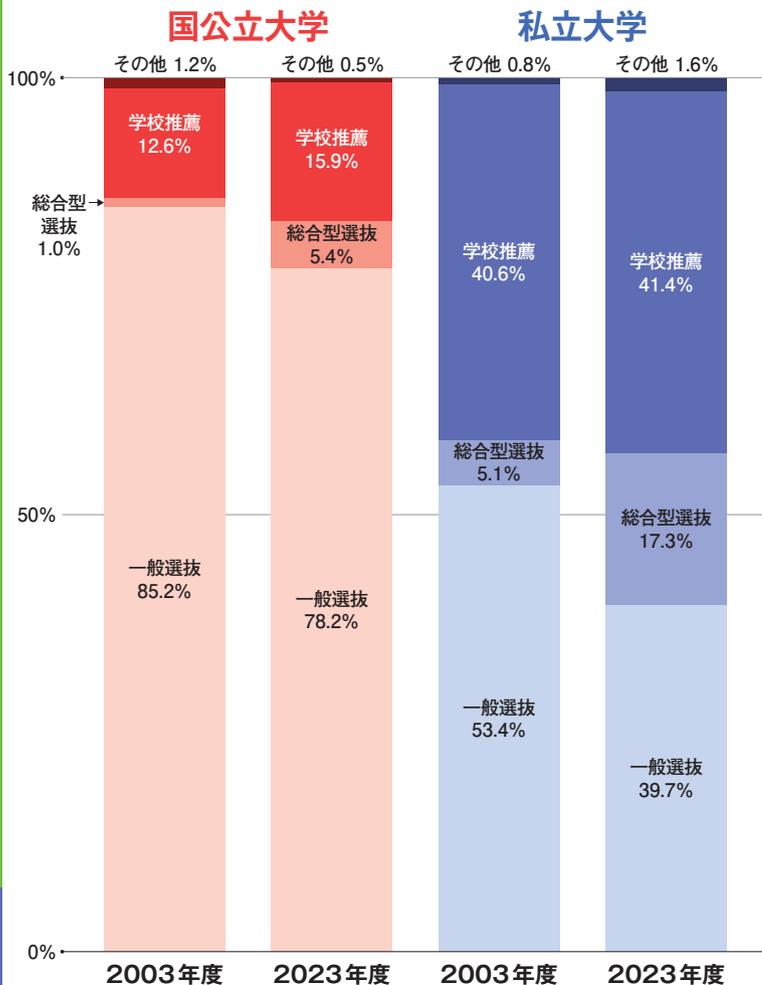
滝澤 東北大学は研究大学で、学術研究と研究者養成を主たる目的とする大学です。未知なる課題に挑み、その解決を通じて社会に貢献する人材の育成が全学の方針です。これに従うならば、筆答試験だけで、方針に見合う受験者を選抜できるのか、という議論が始まりました。もともと違う物差しで見る必要があると。そこからスタートして、AO入試を拡大していったかたちです。

福本 そのAO入試では、探究活動の経験を評価すると聞きました。今でこそ、探究は高校の教科に加えられ、私立中高一貫校では中学から探究学習を取り入れる学校が増えましたが、これを重視したのはなぜですか。

滝澤 研究は探究そのものですから、探究心を持って入学してほしいのです。AO入試はよく一芸入試だと言われますが、本学の入試は学科試験もきちんと課します。本学の学びに伝えられる学力と、プラスアルファの熱意や意欲を見るのがAO入試を行う意図です。探究活動の経験も、そのひとつの物差しですが、探究の本身は課外活動でもスポーツでも、何でもいいんです。要は自分が興味を持ったことを、とことんやりきったことがあるかどうかです。小さな山でも自力で登ってその眺めを人に話せば、次はもっと高い山に登ろうとするでしょう。研究心もそれと同じです。

福本 AO入試を総合型選抜と言い換えますが、総合型選抜で入ってくる学生と、一般入試の学生とは違いがあるのでしょうか。

入試選抜方式ごとの入学者割合の変化



※その他には一般選抜、総合型選抜、学校推薦以外の入試方法(社会人選抜等)を含む

※2003年度入試におけるAO入試は総合型選抜として集計

※2003年度入試における推薦入試は学校推薦として集計

出典：令和5年度国公立大学入学者選抜実施状況
平成15年度国公立大学入学者選抜実施状況の概要
文部科学省公表データをもとにコアネット作成

大学入学がスタートかゴールかでその後の伸びが違う

滝澤 総合型選抜では優秀な学生が入ってきます。大学卒業時のGPA(成績評価)も、総合型選抜の学生が高いですね。大学4年から学生は研究室に入りますが、そこから個性が表れます。指示待ちの学生と、自分からどんどんやっていく学生の違いが出てくるのです。概して小学校から受験勉強一辺倒で来たような学生には、なんらかの手引きがないと先に進めない前者のタイプが多いですね。

滝澤 研究は、自分でテーマを決め、自分なりの方法でそれを追究するもの。この成果は私だから出せたと言えるのが研究です。ですから本学が総

合型選抜で見たいのは、物事を追究する姿勢であ

って、知識の量ではないのです。

福本 中学入学年齢のお子さんを持つ保護者を対象とした調査で、少し前まで大学受験は一般選抜でという人が7〜8割を占めました。今はそれが減って、総合型選抜での受験を望む方が増えています。保護者の方々にも、知識量だけが大切なのではないという意識が、広まってきてはいるようです。

先ほど話された卒業時のGPAですが、総合型選抜で入ってきた学生、あるいは入学以前に探究的な活動を活発にできた学生のGPAが高いのは、何が理由だと考えますか。

滝澤 彼らは大学入学がスタート。一方の苛烈な入試を勝ち抜いてきた子は、大学入試の合格がゴ

ールになってしまふ。この違いは大きいと思います。よく言われていることですが、大学に入学した最初の1年間の成績と、最終成績はほぼ相關します。しかし、入試の成績と卒業時の成績は、まったく相關しません。

福本 そうなのですか。では、総合型選抜で入学した学生は、中学・高校時代に取り組んできた探究活動の延長のようにして、東北大学での研究に進んでいくケースが多いのですか。

滝澤 そうでもないですね。例えば天体に興味があつて宇宙物理学へ進む例もあれば、スポーツで6年間頑張った子が医学を選ぶ例もあります。パターンはいろいろですが、あらためて新しい分野へ進む学生のほうが多いようです。最初に登る山がどんな山でも、何かを成し遂げたという達成感を持つ学生は、どの分野へ行っても通用します。

ポケットに詰めた知識をどう組み合わせるか

福本 中学や高校の探究的な活動では、大学の研究に近いものと、いわゆるビジネスアイデアを組み立てるアントレプレナー的なものとの2軸があるように思えます。それはどう見ますか。

滝澤 どちらも必要だと思います。アントレプレナー的な活動は、発想を豊かにするにはいいですね。探究で自分が納得するまで物事を追究するにしても、それが世のため人のためになるのが重要です。本学は「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」が理念ですが、創立以来、大切にしているのは、研究を社会に役立てなければならぬということです。その視点からすると、アントレプレナーシップは大事です。

福本 同感です。一方、探究学習の捉え方につい

て、気になるところもあります。特に教育の現場では、知識がないと探究はできないから、基礎学力が低い生徒に探究は難しいという話がよく聞かれます。それですと、学科と探究の学習が二律背反するように思うのですが。

滝澤 探究も起業も、大事なものはポケットの中にある知識をどう組み合わせさせて課題解決に向かうかです。教科を学ぶのはポケットに詰めるもの。知識を増やすこと。しかし、ポケットが一杯でも、その中にあるものを使えなければ意味がない。中にあるのが三つか四つのガラタでも、「これとこれで何ができるか」と考えるのは、学科の学習力とは別な力だと思います。

福本 もちろん学科の学習が不要だとは思いませんが、そのために探究に時間を割けないというのは釈然としません。探究は生徒たちが社会の現状と課題に触れるという意味でも、とても良い機会だと思っております。

滝澤 自分たちが解決を迫られている課題が、世の中にたくさんあると気付くだけでも意義のあることです。本学でも「科学者の卵養成講座」という、高校生の探究活動をサポートする取り組みが



滝澤博胤さん
Takizawa Hirotsugu

東北大学理事・副学長(教育・学生支援担当)

秋田県出身、東北大学工学部応用化学科卒業。専門は無機材料化学。工学部の入試担当時代から総合型選抜に長く関わってきた。



福本雅俊さん
Fukumoto Masatoshi

コアネット教育総合研究所横浜研究室室長
日本キャリアデザイン学会会員

私立高校の教員を経て、2006年同研究所に入所、16年より現職。キャリア教育を主領域に、子供たちの未来を応援する教育活動に関する支援を中心に、学校経営をサポートしている。

探究活動の広まりを受けてということですか。これから入ってくる学生は、下地として探究マインドがあると。

滝澤 そうです。ただ、1年生をませこぜにしてやるもうひとつの狙いにも、多様性を体験させることがあります。日本は均質性の高い社会で、学校は特にそうですね。探究活動の一番の良い点は、自分と違ったものの見方をする

人と話をするのだと思います。そこから視点の転換が始まり、その人にはない新しい発想が生まれてきます。

福本 最近では私立の中高一貫校でも、学校外で多様な人たちと触れ合う探究活動が増えています。良い取り組みだと思えますが、一方で保護者の方々は探究活動の意義を認めながらも、やはり大学進学をゴールとする見方が根深いですね。私立校ですと、学校もその期待に応えようとしています。

滝澤 そこは学校にも保護者の方々にも、少し考えを改めてほしいところですね。勉強という漢字は「強いられて勉める」で受け身の姿勢です。しかし、学問は「学んで問う」、研究は「研ぎ澄まし究める」で主体的な姿勢、まさしく探究です。その姿勢は、大学の学びにおいても、社会人として生きるうえでも、とても重要だと思います。

福本 知識は蓄えるだけでは意味がない。多様な組み合わせを考え、使ってこそ価値がある。「学んで問う」は教科としての「探究」にとどまらず、あらゆる学びの場面で求められる姿勢、まさしく「教養」であると言えます。今後、中学高校での探究活動がさらに高まっていくことを期待します。

「勉強」と「学問」、 「研究」の意味を考える

滝澤 中学高校での探究経験は、大学にとっても歓迎すべきことです。本学には以前、各学部の1年生が集まって探究活動をする基礎ゼミがありました。それを2022年に少し見直して、基礎ゼミを「学問論」という新しい科目に切り替えたのです。学問とは何か、学術はどう成り立ってきたか、大学の歴史とはどういうものか、そこから始め、半年後からテーマを決めて演習をするかたちにしました。

福本 それは中学高校での探



神田女学園中学校高等学校



from the School

教務部探究主任 江森華子先生

文理を問わず好きなことを深めることができ、学ぶ力をつける環境が整っている学校です。

学ぶ力を未来につなげる 探究学習「ニコルプロジェクト」



英語、数学、国語は習熟度別クラス編成で細やかな授業を行う。第二外国語担当も含めネイティブ教員15人が在籍している。



「ニコルプロジェクト」のフィールドワークでトルコ大使館を訪ね、大使の話进行。



共立女子大学を訪問し教授からキャンパスライフや大学での学びについての講義を受ける。高大教育連携によって学問の奥深さに触れる。



高校グローバルコースでは全員に留学の機会がある。ダブルディプロマプログラムのエリアは英米豪ほか全5カ国。



3月に開催される「ニコルアワード」で、1年間の探究学習の成果を発表し共有する。



亀田医療大学・亀田メディカルセンターを訪問。

高大教育連携により 広がり、深まる探究活動

中学から始まる多言語教育や、世界各地に提携校を持つ研修・留学プログラムなど独自のグローバル教育で知られる神田女学園中学校高等学校。世界に向けて視野を広げる一方、もう一つ、同校の教育の柱となっているのが、「ニコル(NICOL)プロジェクト」だ。

「NICOLのNはNature(自然)、CはCulture(文化)、LはLife(生命)。この3分野に関わるテーマを一人ひとりが設定し探究活動を行います。生徒の興味関心からスタートすることを徹底し、中高それぞれ3年間は継続して自分のテーマを掘り下げていくところに本校の特色があります」と教務部探究主任の江森華子先生。導入となるワークショップでは、ガイダンスのほか、大学教授による講演なども行い、小さな疑問をリサーチクエストに落とし込めるよう、丁寧に道筋をつけていく。全校一斉にフィールドワークに出かける日は、生徒にとって特別な機会。高大連携をしている大学のほか、省庁や大使館、企業など、テーマに合わせて訪問する。高校生の中には、訪ねた研究室で、より詳しい人を紹介していたたく生徒もいるという。

年度末の「ニコルアワード」で発表し、大学関係者などからフィードバックと表彰を受ける。例えば、ある受賞者のテーマは、「犯罪加害者家族の人権問題」。この生徒は当初、

国内調査だけの予定だったが、途中から海外に目を向け、イギリスとインドの支援団体・研究者にオンラインインタビュー。その比較を論文にまとめた。「3年間は同じテーマで探究するのが原則ですが、興味関心の変化や志望する進路によって視点を変えたり、範囲を広げたりする生徒もいます」

こうした探究活動の成果は、大学受験の総合型選抜でも生かされている。選抜のための小論文を生徒は互いにチェックし、足りない部分は何かなど意見を言い合うという。「これこそが身に付いた探究の力だと感じます」と江森先生。

高3生は、「探究をやっていた良かったと思える日が来るよ」と後輩に口を揃えて助言。創立134年を迎えた女子校の新しい伝統が始まっている。

School Data

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-3-6

☎03-6383-3751

<https://www.kandajogakuen.ed.jp/>

- 創立 1890年
- 交通
 - JR総武線・都営三田線「水道橋」駅から徒歩約5分
 - 東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線「神保町」駅から徒歩約5分
 - JR中央線・東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅から徒歩約10分
 - 東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅から徒歩約12分
 - 東京メトロ東西線「九段下」駅から徒歩約12分
 - 東京メトロ丸ノ内線・東京メトロ南北線「後楽園」駅から徒歩約12分



from the School

グローバル教育部副部長
ロバート・キンブル先生体験を通して学んだことは長く
自分の中に残ります。教室の外
での学びを大切にしてください。

実践女子学園中学校高等学校

Homepage

英語サイエンスキャンプで身に付ける
実践力と探究力上/箱根湿性花園では火山によってできた
湿地帯の植物や地形を観察。左/神奈川県温泉地学研究所で箱根の火山
についての解説を聞く。質問はあらかじめ
英語で準備した。左/大涌谷で採取し
た溶岩を、顕微鏡を
使って観察した。右/10名のネイティブ
教員による授業で
英語を使いながら学
ぶ。中学の英語はレ
ベル別少人数授業を
実施。オリジナルの探究授業「未来デザイン」では、中
1から高2まで5年間かけて自分と世界の関わり
を学ぶ。プレゼンテーションの力を磨く機会
でもある。箱根で伸ばす
科学と英語、探究する力探究
首都圏今年5月に創立125周年を迎え
た伝統校。日本の女子教育の先駆者
下田歌子を校祖とし、「女性が社会
を変える、世界を変える」という建
学の精神を今に受け継いでいる。近年は独自の探究科目「未来デザ
イン」(中1・高2)を展開。「国際・異
文化理解」「環境」「社会・経済」の
三つのテーマで、中高生にとって身
近なことから社会課題を掘り起こし、
答えのない課題に向き合っている。

同校で、中学生の希望者を対象に
3年前から行われている「サイエン
スイングリッschussキャンプ」は、サ
イエンスとグローバルの学びを探究
につなげるプログラムだ。コロナ禍
だった3年前は校内の植物を使った
草木染めに挑戦、翌年は千葉県に出
かけ、海の生き物や環境について学
んだ。昨年は希望者38人が箱根に2
泊し、箱根ジオミュージアムや神奈
川県温泉地学研究所、大涌谷などを
訪ね、火山の仕組みや地殻変動、地
熱エネルギーなどについて学んだ。

キャンプ期間中は、ネイティブ教員
の指示が英語で行われたほか、実
験・観察の際の生徒同士の会話も基
本的に英語、温泉地学研究所の研
究員への質問も英語で準備した。

「英語が得意でない生徒も参加しや
すいように、サイエンスをメインテ
ーマにしています。キャンプで体験
を通して学ぶ英語は、机に向かって
暗記する勉強とはまったく違いま
す」とグローバル教育部副部長のロ
バート・キンブル先生。

宿舎で過ごす時間帯にも大きな学
びがあったという。最終日に行うプ
レゼンの準備のために、学んだこと
を振り返り、自分たちの考えをまと
める作業に熱中していたグループも
あれば、さまざまに工夫した理科の
実験を楽しんだグループもあった。

それぞれが自分の関心に応じて集
めた時間を過ごせたことに意味があ
った、とキンブル先生は考えている。

「自分と世界がつながっていること
を知り、自分が世界とどうつながる
かを考えるのがグローバル教育です
そのための土台として不可欠な、自
分自身を知るためのさまざまな経験
を『サイエンスイングリッschussキャン
プ』ではたくさん用意しています」

体験を通して英語の力を伸ばしつ
つ、興味があることに自主的に取り
組む。3日間のキャンプで生徒
は大きく成長する。

考え抜かれたさまざまなプログラ
ムが用意されている実践女子学園中
学校高等学校には、これからの世界
を生きるための力を伸ばす学びがあ
る。

School Data

〒150-0011
東京都渋谷区東1-1-11
☎03-3409-1771
https://hs.jissen.ac.jp/

- 創立 1899年
- 交通 ● JR・京王井の頭線・東急線・東京メトロ各線「渋谷」駅から徒歩10分
- 東京メトロ千代田線ほか「表参道」駅から徒歩12分

コアネットの

多彩なインプットと豊富なアウトプットで確かな成長▶生徒自身の考えをアウトプットする機会が豊富な実践女子。プレゼンテーションで自身の考えを振り返ることで、意見はより深まり、数を重ねることで成長を感じ取れると教員は言う。さまざまな取り組みに対する生徒たちのこのような姿勢にも、結果以上に過程を重視する同校の姿勢が大きく影響しているだろう。



女子聖学院中学校高等学校



from the School

塚原隆行教頭

長い人生のさまざまな場面で、自己実現できるための力を本校で身に付けてください。

「じぶんを、育み じぶんを、活かす」 中高6年間の体験が未来につながる



左／「マイ・コンパスプロジェクト」では自分なりの考え方を持つことの大切さと、その方法を学ぶ。ポスター発表で自分の考えを述べる。

下左／立教大学の館野泰一准教授によるシェアド・リーダーシップのワークショップ。

下右／1人1台のiPadは、さまざまな場面でツールとして活用されている。善き使い手となることを目標にデジタル・シティズンシップ教育にも力を入れる。



上／入学式などの式典は礼拝形式でチャペルで行う。毎朝の礼拝は中高でチャペルと教室に分かれて行う。



右／有志が課外活動として行う「SDGsプロジェクト」は聖学院の男子生徒と協働でテーマを決めて活動する。



チームで課題に取り組み シェアド・リーダーシップ

1905(明治38)年創立のプロテスタント系女子校。キリスト教精神「神を仰ぎ人に仕う」の下、社会の中で自分を活かし、主体的に考え、表現できる人を育てることを教育目標としている。そのための柱としてGlobal Arts教育やExperiential Learningを掲げ、独自の人間教育を展開している。

「Global Arts教育は、教養と技術を身に付け、課題に対する創造的な解決策を探究する学びです。日常の事柄から宇宙のことまで、課題は広く存在することを考えていきます。Experiential Learningは体験的な学びです。特別な体験学習だけでなく、行事や委員会活動なども体験的な学びの場と捉えて成長につながります」と、教頭の塚原隆行先生。

こうした考え方を土台に、2021年から始まったのが総合探究「マイ・コンパスプロジェクト」だ。中1から高2まで成長段階に合わせたテーマを設け、マイ・コンパス(自分軸)を立てるための探究型学習。例えば中1のテーマ「学習方略」は、自分に合った学びの方法を探っていくもので、学習基盤を築く活動となる。

探究型学習にデジタル・シティズンシップ(デジタル媒体の善き使い手となる)教育とシェアド・リーダーシップ(全員が場に応じてリーダーになれる)教育を内包させている点も、特徴だ。特にシェアド・リーダーシップ教育

については、この分野で先進的な研究を行っている立教大学経営学部准教授の館野泰一先生によるワークショップを開催し、力を入れている。「たとえ少人数でも、今いる場所・チームの目標達成のために動ける力がシェアド・リーダーシップです。これこそが社会で必要とされる力であり、誰もが学習可能です」と塚原教頭。館野准教授のワークショップでは実践的な課題を設定し、各自が自分の役割を果たす体験を繰り返しながらシェアド・リーダーシップを身に付けていく。

「マイ・コンパスプロジェクト」の初年度に中1だった、現・高1生にちよつとした変化があったという。生徒会役員立候補者が例年にないはり多かつたのだ。しかも、各立候補者は、学校のため生徒のために、「自分はこう考える。こうしていきたい」と、今までにないほど鮮明に主張したという。教育の力を信じ、実践する場として、女子聖学院の未来は明るいと感じさせるエピソードだ。

School Data

〒114-8574
東京都北区中里3-12-2
☎03-3917-2277
<https://www.joshiseigakuin.ed.jp/>

- 創立 1905年
- 交通
 - JR山手線「駒込」駅から徒歩約7分
 - 東京メトロ南北線「駒込」駅から徒歩約8分
 - JR京浜東北線「上中里」駅から徒歩約10分

コアネットの

自分に合った学び方を通して、主体的に学ぶ力を身に付ける ▶ 生徒の主体性を大事にする女子聖学院。運動会などの学校行事をはじめ、生徒の主体性が光る機会を多く用意している。学習においても主体性の育成に力を入れているのが同校の魅力のひとつだ。探究プログラムの中で、中学1年生は入学直後から、時間をかけて、「学び方」について考えていく。自分に合った学び方を発見し、その後の人生に役立つ主体的に学ぶ力を身に付けていく。



from the School

教育研究係主任 川邊健司先生

中学の探究プログラムで、得意を生かして協働する“シェアーリーダーシップ”を育てます。

東京家政学院中学校・高等学校

Homepage



SDGs特化型の探究活動を展開する 社会に貢献できる女性を育てる伝統校



上/中1・中2合同で行う「ポストナビ」で、江戸手描提灯の店を取材。

下/全学年が参加して探究活動の成果を報告するGPA(Global Presentation Award)。情報収集、資料作成、発表スキルと、キャリア形成につながる力を身に付ける。



「奥多摩SDGsツアー」では多摩川でラフティングを体験。川に浮かんでいるゴミをボートから拾ったり、河原のゴミを拾ったりした。



あじさい山では住民から地域に対する思いを聞いた。普段出会わないさまざまな大人の話聞くことが、成長の糧になる。



秋川渓谷では大岳鍾乳洞探検も。地層や化石について学んだ。

SDGsツアーから始まる 新たな探究プログラム

創立は1923年。建学の精神「知識を高め、技術を磨き、徳性を養う」を掲げ、社会に貢献する自立した女性を育成してきた。近年はSDGsをテーマとした探究プログラム(中1〜高2)が、持続可能な社会に向けた実践的な教育活動に与えられる「ESD大賞」の最優秀賞(文部科学大臣賞)を受賞するなど、高い評価を得ている。

注目すべきは中学の探究プログラム。中1・中2混合の「ポストナビ」は、千代田区内の商店や事業所をSDGsの観点から取材し、課題解決に向けたアイデアをポスターで発表する。「上級生が下級生をリードする中で自信をつけ、自己肯定感の醸成にもつながります」と教育研究係主任の川邊健司先生。

2023年度からは新たに、中2の7〜11月に取り組む「Tokyo SDGs Quest」がスタートした。舞台は、過疎化に伴う課題を抱える奥多摩地域。現地の人々からミッションを与えてもらい、若者視点で解決策を模索していくプログラムだ。活動の導入として、2年生全員が夏の「奥多摩SDGsツアー(2泊3日)」に参加する。昨年は、多摩川をきれいにするリバークリーン体験に始まり、地域住人が自らの所有する山に50年をかけて植栽し続けたという「南沢あじさい山」を探索したり、ネイチャーガイドの案内で高尾山に登り生

School Data

〒102-8341

東京都千代田区三番町22

☎03-3262-2559

https://www.kasei-gakuin.ed.jp

●創立 1923年

●交通

- JR中央・総武線「市ヶ谷」駅から徒歩約8分
- 東京メトロ南北線・有楽町線・都営新宿線「市ヶ谷」駅から徒歩約8分
- 東京メトロ半蔵門線「半蔵門」駅から徒歩約8分
- 東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅から徒歩約10分

物多様性について学ぶなどした。「限界集落に住むお年寄り」と触れ合い、地元の人々の声を聞く中で、生徒は奥多摩地域の課題を自分ごととして捉えるようになります」

その後、個々が作成した振り返りシートを基に、「多摩川リバークリーン」「森林復興」「集落魅力発見」の3プロジェクトに振り分けられた生徒は、チームごとに課題設定と情報共有、現地再調査、解決策の提案へとプロセスを踏んで探究の基礎スキルを身に付けていく。

「昨年秋のプレゼンでは、インバウンド客を『南沢あじさい山』に誘致するための英語ガイド動画を発表するチームもあり、伴走する私たちにとつても、生徒が持つ資質・能力を発見できるいい機会になりました」

バージョンアップを止めない同校の探究プログラムを通して、生徒がどんな「気付き」を得て成長を遂げていくのか、期待が高まる。

コアネットの

生徒の資質を磨き、伸ばす教育▶東京家政学院中学校・高等学校の特徴は、資質を可視化するツールを使って、生徒の「強み・弱み」を先生だけでなく生徒自身も把握できるという点である。可視化されたデータを基に、先生も生徒も強みを伸ばすためにどのようなことをしていけばいいかを考える。こういった自己理解を通して、生徒はより良い進路決定を行っていくのだ。



東京女学館中学校・高等学校



from the School

井上 聡副教頭

自主性を重んじ、他者と協働して未来を見据える「探究活動」。この経験が生きる力を育みます。

社会と自分のつながりに気付き、課題発見力を磨く「探究活動」

右／北里大学、東京女子大学、津田塾大学と高大連携協定を結んでいる。大学教員による探究導入講義は最先端の研究に触れる貴重な機会だ。下／「総合的な探究の時間」では生徒同士で意見交換をしながら自分のテーマを決めていく。



「国際学級」で行われている校内模擬国連の授業。全学年に1クラスずつある「国際学級」では英語と異文化理解に特化した教育が行われている。



卒業生でチューターの松永真理子さん(立教大学大学院博士課程)。「探究活動」をサポートする。



左／「探究活動」の総仕上げとして、3月には高2学年全体で優秀作発表会を実施した。優秀作に選ばれた生徒たちのコメントは同校ホームページを参照。

近年、理系学部を志望する生徒が増加中。授業で学んだ力学を応用して空き箱で作ったロボットで、障害物をクリアするコンテストの様子。



2年間をかけて丁寧にテーマを追いかける意義

創立は1888(明治21)年。女子教育の草創期に開校した伝統校の一つで、「高い品性を備え、人と社会に貢献する女性の育成」を教育目標に掲げる。近年は、インクルーシブリーダーシップ(課題を共有し、おののが主体的に協働する包括的なリーダーシップ)や、グローバルシティズンシップ(多様な世界の一員として自らを相対化する視点を持ち、社会課題に対して行動する力)といった、新しい教育の軸が注目されている。研修旅行を含む学校行事はもちろん、日々の教科学習においても「自ら問題を発見し解決する力」の大切さを根本に置き、そこを狙いとする仕組みをつくってきた。

例えば、長年続けてきた「高1課題研究」は、個人で設定したテーマを最終的に論文としてまとめる、まさに探究型の学びだった。2022年からの新カリキュラム「総合的な探究の時間」は、この「高1課題研究」を土台にして構築。高1・高2の2年間を使って自分のテーマを追い、学術的な論文を書き上げる女学館版「探究活動」だ。

この学びの最大の特徴は、課題発見に1年間を費やすことである。「生徒たちがまず悩むのはテーマ決め、つまり課題発見です。元から好奇心と意欲があり、どんどん進められる生徒もいますが、そうではない場合も多い。身近な興味関心を掘り起こし学問的な問いを立てる過程こ

そ、探究活動の醍醐味ですから、時間をかけて丁寧に進めていきます」と井上 聡副教頭。

テーマ選定は高1進級前の春休みに始動。ワークシートを使って段階的に考えつつ、1学期には高大連携協定を締結した大学の教授による探究導入講義を聞き、テーマ選定のヒントを得る。

その後もグループワークを繰り返して、互いのテーマについて意見交換。類似のテーマでもさまざまな論点があり、アプローチに違いがあることを学んでいく。夏休みには外部施設を訪問して研究材料を収集。その後グループ発表を経て、高1の最後によくやくテーマを決定する。

高2の論文執筆では、担当教員が個別指導に当たるほか、チューター(松永真理子さん)が学術論文の書き方を講座で指導する。2年間の成果は「探究論文集」としてまとめられ、タイトル一覧にはさまざまなテーマが並び、同校探究活動の奥深さがうかがえる。一人ひとりが選んだテーマを尊重し、段階を追って丁寧に伴走する。この手厚さは、同校の校風を象徴するものと言えるだろう。

School Data

〒150-0012
東京都渋谷区広尾3-7-16
03-3400-0867
<https://tjk.jp/mh/>

- 創立 1888年
- 交通 ● 東京メトロ日比谷線「広尾」駅から徒歩約12分
- 「渋谷」駅、「恵比寿」駅から都営バスで約10分「東京女学館前」下車すぐ

コアネットの

東京女学館の新たな魅力！ 生徒の力を伸ばす探究活動 ▶ 東京女学館では、探究の授業に限らず各教科の授業においても発表する機会が多数あり、生徒たちのプレゼンテーション能力は非常に高い。また、2024年度に創設20周年を迎えた「国際学級」では、英文による探究論文を仕上げる生徒もいる。定評のある英語教育に加え、学びを深める「探究活動」も同校の魅力となっている。



from the School

教務部長
進路指導部長 鈴木俊典先生
探究学習や課外活動での経験と
出会いをきっかけとして、自分
の視点を獲得してください。

横浜女学院中学校高等学校

Homepage



視野を広げる学びと体験の6年間 チャレンジな女子が育つ伝統校



鳴子にてCHP（発電と熱供給を同時に行うシステム）の仕組みについてのお話を伺い、システムを導入している施設を見学。



森林を保全しながら利用する持続可能な林業についてのお話を伺い、樹木の伐採を体験。



東北大学川渡フィールドセンターでは、バイオマスエネルギーについての講義を受けた。



東北大学青葉山キャンパスにある次世代放射光施設「ナノテラス」を見学。最先端の研究を目の当たりにし、科学の可能性について学んだ。



Assembly（全校集会）では、校内外の活動に参加した生徒が、その活動の成果を全校に共有。発表する生徒は自身の学びを振り返り、聞いている生徒は刺激を受け、学校全体にチャレンジ精神が伝播する。

挑戦と意欲を後押しする 鳴子スタディツアー

横浜女学院中学校高等学校は、キリスト教を土台にした人間教育に特色のある学校だ。予測不能な未来を生きる生徒たちに必要なコンピテンシー（能力・行動性）を重要視し、「自ら行動し、隣人（目の前の他者）を愛し、世の中に働きかける力」を6年間かけて付けていく。その一環として、中1〜高2の探究型の教育プログラム「ESD（持続可能な発展のための教育）を9年前から導入。論文発表など多くの成果を上げている。

世界観を広げ、視座を高める体験型学習の機会も豊富だ。全員参加の海外研修や宿泊行事のほか、希望者を募って実施する課外活動も年々多彩になっている。例えば2023年度は、スタディツアーとして、高2希望者が鳴子温泉（宮城県）を訪ねた。担当の鈴木俊典先生によると、ツアーのアイデアは、「教室で使用している木製の机と椅子は、どこで製作されているのか？」という疑問から生まれたという。

「製作所は鳴子にあり、地域の森林のカスケード利用（家具材や建材としての利用から未利用材のエネルギー化まで、樹木を余すことなく使い切る）の一環として、本校の机とイスが作られていることがわかりました。鳴子を訪ね、製作所代表の大場隆博さんに、森林を持続可能な資源にするための課題や、地域社会とのつながりについて伺い、生産の現場にも足を運びまし

た」
樹木の伐採体験、加工工場見学を行ったほか、東北大学大学院農学研究科附属の教育研究施設、川渡フィールドセンターでバイオマスエネルギー研究の一端に触れ、東北大学青葉山キャンパス（仙台市）を訪問。産業と学問が果たす役割と結び付きを目の当たりにした生徒たちからは「もっと勉強しなければ」という声が上がったという。

「生徒たちは自分たちの生活圏を中心とした視点を持ちがちなので、地域の課題を探究するスタディツアーは視野を広げるためにとても有効です。今後も開催していく予定です」と鈴木先生。

一方、同校には日本赤十字社の国際交流事業や海外ボランティア活動などに、個人で参加する生徒も多い行動を起こした生徒の成果を共有する「Assembly」（全校集会）で、先輩の話聞いた中学生は「私もやりたい！」と目を輝かせる。その意欲を教員も先輩も応援する。チャレンジングな生徒を育てる校風は、横浜女学院の伝統といえるだろう。

School Data

〒231-8661
神奈川県横浜市中区山手町203
☎045-641-3284
https://www.yjg.y-gakuin.ed.jp/

- 創立 1886年
- 交通 ● JR京浜東北根岸線「石川町」駅から徒歩約7分
- 横浜市営地下鉄ブルーライン「伊勢佐木長者町」駅から徒歩約18分



関東学院中学校高等学校



from the School

森田祐二校長

生徒がお互いに教え合って、考える力を高めていく授業があるのも本校の特色です。

新設の教育ビジョンに基づき 他者愛、利他の精神を育む



韓国、台湾、沖縄から選ぶ高2の研修旅行。「地域人材プログラム」をグレードアップさせた「方面別探求ツアー」になっている。左は台湾の長栄高級中学との交流。上は沖縄ブックホテルでのプログラム。



中3の研修旅行は、広島と長崎のどちらかを選ぶ。「愛を破壊する究極の行為、戦争」について、原爆を足掛かりに考える。



右/高1・2生対象のイートンカレッジ・サマープログラム。イギリスのパブリックスクールの生活を肌で感じる。



左/第31回嘉義市国際音楽祭にマーチングバンド部が招待され、パフォーマンスを披露した。



オーケストラ部のメンバーが、クルト・シュミット氏による演奏指導を受けた。

多様な学びを基調とする 探究体験が特色

横浜バプテスト神学校をルーツとし、大正時代に創立された関東学院中学校高等学校。キリスト教精神に基づき「人になれ奉仕せよ」を校訓とする伝統校である。

同校の特色については、2021年に着任した森田祐二校長は「学びの多様さ」を挙げる。

「理科実験教室が5室あり、中1から実験を中心とした学びを進めています。一方、芸術面ではオーケストラ部の部員が約160名もいます」韓国語や中国語、アントレプレナーシップ、プログラミング、茶道、華道などの教養講座も多い。「多様な学びの選択肢から、好きなものを選べる学校」だと言う。

その特色をベースとして、森田校長は新たな教育ビジョン「Olive STR EAM」を提唱し、教育改革を進めている。「STR EAM」は STR EAM に「R = Religion (宗教)」を加えたもの。同校の多様な学びをつなぎ合わせる教育理念だ。

「英語4技能、ICT、探究など、現代社会に対応するスキルが生徒たちに必要とされていますが、本校が問うのは『その先に求めるものは何か』です。それが『R』、すなわち他者愛、利他の精神なのです」

その学びで特徴的なのが「人に会う」ことに焦点を当てた探究活動だ。中1では街を歩いてフィールドワークする「横浜ロゲイニング」、中2

では地域企業を体験する「横浜SDGS企業連携」などがある。

さらに高1では、グループ単位で全国12カ所を訪ねる「探究ショートツアーQST」が実施される。対象となるのは、各地で地域課題の解決に取り組む活動のキーパーソンだ。北海道赤平市の宇宙ロケット開発、宮城県大崎市の森林再生、徳島県上勝町の循環型まちづくりなど、同校の教員が選ぶ対象地の取り組みは、多岐にわたる。事前に動画を見て自分たちに何ができるかを考え、会いに行く現地のキーパーソンとオンラインで意見交換もする。

「今は何でもネットで簡単に調べられますが、現場で奮闘する方の熱量を直に肌身で感じ取ることは大切です。それが好きなこと、関心のあることを突き詰めていく、生徒の自己変容につながるかと考えています」と森田校長は言う。

中3の広島・長崎(選択)、高2の韓国・台湾・沖縄(選択)への研修旅行も、単なる見学の旅ではなく、探究学習として組み立てられている。伝統に培われた「多様な学び」のさらなる進化が期待される。

School Data

〒232-0002
神奈川県横浜市南区三春台4
☎045-231-1001
<https://www.kantogakuin.ed.jp/>

- 創立 1919年
- 交通 ● 京浜急行「黄金町」駅から徒歩5分
- 横浜市営地下鉄ブルーライン「阪東橋」駅から徒歩8分

コアネットの

オーケストラ部、マーチングバンド部など音楽で世界とつながる▶ 関東学院は部活動も盛ん。なかでも音楽系のクラブの活躍の場は世界に広がっている。マーチングバンド部は、今年1月に台湾政府からの招待を受けて、国際音楽祭に参加。オーケストラ部はルガンスク交響楽団の名譽指揮者、クルト・シュミット氏が来日した際に共演し、指導を受けるなど、音楽を通じて生きた英語を実践する機会となっている。



from the School

吉田宏一 中学教頭

人と関わりながら物事を進め、自分を成長させていける環境や機会を、さらに整えていきます。

駒込中学校・高等学校

Homepage



人間力を育む仏教校の伝統と 先端技術の学びは、探究学習を深める



昨年、中1と中2全体で実施したSTEAM講座。グループで1枚の段ボールから電動自動車を作り、プログラミングで動かすという課題に挑戦した。



上/東京理科大が研究する「宇宙教育プログラム」が実施された。「宇宙食を作ろう!」&「宇宙にメッセージを送ろう!」という2つのプログラムに取り組んだ。
右/探究講座をサポートした国語科の上妻美江先生。



中2で行う日光山研修。坐禅や写仏、写経を通して自分自身と対峙する。自己への気づきの学習だ。



「宇宙教育プログラム」の研究内容を実際に宇宙に送った様子。

高大連携で中学から学ぶ プログラミング講座

天台宗の開祖・最澄の言葉「一隅を照らす」を建学の理念とする駒込中学校・高等学校。仏教に基づく、人間教育を支柱とする。仏教修行を体験する中2の日光山研修と高1の比叡山研修は、利他の心を学ぶ同校を代表する行事だ。

一方で、グローバル教育やICTを活用した学習環境の整備、また、いち早くSTEAM教育(STEAMに追加されている「A」は「ART」芸術教育)を導入し、教科横断・文理融合型の授業を展開する先進校でもある。高校は3コース制で、世界的な視野と知識を備え、社会課題の解決力を養う「国際教養コース」、探究学習を中心に理数の専門的な力を育成する「理系先進コース」、希望する大学進学に向けて総合的に学びを深める「特S・Sコース」を設置。

一方、中学は「国際先進コース」の1コース制とし、先述の高校3コースへとつないでいく。「仏教を礎にした人間力を基盤に、国際性豊かな感性を備え、常に好奇心を持って将来へ向かってもらいたい。そして、自身の望む仕事に就けるよう向上心を高めていける生徒を育てたい」と吉田宏一中学教頭は言う。

同校を特徴づける「理系先進」のSTEAM教育は、埼玉大学STEAM教育研究センターと連携して行われている。ロボットプログラミングなどの科学技術を用いて、身近な社

会課題の解決法を見いだしていく探究学習だ。

「そのエッセンスを中学生にも体験してほしいと、希望者対象の課外授業としてSTEAM講座やプログラミング講座を開講しました」

中学生向けの埼玉大学との連携講座は、コロナ禍により一時中断したが、昨年度より再開。また、このほかにも東京理科大学や東京都大学などの連携講座も実施されている。そのひとつ、東京理科大学の学生による「宇宙教育プログラム」は、文字通り宇宙を題材にした探究講座。宇宙ステーションで食べる宇宙食の開発と、宇宙に発信するメッセージをつくるというものだ。

「そのメッセージは、実際に宇宙へ発信しました」と言うのは、一連の探究講座を補佐した上妻美江先生。「数学や理科といった教科の枠を超えて考え、生徒たちが悩み抜いて、試行錯誤しながら挑戦する姿は素晴らしいと思いました」

同校では10年、20年後の世界を想定した先端技術の応用が、探究学習として取り入れられている。

School Data

〒113-0022
東京都文京区千駄木5-6-25
03-3828-4141
<https://www.komagome.jp/>

- 創立 1682年
- 交通
 - 東京メトロ南北線「本駒込」駅から徒歩約5分
 - 東京メトロ千代田線「千駄木」駅から徒歩約7分
 - 都営三田線「白山」駅から徒歩約7分

コアネットの



GMARCH以上の合格者が352人へ▶探究的な取り組みが充実している同校だが、基礎学力の育成においてもさまざまな取り組みを行っている。中学では自分自身で課題を決めて家庭学習に取り組む「自学ノート」を2022年度よりスタート。主体的な学習を通して、学力向上を実感する生徒が増えているという。2024年3月卒業生の国公立大を含むGMARCH以上の合格者は過去最多の352人に。今後も同校から目が離せない。

青稜中学校・高等学校



from the School

青田泰明校長

「楽しくなければ学校じゃない」と思っています。新しい価値観を皆でつくり上げましょう。

Homepage



新しい価値観を創出できる 非認知能力を高く伸ばす6年間



SDGsゼミは青稜祭にも参加。試食会を開催した。



中学の修学旅行は広島で平和学習を行い、京都では世界に誇る文化財を巡る。



上・左/青稜中・高のSDGs部と「るるぶ」編集部が協力し、約8カ月間かけてガイドブックを作成。部員たちは、SDGsに取り組んでいる区内施設などを取材し、編集作業も行った。右/青稜生が企画編集した「るるぶ特別編集品川区SDGs」



生徒が主体的につくり上げる青稜祭。一大イベントだ。



知的好奇心を刺激し、 社会とつながる青稜ゼミ

建学の精神「社会に貢献できる人間の育成」を大切にする青田泰明校長の下、新しい教育のカタチを次々と打ち出している青稜中学校・高等学校。「現代社会が重視する『社会に貢献できる人』とは、新しい価値観の創出を目指して挑戦し続ける人だ」と考えています。そのために本校では、教科教育とは別に、生徒たちがワクワクしながら非認知能力（意欲自己肯定感、社会的能力など）を伸ばしていくことができるギミック（仕掛け）をいくつも用意しています」

2020年から始まった、教員たちが趣味や得意分野を全開にして開講する青稜ゼミ（中2・中3混合）はその代表格だ。「西洋音楽史入門」や「思考力養成講座」といった学術的なゼミもあれば、マンガやアニメ作品に込められた社会的メッセージを読み解いたり、気象観測を通して地球温暖化問題へアプローチするゼミもあり、受講を機に自分の興味関心事に目覚めた生徒は、教科学習にも意欲を見せるという。

「学校という場所は社会へのゲートであり、教科の勉強がいかに世の中の営みとつながっているか実感してほしい。そんな狙いがあり、青稜ゼミをハブとして企業や自治体などとの連携がどんどん進行中です」

例えば、青田校長が開講するSDGsゼミでは、フードロスをなくすレシピを考案。品川区内の大手食品

宅配業者とコラボして商品開発を行い、区役所の食堂での販売も実施。こうした外部との連携は部活動にも派生し、SDGs部は昨年度、品川区と雑誌「るるぶ」編集部と協働し、「サステナブルなまち品川」を青稜の生徒が紹介する特別編集のガイドブックを出版。行政や編集のプロに指導を仰ぎながら、取材から編集まで生徒たちが手掛けた。

昨春から新しい試みもスタートした。ウェブ上に学校関係者用プラットフォームを立ち上げ、部活動や学園祭などの運営資金を保護者、卒業生やその家族などから募るクラウドファンディング活動だ。

「どんなプレゼンが人の心に刺さってお金が集まるのか。試行錯誤しながらワクワクした表情でアイデアを出し合う生徒の姿が印象的です。高校の家庭科に導入された金融教育の体験型学習にもなっています」

「挑戦」を合い言葉に、斬新な取り組みが自然なカタチで教科学習にフィードバックする6年間。青稜だからこそ得られる成長がそこにある。

School Data

〒142-8550
東京都品川区二葉1-6-6
☎03-3782-1502
<https://www.seiryo-js.ed.jp/>

- 創立 1938年
- 交通 ● 東急大井町線「下神明」駅から徒歩約1分
- JR京浜東北線・りんかい線「大井町」駅から徒歩約7分
- JR横須賀線「西大井」駅から徒歩約10分

コアネットの

学校の「外」とつながる挑戦の数々とその魅力 ▶ 子供たちのやりたいことがアウトプットされるよう、さまざまな取り組みを行っている。社会とつながるハブの役目となるべく、多くの企業とのコラボや学校専用のクラウドファンディングサイトの立ち上げなど、多様な挑戦が見受けられる。生徒も先生も挑戦をし続ける同校ならではの魅力を、ぜひ一度訪れて感じてほしい。



from the School

幸田諭昭校長

本物に触れる実学体験を数多く用意しています。さまざまな体験を重ね、知を耕してください。

東京農業大学第一高等学校中等部

Homepage



「夢の創造と実現」に向けて
「共創し、新たなステージへ」



上/一中一高ゼミ「走り方講座」では、長距離走大会に向けて、講義と実技指導が行われた。



左/新校舎のラウンジ。自習やグループワークなど、大勢の生徒が利用する。



上/OBが開催した一中一高ゼミ、「建築講座」。模型製作を通して、建築とは何か、大学の建築学科はどんな所かなど、建築の楽しさを伝える。

右/生物部の研究は全国レベル。昨年、第67回日本学生科学賞、2年連続東京都最優秀賞受賞。全国大会でも、2年連続の入選1等となる快挙だ。



厚木にある専用農場で、専門職員の指導の下、稲作を経験する。その苦労や食のありがたみを体感。



北海道自然体験研修では、3泊4日で北海道東部の自然に触れる。写真は新巻鮭作り。

充実度の増す学習環境で
生徒たちの学びが加速

2025年度から高校募集がなくなり、完全中高一貫校となる東京農業大学第一高等学校中等部。「知耕実学（本物に触れる実学を通して知を耕す）」という教育理念を掲げる。中等部で取り組む稲作体験とお米の科学、味噌づくりを通して発酵の仕組みを知る学習をはじめ、特色ある実学体験の数々を用意している。その揺るぎない知耕実学の精神と教育目標の「夢の創造と実現」を具体的に、つなぐキーワードとして、幸田諭昭校長は「共創」という言葉を挙げる。「教員と共に、先輩と共に、世界と共に。文字通り、共に何かを創りあげる学びを推進し、完全中高一貫校として新たなステージを目指します。その機運の高まりが、本校で着々と醸成されていると感じています」

放課後に開講される一中一高ゼミは、「共創」を促す絶対の舞台。教員たちが自分の得意分野をテーマに開講し、生徒は学年を問わず、自由参加で興味のあるゼミをいくつでも受講できる。1回完結のものもあれば、連続で開かれるゼミもあり、その数は年間80講座にも及ぶ。実践とディスカッションを伴う双方向授業である点も特徴だ。ゼミの経験から外部コンテストに挑戦する生徒も増え、毎年受賞者も出ている。

近年、卒業生が講師を務めるゼミも誕生している。例えば、大学で建築学を研究するOBによる「建築講

School Data

〒156-0053 東京都世田谷区桜3-33-1
☎03-3425-4481(代)
https://www.nodai-1-h.ed.jp/

- 創立 2005年
- 交通
 - 小田急線「経堂」駅から徒歩約15分
 - 東急世田谷線「上町」駅から徒歩約15分
 - 東急田園都市線「桜新町」駅から徒歩約20分
 - 東急田園都市線「用賀」駅、JR「渋谷」駅から東急バスか小田急バスで、「農大前」または「農大一高前」下車、徒歩約3分

座」では、発見された古い図面を基に、同校にかつて存在した建物を発掘スチロールで再現。また、卒業生によるプログラミング講座が、オンラインで開講されている。「一中一高ゼミを通して、卒業生らが自分も母校のゼミを応援したいと名乗りを上げてくれる、そんな連鎖が生まれています」と幸田校長。

「共創」の連鎖は学習指導にも波及している。東大早慶などの難関大に在籍する卒業生らが中心となり、放課後に教科学習指導や進路相談を行うチューター制度も導入。さらに昨年度から、はじめての中間試験に臨む中学1年生に向け、中学3年生が心構えを伝授する取り組みもスタートした。いずれも希望者対象だが、参加者が続出しているという。

そんな彼らが集う「共創空間」が、昨年11月に第1期工事が完了した新校舎のラウンジだ。放課後はいつも、主体的な学びに夢中で取り組む生徒たちの活力にあふれている。

立正大学付属立正中学校・高等学校



from the School

大場一人校長

アットホームな学校です。勉強やスポーツに取り組む中で、生涯の友をつくってください。

Homepage



未来を見据えて、真の力を育てる「R-プログラム」とキャリア教育



毎朝のホームルームで取り組む「R-プログラム」では短い文章を読み、自分の考えをまとめ、クラスメートの前で話す。読む、書く、話す力が鍛えられる。



中学校弁論大会は、「R-プログラム」の取り組みの集大成。中学の各クラスから選ばれた代表が熱弁を振るう。



職場体験前には、挨拶の仕方から始まるマナー講習も実施。



中3の職場体験は、地域のさまざまな企業の協力で成り立っている。上/カンコー学生服で制服の企画やデザイン、製作について知る。左/地元スーパーで売場づくりを体験。



左/高校教頭の平林重郎先生。

右/中学の英語の授業は習熟度別のクラス編成で行う。急がず・焦らず・着実に指導方針だ。



中学でのキャリア教育が高校の探究学習とリンク

「行学二道(学びを行動で示す)」を建学の精神に掲げる、創立120年の仏教系伝統校。「21世紀を生き抜くための資質・能力を、本校の6年間で身に付けてもらいたい」と大場一人校長は語る。

その目標達成のため、同校が11年前から続けているのが、学びの土台となる三つの力(Research=調べる、Read=読み取る、Report=表現する)を伸ばす「R-プログラム」だ。中1(高1)に朝のホームルームで実施する、コラムリーディングと1分間スピーチはその柱。新聞の社説やコラムを読んで意見をまとめ、発表やディベートにつなげていく。「R-プログラム」で得た基礎力が、教科学習にも好影響を与えているという。

2年前からは、同プログラムに接続するかたちで高校の探究学習がスタート。グループでフィールドワークを行う高1では、地域の施設や制度の不便・不足要素などを利用者の立場で発見し、解決策を提案するプログラムに挑戦する。個人探究に取り組む高2では、「情報」の授業とタイアップし、パワーポイントなどを駆使して表現力をスキルアップ。クラスの優秀者を選抜し、1月に大ホールで行う発表会をゴールとする。「課題の発見に際しては、できるだけ正解のないものに取り組むように伝えていきます。ハードルは高いですが、自分で考える訓練は将来役立つ

真の力になるはず」と、進路指導部長を務める高校教頭の平林重郎先生は話す。

中学の3年間を使って行われるキャリア教育にも、立正らしい特色がある。中1の「職業講話」では映画監督やパイロットなども含む、多様な職業に就いている卒業生を招き、仕事のやりがいや裏話などを語ってもらい、キャリアに対する興味・関心を誘発する。

一つの職業が成り立つために、周囲にどんな関係職種があるかを調べる中2の「職業理解」は高校の探究学習の入り口にもなっている。そして、中3の夏休み前に、2日間の職場体験を実施。コンビニ、飲食店、福祉施設、自衛隊、警察など受け入れ先は多岐にわたる。体験について各自が短い動画にまとめ、文化祭で発表する。

特筆すべきは、職場体験の感想や将来の夢について、中3生全員に校長と直接語り合う機会が設けられていること。先生との距離がそれほど近く、学校全体で一人ひとりを手厚く育てていく。そんな校風こそ、立正の最大の魅力といえるだろう。

School Data

〒143-8557
東京都大田区西馬込1-5-1
☎03-6303-7683
<https://www.rissho-hs.ac.jp/>
●創立 1904年
●交通 都営浅草線「西馬込」駅から徒歩約5分

コアネットの

駅から徒歩5分のキャンパスに充実の校舎・施設を完備▶人工芝のグラウンドにテニスコート、温水プール、弓道場など多彩な運動施設を持つ。図書館は、生徒の立ち寄りやすさを考えて昇降口のすぐ目の前に配置されており、約5万冊もの蔵書がある。充実した校舎・設備に引かれて受験を決める志願者も多いという。



from the School

浅井宣光校長

女子校を維持しつつも、ジェンダーを超えたダイバーシティな教育を進めていきます。

松蔭中学校・高等学校

Homepage



「英語」と「探究」を通じて
多様な未来を開く可能性を育む



上/募金活動や近隣の小学校に英語を教えるなど、奉仕活動は同校の伝統でもある。
左/GSは中3で2週間のフィリピン研修へ。現地の貧困コミュニティでボランティアも体験する。



自己肯定感を高め、自分を表現するための「Who am I?」アプローチ。全学年の中で一度も話したことのない5人に、30秒で自分を紹介するなど、ユニークな取り組みを行っている。



右/高2生は松蔭のタータンチェックを使ったタータンリボンなどの商品開発も行った。
左/GSではオンライン英会話を毎日行い、年間200回を数える。英語力は確実にアップしている。



GS・GL主任の篠原弘樹先生。



高校で言語探究を担当する木下優里先生。

自分らしく生きる力を育む 2ストリーム3コース制

1892年、キリスト教精神に基づく女子教育を目的に創設された松蔭中学校・高等学校。2020年より中学にデイベロペメンタル・ストリーム(DS)、グローバル・ストリーム(GS)を導入。23年には高校に3コース制が導入され、新たな教育スタイルが中高共に確立された。

中学のDSは松蔭の伝統教育を進化させ、高校ではランゲージ&サイエンスコース(LS)と、スポーツ・芸術活動と勉強の両立を支援するアスリート&アーティストコース(AA)に分岐する。LSの特徴となるのが、DSの「国語探究」を発展させた独自の授業「言語探究」だ。この授業ではウクライナ問題などのグローバルな社会課題に対する論理的な思考や議論する力を育てる。「自分とは何か」を見つめ、自己を表現しながら他者とながら力を育むワークショップなども実施。ここから主体的に社会への行動を起こす力を身に付けた生徒は、能登半島地震の被災者支援の募金活動などを校内外で行った。

言語探究では今後、文理融合プログラムが強化され、理系の素養も育む計画。また進路においてはLSに特進クラスを設置し、豊富な指定校推薦だけでなく一般人試での大学進学も視野に入れていく。

一方、中学のGSは「英語の松蔭」に原点回帰し、高校のグローバルリーダーコース(GL)へとつながるス

トリーム。最大の特徴は、毎日のオンライン英会話で、世界110カ国の講師を相手に英語力を育む。入学時は英検®5級だった生徒が、高1進学時には準1級まで成長した例もある。

授業は教科横断型で、例えば家庭科や保健科で妊娠出産などについて学べば、オンライン英会話でインタビューし、クラスでディスカッション。さらに海外の人々の意見を取材して英語小論文にまとめるまで行うアントレプレナー(起業家)教育にも力を入れており、高2生は松蔭タータンを使った商品開発に挑戦した。進路としては海外大学も視野に、生徒の希望に添えていく。

浅井宣光校長は「本校のスクールモットーである『Open Heart, Open Mind』とは、多様性を認め合う精神を表した言葉。本校の生徒たちはこのモットーそのままに、自分らしく生きる力を花開かせています」と語る。松蔭のストリーム制には、ジェンダーを超えて多様に活躍していく女性を育てたいという学園の意志が込められている。

School Data

〒657-0805
兵庫県神戸市灘区青谷町3-4-47
☎078-861-1105
https://shoin-jhs.ac.jp/

- 創立 1892年
- 交通 ●阪急神戸線「王子公園」駅から徒歩15分
- JR神戸線「灘」駅から徒歩18分
- 阪神本線「岩屋」駅から徒歩20分

コアネットの

看板の「英語教育」と社会に飛び出す探究が生徒の可能性を広げる▶キリスト教主義に基づく人間教育と英語教育を柱とする同校は、神戸では誰もが知る伝統ある女子校。英語教育のレベルは高く「英語の松蔭」と言われるほど。近年では社会課題を解決する思考力と行動力が身に付くプログラムも充実しており、一人ひとりの生徒を自信を持って社会貢献できる女性へ導いてくれる。

Homepage



開明中学校・高等学校



from the School

入試広報部長 古庄 誠先生

さまざまな経験の積み重ねが、
国立大学の推薦入試を突破する
力になっています。

多彩な行事で生徒の興味を広げ 難関大学進学を実現する力を育む



上・右／中2で行う理科実習。和歌山県加太湾で生物を採取し、分類や解剖、実験などを行い、タブレットで発表する。



左／高校生の研究発表会では、京大の大学院生に來校してもらい、評価をもらった。
下／2014年に完成した新校舎。



中学3年が行う弁論大会。800人の生徒の前で自分の意見を述べる経験は貴重な。



約43kmのしまなみ海道を仲間と共に夜を徹して歩く「しまなみ海道夜間歩行」。

京大特色入試で3年連続 全国最高合格者数を達成

卒業生の7割近くが国立公立大学合格を果たす開明中学校・高等学校。例年、東大・京大・国公立大医学部に20名以上の合格者を輩出しているが、近年は一般入試だけでなく推薦入試等の活用も広がっている。特に2024年度入試では京大特色入試（総合・学校推薦型）で3年連続4回目

の全国トップ8名合格を達成。京大特色入試開始からの合格者累計も34名と全国トップとなった。

入試広報部長の古庄 誠先生は、「生徒の興味・関心の幅を広げる種を蒔くために、非常に多くの行事を行っている。その経験が推薦入試に生かされているのでしよう。もちろん本学の生徒は面接での表現力も高いのですが、それ以前に中高時代の経験の数と深さが評価されているようです」と語る。

開明では月1回のペースでさまざまな行事が行われる。中3の卒業記念行事「しまなみ海道夜間歩行」が有名だが、中2で体験する和歌山県加太湾での「理科実習」では、海の生物の採取・分類・解剖・実験に取り組む。従来はポスター形式で発表を行っていたが、昨年度から全生徒がタブレットを活用することになり、デジタルでの発表に進化。学校説明会でも発表の機会を持ったことが、生徒への刺激になった。

20年以上続く弁論大会、研究発表会も開明を代表する行事で、生徒が

テーマを自由に選び、調べ学習を行った成果を発表へとつなげていく。中学の弁論大会では口頭での発表だが、高校の研究発表会ではデジタル資料を使つてのプレゼンと取り組みがレベルアップ。いずれも各クラスで予選を行い、代表に選ばれた生徒たちが学年の本選でグランプリを競う。本選には全生徒や教職員に加え、外部審査員として京大の大学院生をパネラーとして迎えた。学内だけでなく、第三者からの評価が生徒たちの自信につながる。古庄先生は「デジタルも使いこなすようになった生徒たちが、特色入試などで今後どのような成果を出していくか楽しみます」と笑顔を見せる。

中学は「スーパー理数」と「理数」の2コース制で、中1・2年は習熟度別の指導で基礎学力を育成。中3・高1進学時にコース入れ替えを実施し、応用力・実践力の育成へと進んでいく。勉強だけでなく、行事を通じて共創関係が、共に成長する力を生徒に与えている。

School Data

〒536-0006
大阪府大阪市城東区野江1-9-9
☎06-6932-4461
<https://www.kaimei.ed.jp/>

- 創立 1914年
- 交通
- JR・京阪「京橋」駅から徒歩約8分
- JRおおさか東線「JR野江」駅、京阪本線「野江」駅から徒歩約12分
- 大阪メトロ長堀鶴見緑地線・今里筋線「蒲生四丁目」駅、谷町線「野江内代」駅から徒歩約12分

コアネットの

体験型行事で育まれる学びへの意欲が、抜群の進学実績に結実する▶ 着実に学力を向上させ、国公立大合格へ導く教育に定評がある同校。近年では、総合型選抜入試でも実績を上げており、京都大学の特色入試では3年連続で日本一の合格者数を出し、注目を集めている。「しまなみ海道夜間歩行」を筆頭としたさまざまな体験が、生徒たちの中に他校では経験できない圧倒的な分厚い経験値を、無理なく蓄積させていく。



近畿大学附属高等学校・中学校

Homepage



学校全体で探究学習を推進 生徒が自ら考え、学び、輝ける場に

from the School

入試企画部長 原 隆博先生

体験実習と総合学習で自分を見つめる力を身に付け、輝く未来を見つける力を育成します。

右/企業探究を担当した吉野先生。



下/総合表現で、現役の記者から新聞作りについて学び、生徒たちが取材して作る近大附中新聞。



上/和歌山県にある近畿大学湯浅農場で、年間3回行う農場体験。
左・下/約8万5000人の中高生が参加する、国内最大のプレゼン大会「QUEST CUP2024」。全国大会に出場できるのは各企業10校。同校からは3チームが出場した。



生徒の興味や関心を養い、自分の夢を描けるように

「実学」をモットーとする近畿大学附属高等学校・中学校では、多様な進路希望をかなえるために三つのコース制で、中学生のうちに将来の目標設定や学習意欲につながる体験プログラムを多彩に用意している。

体験実習を通じて学ぶことの意義を知り、医療系大学への進学を目指す「医療コース」では、系列医療機関と連携した本格的な体験実習や、医療人に必要な倫理観なども学ぶ。国立大学進学を目指す「英数コースアドバンスト」、近畿大学に直結した「英数コースプログレス」は、和歌山県にある近大の水産試験場の見学や農学部での実習などを通じて、大学での研究を肌で感じていく。

時代に先駆けて探究的な学びを続けてきた同校で、大きな成果が出た。中3生が探究学習の一環として取り組む企業探究で、今年はいくつかのコースから各1チームが「QUEST CUP2024全国大会」に進出。医療コースの生徒たちが、完成度の高いプレゼンを披露して準企業賞を獲得すれば、アドバンストの生徒は未来を見据えたプレゼンを発表。プログレスの生徒は寸劇スタイルで会場を爆笑の渦に包む。「舞台上で輝く姿は、授業で見せる姿とはまったく違って見えた。普段の学習では身に付けられない力が培われている証しです」と担当した吉野泰史先生。

「全国大会に進出した生徒だけでなく、企業探究をした生徒全員に達成感がある。それが自己肯定感につながり、こうした小さな達成感を積み重ねることが、自分の未来を見つめる原動力となります」と入試企画部長の原隆博先生は語る。

同校ではキャリアデザイン教育として、「書く・まとめる・話し合う・発表する」といった活動を各教科に取り入れてきたが、その集大成が20年スタートの「総合表現・総合探究」だ。「総合表現」は文章トレーニング、新聞記者の指導による新聞作成、人生における転機の物語「MY STORY」の執筆を通して、書く力・まとめる力を養う。「総合探究」では著名人の人生、SDGsの学び、企業探究を通して、調べる力、話し合う力、発表する力を身に付けていく。その過程で大切なのが、自分を見つめ、考えること。自分自身を深く知ることと体験実習がうまくかみ合えば、生徒は「どこで何を学びたいのか」「将来どのような社会貢献をしたいのか」といった未来像が明確に描けるようになる。

School Data

〒578-0944
大阪府東大阪市若江西新町5-3-1
☎06-6722-1261
https://www.jsh.kindai.ac.jp/
●創立 1947年
●交通 ●近鉄大阪線「長瀬」駅から徒歩約20分
●近鉄奈良線「八戸ノ里」駅から徒歩約20分
※近大シャトルバス約10分
通学バスの運行あり(詳細はホームページ)

コアネットの

常にアップデートし続ける伝統のキャリアデザイン教育▶約10年前より導入されている独自のキャリアデザイン教育のひとつである探究プログラム「総合学習」。昨年から生徒たちの特徴をよく知る担当が担当するようになり、早速中学の3コースすべてから探究の全国大会出場という華々しい結果につながった。大学入学後も見据えた、成長し続ける生徒を育てる同校の取り組みに注目していただきたい。

雲雀丘学園中学校・高等学校



from the School

入試広報部長 今岡祐資先生

「やってみなはれ」の精神を身をもって体感できる6年間は、大きな財産となります。

右/家庭科の小山光美先生。



左・下/年2回行われる「探究EXPO」。学校中を使って探究プロジェクト・ゼミ・グローバル系の活動・学外とのコラボなどの成果を生徒たちが発表し、その場で質疑応答が行われる。



多彩な探究活動が育む 自ら学ぶ姿勢

人間の土台を築く中学・高校で学問の本質に触れ、学ぶことの大切さ、面白さを知り、自ら学びを深める姿勢を養う。そんな探究活動に力を入れてきた雲雀丘学園中学校・高等学校は、2019年度の「一貫探究」コースへの一本化で、その姿勢がより明確になった。

中2〜高1の「探究」授業で活動の基礎を学びながら、高1の秋には自らテーマを設定して執筆する「探究論文」に臨む。さらに学外と連携した課外活動「探究プロジェクト」、教員の専門性を生かしたゼミ形式の特別講座「探究ゼミ」の3本柱で構成されている。その先進性、プログラムの多彩さには驚かされる。

探究活動が根付いている同校では、多くの生徒が総合型選抜・学校推薦型選抜に臨み、現役生の国公立大学合格率は約4割にのぼる。「探究論文」執筆後に自主的に活動を続ける生徒も多く、全国レベルのコンテストでの入賞も多数。大学入試改革と探究活動の組み合わせの良さを存分に生かした進学実績となっている。

その一人が今年「和菓子を世界へ伝えたい to Africa」というテーマで、「中高生探究コンテスト」の「好き部門」で1875人の中から最優秀賞を受賞した高2の松山桜子さんだ。プレゼン内容は、和菓子の魅力から世界での和菓子の現状、アプリカに伝えるための試行錯誤や広報活

動、活動後の心境の変化に至るクロージングまで素晴らしい流れだった。行動力にも驚かされる。アフリカの素材を使って作った和菓子の試作品の反応を求め、アフリカ料理店や領事館へ。「実際に会って話すことが、文化交流につながる」と実感しました。さらにお互いに正しい知識を身に付けられ、社会問題も解決できると思えました」と松山さん。この経験から、将来は国際交流に関わる仕事に就きたいと考えるようになり、志望校や学部を決めたという。

教員自身も探究を続けているのが同校らしい。「生徒は自分で各教科の先生に『探究』の指導を仰ぎ、自分の論文・研究を仕上げていきます」と入試広報部長の今岡祐資先生。松山さんの探究を担当した家庭科の小山光美先生は、「少子高齢化から環境問題まで家庭科は探究テーマの宝庫で、文理融合している教科。探究が始まってからは、授業内で討論する機会も増やしました」と語る。

同校の理念「やってみなはれ」精神が受け継がれ、生徒たちは夢に向かってチャレンジし続ける。

「本物の学び」が「探究」の原点 自ら学ぶ姿勢を身に付け、世界に羽ばたく

Homepage



和菓子を世界へ伝えたい
to Africa

雲雀丘学園高等学校二年 松山桜子

領事館の方と対談



在大阪コンゴ領事館名譽領事 Maswana Chris氏
立命館大学経済学部教授博士
Maswana Jeanclaude氏
にも御存じたお話を伺って
いただきました。

松山さんの「和菓子を世界へ伝えたい to Africa」の発表資料。在大阪コンゴ領事館にも出かけて試食してもらった。



「探究活動の一番いいところは、学校で学ぶ以外のこと、私の場合は電話のかけ方や敬語の使い方などを、自分で調べて学べたことです」と話す松山さん。

School Data

〒665-0805
兵庫県宝塚市雲雀丘4-2-1
☎072-759-1300
<https://hibari.jp/>

- 創立 1949年
- 交通 ● 阪急宝塚線「雲雀丘花屋敷」駅から徒歩約3分
- JR宝塚線「西池田」駅から徒歩約12分

コアネットの



「やってみなはれ」精神を受け継ぐ探究プログラムで実現する難関校進学への道▶ 中学入学時から非常に充実した探究カリキュラムが組まれている同校。中学時代、学びに対する好奇心が培われた生徒たちは、高校2年以降の受験準備が始まってからの学びにも極めて積極的。結果、進学実績も非常に好調で、毎年約半数の生徒が現役で国公立大学へ進学していく。「雲雀丘モデル」のますますの躍進に期待したい。

多様性を力に変えて 国際社会に貢献できる人材

多様な価値観がせめぎ合う21世紀。10年先、20年先の時代に、国際社会から求められる人を育てるには、どんな「学び」が必要なのでしょう。生徒の約7割を海外からの留学生が占める、長野県軽井沢町の全寮制国際高校「ユナイテッド・ワールド・カレッジISAJAPAN」代表理事・小林りんさんに、コアネット教育総合研究所の松原和之所長がお話を伺いました。

今年で10周年になりますね。まずは貴校の特色について教えてください。

小林 ISAJAPANは、日本の学校教育法で認可された私立学校です。全校約200人の生徒のうち7割ほどが海外からの留学生で、出身国・地域は80に上ります。本校が加盟している国際的な民間教育機関「UWC」では各加盟校で奨学金を用意しているので、欧米だけでなく南スーダンやソマリアや、戦争が続くウク

困や紛争といった、生徒の経済的・社会的なバックグラウンドにもダイバーシティがある学校なのです。そんな環境の中で、「自分の当たり前が当たり前じゃない人」と一緒に多感な時期を過ごすことは、何にも代え難い学びになるはず。そう信じて学校を運営し、校内に渦巻く多様性をベースに「チェンジメーカー」を育成することが、本校のミッションであると考えています。

松原 開校までの経緯も教えてください。

小林 私はカナダのUWC留学後、東大で開発経済を専攻し、スタンフォード大学院で教育学を修めた経験を通して、発展途上国の貧困層のために寄与したいと思うようになりました。その後、2000年代半ばに念願かなって、国連職員としてフィリピンに駐在したのですが、そこで見た現実は、「貧困層の教育水準向上こそが、選挙を通じて国家の変革を導く」という私の考えを根底から揺さぶるものでした。愕然とするような格差社会、選挙のたびに起きる汚職や犯罪……。貧困層の子供たちに手を差し伸べることはもちろん大事だけれど、それと同時に世界の構造を根本的に変

多様性が渦巻く校内は まるで「世界の縮図」

松原 小林さんが2014年に全寮制の国際高校「ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)ISAJAPAN」を軽井沢の地に創設されてから、

ライナ、イスラエルやパレスチナなどからも奨学生を受け入れています。

松原 校内に「世界の縮図」がある、そんな学校なのですね。

小林 まさしく、そうです。国籍・人種・宗教のダイバーシティ(多様性)があるだけではなく、貧





「ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン」には、さまざまな国籍、文化、信条、アイデンティティ、アイデアが混ざり合った学習環境がある。

えていける人材、すなわち「チェンジメーカー」を輩出することが必要だ。ならば、日本でそういう学校をつくろうと決意したわけです。6年の準備期間を経て緑豊かな軽井沢町にご縁をいただき、開校に至りました。

松原 「チェンジメーカー」とは、具体的にはどのような人を指すのですか？

小林 恐るべきスピードで価値観の多様化が進んでいく時代にあつて、既往路線を踏襲するのではなく、何か新しいことを生み出せる人。あるいは、答えの見つからない国際社会のさまざまな課題に対して、解決すべく実際にアクションを起こせる人のことです。そういう人を育てるために、私たちが大切にしているのが、「問いを立てる力」「多

様性を活かす力」「困難に挑む力」という三つの力。本校では「プロジェクトウィーク」といって、秋と春に2週間ずつ、生徒が学校から離れて、自分たちがゼロから立ち上げたプロジェクトに取り組み特別な期間を設けています。成果の一例を挙げると、ウクライナ出身の女子生徒が中心となり、難民となった

母国の子供たちが避難先で孤立しないで意思疎通できるように、無料言語アプリを開発し、昨年の「国際子ども平和賞」を受賞しました。多様性を活かして問いを立て、困難に挑んで行動に移していく——彼女はそれを体現してくれました。

「失敗を恐れる弱さ」から脱却して、英語を話そう

松原 お話を聞いていて、多様性に正しく向き合う姿勢をちゃんと身に付けさせることが、グローバル教育のスタート地点ではないかと思いました。

小林 多様性を活かす力って、先ほど述べたように、自分にとつての「当たり前」とは全く違う「当たり前」を持った人が目の前に現れたときに、相手側から見た風景が見える、あるいは見ようとする、それに尽きると思います。海外に留学したりせずとも、子供のときから「相手の立場に立つて考える習慣」を身に付ければ、誰でもグローバル人材になる素地は築けるはず。英語よりむしろ、そちらのほうが重要かもしれませんよ。

松原 日本人の生徒さんを含め、貴校には英語を母国語としない生徒さんが多いと思いますが、入学当初は英語でコミュニケーションを取るのに苦



小林りんさん
Kobayashi Rin

ユナイテッド・ワールド・カレッジ
ISAKジャパン 代表理事

1974年東京都出身。東京大学経済学部卒。米スタンフォード大学大学院修士課程修了(教育学)。モルガン・スタンレー日本法人、ユニセフ勤務などを経て、2014年に「ユナイテッド・ワールド・カレッジ (UWC) ISAK ジャパン」を創設。https://uwcisak.jp/ja/

労していませんか？

小林 基本的に入学者は、オールイングリッシュの授業を受けられるレベルの英語力を持った子たちですが、やはりネイティブスピーカーではないので、「話したいことの半分も表現できない」と最初は悩むようです。でも、本校は全寮制で一日中英語をしゃべらざるをえない環境ですから、たいていは3カ月から半年くらいで英会話はスキルアップします。壁にぶつかるのは、主体的に考え、自分の意見を言うことに慣れていない子たち。特に日本の公立中学校出身の生徒は、「今までは、答えを探すこと」を教わってきたけど、この高校では「問いを探すこと」が求められる。そこがいちばん難しい」と口をそろえますね。

松原 日本の教育現場では、探究学習を通して「問いを立てる力」を身に付けさせようとしています。そう考えると、グローバル教育と探究学習は一体であるべきなんだと感じます。「問いを立てる力」を引っ張り出す秘策って、何かありますか？

小林 やりたいことをとことん追求できる時間と場を作り出すこと、あとは失敗の推奨でしょうか(笑)。生徒には常々、「やりたいことが見つかったら、失敗から学ぶことのほうが多いのだから、どんどん失敗しながら困難を乗り越えなさい」と

言っています。

松原 「失敗を恐れる弱さ」がネックになるのはグローバルシーンで日本人が英語で自分らしさを出そうとするときも同じですね。大人になつてからだと、そうした弱さの克服は難しい。だから小さい頃からバンバン失敗しながら学ぶことが大事なのですね。

小林 日本人の英語力がなかなか伸びないのは、日本の教育が減点主義なのと関係しているように思うんですよ。例えば、三単現の「s」とか文法とか、「ちゃん」としてないと駄目」と完璧を求める傾向があるでしょう。海外だと多少の間違いは気にせず、自分の言いたいことをワーツとしゃべる人が多い。「ここは過去完了形だっけ？」などと考えているうちに次のトピックに移ってしま



代表理事の小林さんを交えて、外交問題と地政学についてゲストスピーカーとディスカッションする。



松原和之さん
Matsubara Kazuyuki

コアネット教育総合研究所所長
教育コンサルタント

一橋大学社会学部卒、三和総合研究所を経て現職。主に私立中学校や高等学校の学校改革の支援を手掛けてきた。年間延べ100校以上の学校を訪問し、学校現場に精通している。

ちがコンフォートゾーンから飛び出し、自分で情報収集して模索し、自ら道を切り開くしかない。それはもはや、偏差値の問題ではないんですね。

松原 なるほど。予測不能な未来の社会に出ていっても、自分自身できちっと問いを立て、解決しようと思っていける人になる。その準備に役立つ教育環境を用意している学校であるか否かという観点で、これからの学校選びの重要なポイントになっていくわけですね。

いますから(笑)。細かいことはいいから、とりあえず自分が思っていることをもつとダイナミックにしゃべろうよ、と言いたいですね。

多様性を活かす力が「チェンジメーカー」を生む

松原 世界で活躍できる人になるためには、「コンフォートゾーン(居心地のいい場所)を出ることが大事」も小林さんの持論ですね。その真意は？

小林 子供がコンフォートゾーンを出て挑戦することも大事ですが、実は親御さんたちにも同じことが言えると思います。教育の国際会議などでよく聞く言葉に「40年ギャップ問題」があります。

私たち教育者は20年先の未来を見据えて、今、何が学校教育で大事なのだろうかと考えます。それに対して親御さんの多くは、ご自分が学生だった20年前の受験戦争を思い浮かべ、「あのときにもっと英語を頑張っておけば良かった。だから子供にはこういう教育を受けさせたい」とお子さんに期待をかけがちです。ここに40年のギャップが生じます。AIの進歩などで劇的に社会が変化するのであるう20年先のことなど、私たちがさえ予測困難だし、誰にもわからない。だからこそ、子供た

は「オーシャンフィジックス(海洋物理学)を研究したい」と思うようになり、「それができるのはコロンビア大学だ」と選択しました。また、本校の1期生には、宇宙ゴミ問題の解決にチャレンジしたいと、宇宙工学科がある英国のプリストル大学に進んだ男子生徒もいます。進学が目的ではない。そこから自分の好きな道を究めることが目的。大事なのは過保護にならず、何にわくわくするか、将来何をしたいのか、子供自身にとことん考えさせること。学校や親御さんの役割は、子供が何に興味があるのか素早くキャッチして、それをファシリテイトすることではないでしょうか。

松原 お話を伺い、多様な価値観の人たちと一緒に切磋琢磨しながら、失敗を恐れずに困難に打ち勝つ力を身に付けることが、グローバル教育の神髄なのだと思いを新たにしました。そして、多様性を力に変えられる人こそ、国際社会に貢献できる人材、すなわち「チェンジメーカー」なのですね。本日はありがとうございました。



佼成学園中学校・高等学校



from the School

英語科 北野尚之先生

本校は、国際的な英語力測定テストIELTSを採用。日本初の推進校に認定されています。

起業家精神を育成し実践する 特色あるグローバルコース



高2で実施された起業家精神を育成する、「プロジェクトLEAP」のボストン研修に参加したグローバルコースの生徒たち。



「アントレプレナーシップ」の授業で開発、製品化した「金融すごろく」を発売。小中学生が投資について学べるボードゲームだ。



高1で行われる「プロジェクトLEAP」のベトナム研修。現地の人と交流しながら、社会課題の解決策を提案する。



起業家や投資家の前で、堂々と英語で起業アイデアのプレゼンテーションを行った。



投資家から直接ピッチ指導を受ける。

海外研修で鍛えられる 「プロジェクトLEAP」

校訓は「行学二道」。すなわち、学問と体験の両方に励むことを重んじる男子校である。その校訓に従い、2019年度から本格的に展開している探究学習が成果を上げる一方、最近の注目は2021年度に中学・高校共に新設されたグローバルコースだ。

「本校は、2016年度から中学にグローバルリーダープログラム（GLP）を設けました。グローバルコースはその延長で、中高一貫のコースとして設けたものです」と言うのは英語科の北野尚之先生。このコースを統括するプログラムディレクターを担っている。

「グローバルコースには帰国生も多いので、英語力の高い生徒を対象としたSEKクラス（Super English Class）も開設しています」

その教育プログラムには大きく三つの柱がある。「国内外のフィールドワーク研修」と「プロジェクトベイスの探究的な学習」、そして興味深いのが「アントレプレナーシップ」。高1から始まる起業家精神の育成プログラムは、「プロジェクトLEAP」と名付けられている。

授業では、連携する外部の起業家教育企業に2週に一度、起業のための理論やフレームワークを教わり、高1のベトナム研修で実践。その後はグループでビジネスプランを立て、最終は高2のボストン研修で、現地

の起業家や投資家たちを前にプランをピッチ（売り込み）する。

「このプログラムを経験した生徒にアンケートを取ると『自分を大きく変えてくれた』という回答が多い」と北野先生は言う。

高校生を対象にした起業や課題解決のコンテストの受賞グループで、実際に起業した例もある。「金融すごろく」を開発して「高校生ビジネスプラン・グランプリベスト100」に選出されたチームだ。「LEAP」は、単なる課題解決案の提示ではなく、それをビジネス化する本格的な起業プログラムなのである。

また同校は、リベラルアーツで知られるICU（国際基督教大学）と高大連携協定を結んでおり、その授業を受けられることも生徒たちには大きな刺激となっている。

「海外大学を志望、受験する生徒が増えました。生徒たちは、社会を知り、自分のやりたいことを確固たるものにして、卒業していきます」と北野先生。それはグローバルコースの生徒たちが高校生のうちに、すでに社会人として高い素養を身に付けていることにほかならない。

School Data

〒166-0012
東京都杉並区和田2-6-29
☎03-3381-7227
<https://www.kosei.ac.jp/boys/>
●創立 1954年
●交通 東京メトロ丸ノ内線「方南町」駅から徒歩約8分



from the School

社会科主任 村田裕先生

さまざまな経験ができる学校です。新しいかたちの海外体験にぜひチャレンジしてください。

成城中学校・成城高等学校

Homepage



時代の流れを見つめ続ける伝統校の 新たなグローバルキャリア教育



左/カンボジアのダンブヤードで働く人々にインタビュー。参加した生徒は「まったく知らない世界に来た」と実感。多くのものを得た大変貴重な経験だった。

下左/「カンボジアキャラバン」は4泊6日の日程。現地の子供たちとの交流などほっとするひとときも。
下右/キャラバンの帰国報告の様子。参加した22人全員で分担し、1本の論文に仕上げ文化祭で配布した。



「オーストラリア・グローバルリーダー研修」では、ホームステイしながら現地の高校に通う。クイーンズランド大学のキャンパスも訪問。



高1・高2の希望者対象の「台湾・グローバルリーダー研修」。現地の高校を訪問するなど異文化交流を図った。

異文化理解の先へ進む 「カンボジアキャラバン」

1885（明治18）年創立の男子校。知・仁・勇を備えた次世代リーダーの育成を目指し、生徒一人ひとりと丁寧に向き合う校風で知られている。伝統を受け継ぐ臨海学校などの行事、多彩な部活動を通じた人間教育はもちろん、中1の数学統計など独自の授業を設定して、じっくりと土台を築く教科教育の評価も高い。

一方、近年、同校が力を入れているのは、グローバルキャリア教育だ。世界のトップ大学の学生を招いてグループワークを行う「グローバルスタデイズ・プログラム」や、「オーストラリア・グローバルリーダー研修」、「台湾・グローバルリーダー研修」など、いずれも希望制だが毎年多くの生徒が参加している。

異色のプログラムとして昨年スタートしたのが、「カンボジアキャラバン」だ。担当する村田裕先生（社会科主任）にお話を伺った。

「『カンボジアキャラバン』は、現地調査と論文作成を行うプログラムです。カンボジアが抱えている社会問題を生徒たちが自分の目で見て、そこで生きる人たちの声を聞き取るフィールドワークを経験できたらと企画しました」

変化の著しい東南アジア、なかでもカンボジアに目を向けたかったという村田先生。第1回は高1・高2の希望者22名が参加。アンコールワットのあるシエムリアップ州を訪れ、

ダンブヤード（ゴミの最終処分場）におけるウェイスト・ピッカー（有価物を拾う人）の就業実態について調査した。事前にカンボジアの現代史やゴミ処理施策、先行研究などを勉強したうえで現地へ。環境省の担当者、処理場管理者、実際に働いている当事者にインタビュー。劣悪な労働に見えても貴重な収入源であり、就労機会となっている実態、有名観光地のオーバーツーリズムの問題などを調査。その結果を持ち帰り、全員で分担して論文にまとめた。

「生徒たちは一つの答えを求めがちですが、世の中にある問題の答えは一つではないことを実感したと思います。調査ですから主体的に動かないと何もできませんし、匂いや現地の雰囲気など、五感で感じることも多かったですよ」

インタビューは現地の通訳者を介して行われたが、通訳者にわかりやすい日本語を話さなければならぬといった気付きもあった。

「収穫は予想以上で、キャラバンは今後も続けます」と熱く語る村田先生。教員のこの熱意も同校の校風、成城中高の大きな魅力だ。

School Data

〒162-8670
東京都新宿区原町3-87
☎03-3341-6141
<https://www.seijogakko.ed.jp/>

- 創立 1885年
- 交通 都営大江戸線「牛込柳町」駅西口から徒歩約1分

コアネットの

「自ら考え行動する力」を育む伝統男子校の教育 ▶ 自分でテーマを設定し、調べ、結果を考察する探究的な取り組みを中学1年生の教科教育の中で実践している。社会科では環境地図の作成、理科では課題発表を行う。研究成果は学内での発表だけでなく、学外のコンテストに応募するなど積極的に外に出ている。こういった活動が「自ら考え行動する力」に結び付いているのだ。



国本女子中学校・高等学校



from the School

豊田ひろ子校長

将来に向かって、あなたの個性と才能を开花させていけるように、心を込めてサポートします。

日本とカナダ、両国の教育が融合 世界水準の英語と国際教養を育む



左／発展途上国の現状を知り、生産品のPR活動を行う「一村一品マーケットPR活動プロジェクト」。

下左／全員参加の中3のカナダ語学研修。ホームステイをしながら、現地の語学学校に通う。

下右／日本の伝統文化である茶道や華道を学ぶ。豊かな感性と日本人としてのアイデンティティを育む。



上／ダブルディプロマコースは英語を使って教科を学ぶ。写真では、アルバータ州認定教員が理科の実験を英語を使って行っている。

左／KAIS校長のカイル・シェーファー先生。中国青島のアルバータ州認定校の副校長を経て、昨年KAISに赴任した。専門は理科。

中学から準備に取り組む ダブルディプロマコース

創立者・有木春来ありきはるきが大切に「利他の心を育てる情操教育」を受け継ぐ、国本女子中学校・高等学校。豊田ひろ子校長は、「周りの人を幸せにして、その人の笑顔を見ることで自分も幸せになる。国際社会においてもそんな「利他の心」を持ちながら、自分のポテンシャルを最大限に發揮して世界に貢献できる女性を育てたい」と語る。

2020年度、同校はカナダ・アルバータ州教育省と提携し、同州の海外認定校である「Kunimoto Alberta International School (以下KAIS)」を同じ校舎内に開校。英語による科学学習、バイリンガル教育を行う拠点となり、現在、4名のアルバータ州認定教員が指導に当たっている。

また、この春には日本とカナダ両方の高校卒業資格が可能になる「ダブルディプロマ(以下、DD)コース」の1期生が高2となった。彼女たちは中3の段階で英検®2級に合格し、現在は5名がアルバータ州での1年間の留学を行っている。

DDコースでは、知識を体系的に教えることに長けた日本式教育カリキュラムと、移民の国の多様な価値観を背景に、知識を応用して社会に役立てる率先力を育成するカナダ式教育カリキュラム、双方の長所を融合させた独自のプログラムを用意。授業の約3分の2はオールイングリッシュで行われ、アルバータ州認定

教員による北米のプロジェクト型(教科横断・課題解決型)教科学習に取り組む。

「現在、カナダ留学をしている生徒は留学当初から、現地校の生徒にまったく後れを取っていません。これも日本でKAISの授業を受けていた成果だと思えます」と豊田校長。

一方、「総合進学コース」を目指す中学生にも、同校の恵まれた国際教育環境は還元されている。日本人教員とネイティブ教員のチームティーチングによる英語教育、英語による、数学、理科、社会などの教科指導を実施し、「使える英語力」習得を目指す。また、茶道や華道の体験をはじめ、日本文化について造詣を深める「教養プログラム」や、カナダ大使館との太いパイプを活用して実施される国際交流イベントなども同校の魅力。

最大の特色であるダブルディプロマ制度の拡充を図るため、2025年度には、「グローバル・スタディーズコース」を新設する予定だという。国本女子が目指す「新しい時代の女子教育」が今まさに花開きつつある。

School Data

〒157-0067
東京都世田谷区喜多見8-15-33
☎03-3416-4722
<https://kunimoto.ac.jp/jsh/>

- 創立 1942年
- 交通 ● 小田急線「喜多見」駅から徒歩3分
- 田園都市線・大井町線「二子玉川」駅・JR「渋谷」駅・京王線「調布」駅から小田急バスで「二の橋」下車、徒歩2分

コアネットの

英語で学び、多様な時代を生き抜く力を養う▶同校の「ダブルディプロマコース」は国本女子の授業とKAISの授業を両方受けることで、2つの卒業資格取得を目指す。カナダにいるのと同じように英語で学習できることが魅力だ。多様性の時代において、日本とカナダの価値観を深く柔軟に行き来することは、自分と異なる世界への理解と尊重の扉を開く大きな力になるだろう。



from the School

榎並紳吉校長

従来、授業枠だった英検®対策を、今年度から課外講習にして、さらに英語学習を充実させます。

佼成学園女子中学高等学校

Homepage



中学のグローバルコース 2025年度新設へ向け準備中



高校のスーパーグローバルコースでは、3年の春に6週間のロンドン大学研修が行われる。特別講義を受け、英語論文をまとめる。



上/中3全員参加のニュージーランド修学旅行。ファームステイ体験や異文化交流を図る。左/生徒が自由に使える時間、「スコレータイム」。ゆとりのある学習環境が整えられている。



修学旅行後、希望者はそのままニュージーランドに残り、2カ月間の中期留学を体験できる。



音楽と美術は外国人教師が担当する。イメージ教育により、英語コミュニケーション力も育まれる。



探究学習の成果を発表する「プレゼンテーション・デイ」。



大学入試の成果に表れる 探究型グローバル教育

建学の精神に「円満な人格を持った平和社会の繁栄に貢献できる人間の育成」を掲げる佼成学園女子中学高等学校は、グローバル教育に特色を持つ学校である。「国際人としての意識を持ち、広く深く物事を考えられる女性を育てることを目指している」と語るのは榎並紳吉校長。

英語に触れる機会は、本科の英語以外に英検®対策、外国人教師による美術と音楽のイメージ授業など、中1で週11時間に上る。さらに、全員参加のニュージーランド修学旅行(中3)や同国への2カ月に及ぶ中期留学(中3希望者)をはじめ、中学の6年間を通じて多彩な海外体験のチャンスがある。

また同校は近年、学校改革にも力を入れてきた。例えば、2020年度に担任制から「チーム担任制」に切り替え、中間試験を廃止し、キャリア学習や高大連携の講習、探究型学習などの時間を充実させている。「多角的な視点で一人ひとりの生徒を丁寧に見守る体制づくりに加え、定期試験の勉強に追われ過ぎることなく、ゆったりと学べる環境をつくるためです」と榎並校長は言う。

2022年度には50分の授業時間を45分に短縮し、6時間分の約30分を毎日、生徒が自由に使える時間とした「スコレータイム」を導入。「グループワークの打ち合わせや、プレゼンテーションの準備などに使われ

ている」と言う。

そうした改革は今後も積極的に進めていく意向だ。なかでも注目されるのは中学のグローバルコース新設である。2025年4月より3クラス中1クラスを「グローバルコース」として、高校のスーパーグローバルコース(SG)との円滑な接続を図ることをねらいとし、SGの特色である探究型のグローバル教育を展開する。SG生は主体的な探究力や課題解決力、英語力を武器に近年目覚ましい成果を出している。現在、新コース開設に向けた準備が進行中で、さらなる進化が期待される。

教育の質を高める学校づくりには余念のない同校だが、生徒の成長を支える基盤は、生徒自身が築くものであるとも考えている。その基盤となるのが人間力であり、「誰とでも円満な関係を結べることを重視する。キーポイントは「笑顔」。毎朝、校長自ら校門に立ち「おはよう」と生徒に笑顔であいさつし、ことあるごとに「ありがとう」と声をかける。そんな心のゆとりも大切にする学校だ。

School Data

〒157-0064 東京都世田谷区給田2-1-1

☎03-3300-2351

<https://www.girls.kosei.ac.jp/>

- 創立 1954年
- 交通 ● 京王線「千歳烏山」駅から徒歩5分
- 小田急線「千歳船橋」駅から京王バスで約15分「南水無」下車すぐ
- 小田急線「成城学園前」駅から小田急バスで約20分「千歳烏山駅」下車、徒歩5分

コアネットの

充実した進路指導体制で、憧れのキャンパスライフを目指す▶一般選抜で志望校を目指す生徒には、佼成学園(男子校)と合同で行うトップレベル講習やそのほかの講習制度が充実している。総合型選抜などを利用する生徒には、実際に多様な入試方式で合格した卒業生チューターからアドバイスをもらいながら、自身の受験体験を踏まえたメンタルケアや志望校に合わせたマンツーマンの指導が受けられる。



昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校



from the School

英語科 福田百合子先生

グローバルな学びの環境をフル活用し、世界で活躍できる能力を培ってください。

新生「SHOWA NEXT」が目指す世界レベルで活躍できる女性像



上／中2全員が海外キャンパス「昭和ポストン」を拠点に12日間の研修を行う。

下左／科学的な知識と思考力を養うスーパーサイエンスコース。2021年に設置された。

下右／同じキャンパス内にあるブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和の学生と交流する機会もある。



上／グローバル留学コースでは10カ月間のカナダ留学プログラムがある。一人一家庭のホームステイをしながら現地高校で学ぶ。

右／グローバル留学コースの中3で実施するアジアディスカバリー。シンガポールとマレーシアで、現地の中学生と交流する。



※KFC…Know thyself, Find a way, Contribute to othersの頭文字

「格物致知」は、全授業で「なぜ」を繰り返す、物事の本質を追求する姿勢を大切にすることを指す。

「パワーランゲージ」では、習熟度別授業やオンライン英会話など、個別最適化したプログラムで世界で活用できる英語力を育成し、また中国語学習も実施する。

「格物致知」は、『パワランゲージ』『格物致知』『KFC』の3つの軸です」と相谷直彦 GDC(グローバル・デザイン・コーディネート)。

「パワーランゲージ」では、習熟度別授業やオンライン英会話など、個別最適化したプログラムで世界で活用できる英語力を育成し、また中国語学習も実施する。

「当初の目標だった、主體的な学びの姿勢」が校風として根付いたのを機に、目指す生徒像をアップデートし、プログラム内容をブラッシュアップしました。新カリキュラムは、『パワランゲージ』『格物致知』『KFC』の3つの軸です」と相谷直彦 GDC(グローバル・デザイン・コーディネート)。

「世の光となろう」を建学の精神とする昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校。同じ敷地に昭和女子大学ペンシルベニア州立テンブル大学ジャパンキャンパス、ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和(BSIT)があり、昭和女子大学が米国ポストンに開設した「昭和ポストン」を含めて相互に連携するなど、国際色豊かで先進的な教育環境で知られる。

同校独自の学びのプログラム「SHOWA NEXT」が9年目を迎え、グローバル留学コースは目指す人物像を「国際社会の課題を解決する意欲をもって行動し、自己実現を目指す人」と再設定し、今年度、プログラムの再構築を図った。

「KFC」は、「自分を知る、自ら道を開く、他者に貢献する」の3つの資質能力を育成するプログラム。具体的には、低学年の「国際教養(哲学・日本文化、問い立てなど)」で身に付けたベースを基に、3年生からはKFCチャレンジ(課題解決活動)を実施する。

School Data

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57
☎03-3411-5115(中高部代表)
<https://jhs.swu.ac.jp/>

- 創立 1920年
- 交通
 - 東急田園都市線「三軒茶屋」駅から徒歩約7分
 - 「渋谷」駅から下記方面行きバスを利用し、「昭和女子大」下車すぐ(上町・等々力・田園調布・弦巻営業所・二子玉川・高津営業所・成城学園・祖師谷大蔵・狛江・調布)
 - 「目黒」駅・「祐天寺」駅から三軒茶屋行きバスを利用し、「三軒茶屋」下車、徒歩約7分
 - 「下北沢」駅から駒沢陸橋行きバスを利用し、「三軒茶屋」下車、徒歩約7分

進化を止めない「SHOWA NEXT」が、生徒の成長や進路にどのような効果をもたらすのか、今後同校から目が離せない。

さらにセルフサイエンス(自己探究メソッド)で内面も強化し、グローバルマインドを身に付ける。

グローバル留学コース(以下G組)主任の福田百合子先生によれば、「G組では、全員参加のアジアディスカバリー(中3)、カナダ留学(高1・高2)に加え、昨年度から中3選抜生を対象にBSTへの国内留学も実施しており、これもKFC活動です」とのこと。

「KFC」は、「自分を知る、自ら道を開く、他者に貢献する」の3つの資質能力を育成するプログラム。具体的には、低学年の「国際教養(哲学・日本文化、問い立てなど)」で身に付けたベースを基に、3年生からはKFCチャレンジ(課題解決活動)を実施する。

さらにセルフサイエンス(自己探究メソッド)で内面も強化し、グローバルマインドを身に付ける。

グローバル留学コース(以下G組)主任の福田百合子先生によれば、「G組では、全員参加のアジアディスカバリー(中3)、カナダ留学(高1・高2)に加え、昨年度から中3選抜生を対象にBSTへの国内留学も実施しており、これもKFC活動です」とのこと。

「KFC」は、「自分を知る、自ら道を開く、他者に貢献する」の3つの資質能力を育成するプログラム。具体的には、低学年の「国際教養(哲学・日本文化、問い立てなど)」で身に付けたベースを基に、3年生からはKFCチャレンジ(課題解決活動)を実施する。



from the School

神杉旨宣校長

多様な課題解決の体験学習を通して、本校では自己肯定感の高い生徒が育っています。

城西大学附属城西中学・高等学校

Homepage



探究を軸にグローバル教育を展開 確固たる自己肯定感を育む



上/中3で全員が参加する、オーストラリア海外研修。ホームステイをしながら、現地校に通う。



左/オーストラリア滞在中は、異文化交流も行う。



高1の探究プログラム「Beyond(ビヨンド)」。グループワークで課題解決に取り組む。



中学3年間、英語の授業は習熟度別で行われている。英語4技能を磨く。



中1で行う、日本の自然や文化を体験するサマースクール。畑体験や飯盒炊飯などを行う。

多彩な体験を積み重ね 自信と国際性を深める

「自分を頼れる人になろう」をスローガンに掲げる城西大学附属城西中学・高等学校。そこに込められた思いについて、神杉旨宣校長は次のように話す。

「育てたいのは、自分を信じて自分の力に期待できる、人間味あふれる若者です。多感な中高生の時期にさまざまな課題に挑戦し、失敗から学ぶことも含めて自己肯定感が向上する体験を数多く積んでほしい。城西の多様な体験型プログラムは、そのためにあります」

例えば、中1のサマースクール(昨年度の舞台は群馬県嬬恋村)では、テント泊や農業体験などを実施。集団生活を通してコミュニケーション能力や協調性を身に付けるとともに、土の匂いや森の音など、都会では得がたい五感を研ぎ澄ませる体験が情操面を大きく成長させる。また、持ち帰った収穫物を食卓で家族と分かち合い、サマースクールでの体験を文化祭で発表するなど、達成感や成功体験のアウトプットは「自己肯定感を醸成する素地となる」と神杉校長。中2以降は、中学時集大成のオーストラリア海外研修(中3全員参加)に向けて準備に取り組む。英語4技能を磨くだけでなく、日本の文化と歴史を知り、日豪の比較文化研究を行うなど、さまざまな探究学習を重ねて研修本番を迎える。期間は3学期の2週間。プリズベンにホームス

テイシ、現地校に通う。

「習慣や考え方の違いに直面する海外研修は、比較文化研究の実践の場自分なりに問題を克服した生徒たちが自信を持ち、ひと回り成長して帰国する姿に頼もしさを感じます」

城西の教育は、探究学習とグローバル教育を融合させている点に最大の特徴がある。高校のプログラムはこの特徴がさらに顕著だ。例えば昨年度スタートした高1の探究型プログラム「Beyond(ビヨンド)」は、年間20コマを使い、国内外で活躍する特別講師の下、世界の課題解決にチャレンジする。また、ハワイ、台湾国内に分かれて実施される高2の修学旅行も、現地の課題をテーマとする探究型に徹した内容だ。

同校では、海外研修などで国際性に目覚め、海外大学進学を希望する生徒に向け、同校に通いながら米国内門高校の卒業資格を取得できる「USデュアルディプロマプログラム」も用意。今年度、第1期卒業生も輩出する。探究を軸としたグローバル教育が自己肯定感のみならず、国際人たる意識も高めてくれる学校だ。

School Data

〒171-0044
東京都豊島区千早1-10-26
☎03-3973-6331
https://josaigakuen.ac.jp/

- 創立 1918年
- 交通 ● 西武池袋線「椎名町」駅から徒歩約7分
- 交通 ● 東京メトロ有楽町線・副都心線「要町」駅から徒歩約6分

コアネットの

目 五感で感じるからこそ、真に深まっていく学び 城西大城西では机上での学びだけでなく、実体験を伴った学びを大事にしている。生徒が自らの発想に自信を持って、かたちにすることができるマインドは、そうした指導の下、伝統的に受け継がれてきた同校ならではの文化だろう。一度学校に足を運び、自信あふれる生徒たちの様子をぜひご覧いただきたい。



桐光学園中学校・高等学校



from the School

岡村 薫校長

カナダの高校とのダブルディプロマ(日本で卒業資格取得)や、グローバル併願をスタート。

TOKOオリジナルプログラムで 学園のグローバル化を加速



上・右/世界から注目される「High Tech High」の授業を盛り込んだサンディエゴ研修。
下/ケンブリッジ大学リーダーズ研修。グローバルに活躍するためのスキルを身に付ける。



桐光学園オリジナルのニュージーランドのターム留学。



桐光学園の年間行事のひとつ、「TOKOグローバルフェア」。生徒たちが主体的に企画する。



さまざまな部活が実績を出している。写真はインターハイで2019年に優勝、2023年に準優勝したサッカー部。

外研修・留学プログラムを手がけた。北米グローバル研修など、多彩な海外研修・留学プログラムを手がけた。

長く国際部長を務めてきた岡村校長。いち早くニュージーランドなどのターム留学を導入したのを皮切りに、英国の名門校イートンカレッジやケンブリッジ大学への短期留学、

北米グローバル研修など、多彩な海外研修・留学プログラムを手がけた。長く国際部長を務めてきた岡村校長。いち早くニュージーランドなどのターム留学を導入したのを皮切りに、英国の名門校イートンカレッジやケンブリッジ大学への短期留学、

男女別学制を採る桐光学園中学校・高等学校。今春、東大5名、京大4名、東工大5名、一橋大4名、

多彩な評価軸を設けて 生徒の多様性を支援

それら海外研修・留学プログラムはTOKOオリジナルなのだ。一昨年度から、世界的に注目されている米国のチャータースクール(州などの認可で公費により運営される)「High Tech High」のプログラムを盛り込んだサンディエゴ研修も加わった。また、国内にいながらにしてグローバルな体験ができるプログラムもある。中3対象の「TOKOイマージョンスクール」や、高2対象の「TOKOキャリア・プースト」などで、海外からの留学生を招いて調査・研究を基にプレゼンを行う。これらプログラムに生徒たちも一役買う。

「ターム留学をした生徒たちが、その体験を後輩に伝えたいと、2022年に『TOKOグローバルフェア』がスタートし、今年度から正式に特別委員会として組織化されます」

内発的な動機による自主的な行動を重んじる桐光学園。随時、受け付けている学校見学では、校長が直接案内することもある。

School Data

〒215-8555
神奈川県川崎市
麻生区栗木3-12-1
☎044-987-0519
<http://www.toko.ed.jp>
●創立 1978年
●交通 小田急多摩線「栗平」駅から徒歩約12分
※公式インスタグラム、公式フェイスブック公開中



from the School

社会科 福井延幸先生

さまざまな経験で、生徒は少しずつ成長します。勇気を持って踏み出す生徒を応援します。

目白研心中学校・高等学校

Homepage



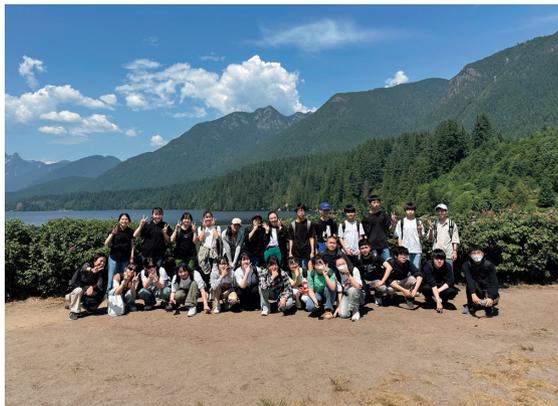
中高6年間で培う挑む力が 世界に踏み出す一歩に生きる



上右/2月に行われる中学の「英語スピーチコンテスト」本選。発声、身ぶりについても練習を重ね、自分の気持ちを英語で伝える。上左/桐陽祭(文化祭)では学年ごとに決められたテーマでスピーチに挑戦。生徒は少しずつ成長していく。



右/中2「イングリッシュキャンプ」は、国内のホテルに2泊3日滞在して行う、オールイングリッシュの英語宿泊。



中3は全員参加でカナダへ。特進コースと総合コースは修学旅行(10日間)、スーパーイングリッシュコース(SEC)は語学研修(3週間)として実施。SECは1人ずつ現地家庭にホームステイし、外国人向けのサマースクールに通う。



スピーチ体験の積み重ねで 英語力を伸ばす

昨年、100周年を迎えた目白研心中学校・高等学校。新宿区にありながら、緑に囲まれた広々としたキャンパスを持つ。2022年には中学校の新校舎も完成。恵まれた学習環境と、古くから力を入れてきた英語教育でも知られている。

同校の教育の特色となっているのが、30年前に導入した「ACE (Active Communication in English) プログラム」だ。日本人教員による英語の授業週4回のほか、ネイティブ教員による少人数制のクラスを週3回設定。海外のテキストを使って実践的なコミュニケーション英語を身に付けていく。語彙力を高めるための全校一斉英単語テストなども、英語力の土台を築くものとして成果を上げている。全校行事として47年間続いている「英語スピーチコンテスト」も同校の英語教育の柱となっている。中1「About Me」、中2「My Dream」、中3「Saving Thank You」と、学年ごとに決められたテーマでスピーチ原稿を作成して練習を繰り返す。全員参加の予選会を経て本選へ。選ばれた代表者は、大学教授など外部関係者も審査する舞台上でスピーチし、表彰もされる。

「1月の予選に向けて2学期から時間をかけて準備をします。内容を覚えるだけでなく、英語スピーチの基本に則った話し方、声の出し方、抑揚、身ぶり手ぶりなど、大勢の人に

伝えるためにはどうすべきかを学びます。英語力だけでなく、コミュニケーション能力、人間力を磨くための体験になっていると思います」と、社会科の福井延幸先生。

自分自身の考えを深め、人に伝わるように表現する経験は日本語でも行われる。「朝のホームルームを思い、自分について語る機会を設けています。同級生が内容、声の大きさ、態度などの評価をミニシートに書き込み、本人にフィードバックします。皆の前に立ち、反応を受け取る経験を繰り返すことで、生徒たちは殻を破り成長していくと感じます」

日本語と英語での自己表現と発信を中1から積み重ね、その集大成となるのが中3のカナダ修学旅行(特進総合コース、カナダ語学研修(スーパーイングリッシュコース)。14〜15歳での海外経験という大きなチャレンジが、高校以降の学びの動機付けとなる生徒が数多くいるという。

体験型の英語学習を特色とする目白研心は、来年、英語入試の形式を新たにし、可能性を秘めた生徒たちとの出会いを待っている。

School Data

〒161-8522
東京都新宿区落合4-31-1
☎03-5996-3133
https://mk.mejiro.ac.jp

- 創立 1923年
- 交通
 - 西武新宿線・都営地下鉄大江戸線「中井」駅から徒歩12分
 - 都営大江戸線「落合南長崎」駅から徒歩9分
 - 東京メトロ東西線「落合」駅から徒歩14分

コアネットの

目 多様な個性が生かせる入試を実施 ▶ さまざまな個性を持った生徒と出会うために、2科、4科に加え、適性検査型・英語資格・算数アドバンスト・英語アドバンスト入試など多様な入試を実施している。先生がそれぞれの生徒の強みを評価できるからこそ、多様な入試が実施可能である。入試科目からも生徒一人ひとりに寄り添う校風を感じることができる。



山手学院中学校・高等学校



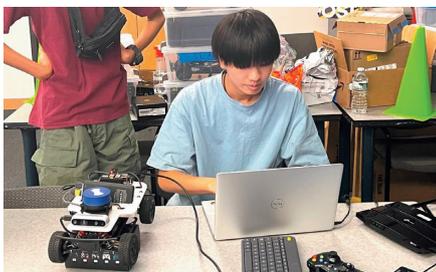
from the School

カリキュラムセンター長
入試対策部長 渡辺大輝先生
コミュニケーション力は学習意欲にもつながります。6年間の成長を楽しみにしてください。

意志あるところに未来は開ける 自ら伸びる力を引き出す国際教育



上/ GLP「Webプログラミング入門」ではプログラミングの基礎を学びホームページを作成する。
左/ GLP土曜講座「Eyes on the World」。外部講師を招きSDGsについて学ぶ。レゴブロックで世界の課題を形にすることにチャレンジ。



GLPの人気講座「ラジコンカーで学ぶ自動運転技術」。ラジコンカーにパソコンを搭載し、電子工作スキルや英語のマニュアルの読み方を習得。



上/ 高2の4月に全員参加で行われる北米研修。15泊16日の日程で2人1組でホームステイし、現地の学校の行事にも参加する。
左/ 7月には北米の生徒を日本に迎え、ホームステイしてもらう。クラブ活動にも一緒に参加。

先進校が打ち出す 国際交流プログラム

「世界を舞台に活躍でき、世界に信頼される人間」の育成を建学の精神とする山手学院中学校・高等学校。50年以上前に海外研修旅行をスタートさせ、国際交流プログラムを充実させてきた。全員参加の海外研修は同校最大の特徴だ。中3のオーストラリア(1週間)、高2の北米(約2週間)。いずれもホームステイ形式で、高2ではリターンビジット(北米の生徒が来日して生徒の家に宿泊)も設定されている。希望者は中期留学に挑戦することもでき、生徒たちの目は自ずと外へ向いていく。

近年は、新たな国際教育「GLP(グローバルリーダープログラム)」にも注目が集まっている。土曜日に開催されるプログラミング講座やリーダーシップ講座のほか、長期休みにはさまざまな学外ツアーを実施。例えば、シンガポール国立大の学生とグループワークを行うプログラムは、自分とは異なる視点で物事を捉えるマインドを養う貴重な機会となっている。今年度は新たに、台湾の主要都市を巡って現地学生とフィールドワークを行うプログラムや、立命館アジア太平洋大学(天分泉)の学生寮に宿泊し、同大の留学生や他校の高校生たちと地域の課題について探究するプログラムがスタートする。国内外の多様な人と協働できることを目指した内容で、ここに同校の国際教育の軸がある。GLPを担当する渡辺大

輝先生はこう語る。

「非認知能力の重要性は言うまでもありませんが、本校で身に付けてほしいのはコミュニケーション力です。私たちは、プログラミングも英語もコミュニケーションツールの一つと捉えています。GLPを活用してコミュニケーション力がつく体験をしてほしいと思います」

中1からこうした国際教育を受けている山手生にとって、大学受験の総合型選抜は追い風となっている。思考力や意欲などが多角的に問われる選抜方式は、山手生の強みを発揮しやすいからだ。制度を自分で調べてチャレンジ。難関大学に合格する例が増えている。「学校が働きかけるわけではなく、選択しているのはあくまで生徒。その挑戦を私たちはしっかり支援していきます」。強い意志で主体的に準備しなければ、出願さえできない総合型選抜。この形で未来を切り開く生徒が増えていることは、同校の国際教育が大きく開花している証拠といえるだろう。

School Data

〒247-0013 神奈川県横浜市栄区上郷町460

☎045-891-2111

<https://www.yamate-gakuin.ac.jp/>

- 創立 1966年
- 交通 ● JR京浜東北根岸線「港南台」駅から徒歩12分
- 横浜市営バス45、111系統ほか「横浜女子短期大学前」下車、徒歩4分
- 神奈川中央交通バス大船～金沢八景線ほか「山手学院入口」下車すぐ

コアネットの



たくさんのチャレンジの機会と多様な出会いが生徒の成長に▶今年度からカリキュラムセンターを立ち上げ、先生が一からつくるオリジナルプログラムや卒業生が協力する講座など、探究的な講座がさらに充実。自分自身が興味・関心のあることに、思う存分挑戦できる環境だ。学びの場は校内にとどまらず、国内外のさまざまな地域に広がり、その出会いが生徒たちの成長につながっている。



from the School

横山 強校長

薫英で培った英語力が、人間的成長と未来の可能性を無限大に広がります。

大阪薫英女学院中学校・高等学校

Homepage



中学で1年間の留学が可能 「英語の薫英」の独自性が光る



ネイティブ教員による総合英語の授業。生徒たちは恥ずかしがることなく楽しみながら英語で話している。



留学先では1家庭1人のホームステイで、1校につき最大3人まで。中学3年での留学は、自分をさらけ出すことができ、現地に溶け込むのも早いという。



中学の英語を担当する佐藤先生。



国際教育部部長の六浦先生。



「英語の薫英」と呼ばれている。

1年間の留学中、現地で2回開かれる「留学集会」。各地にいる薫英の留学生たちが一堂に集まって再会を喜び、苦しさや楽しさを語り合う。この日は日本から担任も現地に赴く。

留学が目的だからこそ 授業への意欲が向上

「ひとりで勉強しない」を合言葉に、クラス全員の留学だからこそ、仲間とのつながりを精神的支えに、集団でさまざまなことに取り組み、学力、そして人間的成長を目指す大阪薫英女学院中学校・高等学校。同校を象徴するのが独自の英語教育と、今年で37年目となる留学制度だ。

ニュージージーランドまたはカナダへの1年留学には毎年100名近くが参加しており、3カ月の短期留学も合わせると、これまでじつに1万名以上の生徒が留学を経験。特に中学校は入学時から留学を見据えた英語教育を展開しているため、半数から7割近い生徒が1年留学を希望する。また近年では同校を卒業した保護者が、「わが子にも留学経験を」と入学させる事例も増えているという。

薫英の留学制度を支えているのが国際教育部。部長の六浦由起子先生は、「本校は教員の力で海外姉妹校を開拓して、相手校との深い信頼関係を築いてきました。ここが他校の留学制度とは大きく異なる強みです」と説明する。留学前に姉妹校の教員が来校して生徒の心理的不安を取り除く取り組みができるのも、長年の協力体制があるからこそ。留学中も姉妹校との細やかな連携で生徒の安全安心を確保できるため、同校の留学はコロナ禍でも継続して行われていた。

留学を目的とするため生徒は英語

を学ぶ意欲が高く、英検®への挑戦にも積極的。事実、同校では22年連続で英検®1級合格者を輩出しており、国際科の生徒に限ると、約半数が卒業までに準1級に合格している。

中学生の英語指導に携わる佐藤啓先生は「入学時の英検®取得者は2割に過ぎませんが、本校では英検®講座を授業とは別に行っているため、自分のレベルに応じた挑戦ができます。それがやりがいなのでしょう。今年は中2で準1級を取得した生徒がいたのですが、彼女は高校生に交じって講座を受けていました」と話す。また中学での英語は、ネイティブ教員による総合英語の授業も実施。留学で体験するシチュエーションに合わせた英会話が学べるため、生徒からの人気も高いという。

英語への取り組みは、大学進学やその先の就職に大きな成果を上げている。関関同立のほか国公立大、上智、早稲田、立教など関東の私大の国際系学部や海外の大学に進学する者も少なくない。国際機関や外資系企業、エアラインなど、海外で活躍する卒業生が多いのも同校の特色と言えるだろう。

留学を目的とするため生徒は英語

School Data

〒566-8501
大阪府摂津市正雀1-4-1
☎06-6381-5381
<https://www.kun-ei.jp/>

- 創立 1931年
- 交通 ●阪急京都線「正雀」駅から徒歩5分
- JR京都線「岸辺」駅から徒歩10分
- 大阪モノレール「摂津」駅から徒歩15分

コアネットの

「薫英メソッド」で目指す真の国際人▶国際教育、英語教育の伝統校として有名な薫英。意外にも入学者は、英語大好きな子たちばかりではないとのことだが、高校卒業時には多くの生徒がネイティブと堂々と会話できるようになっているという。「薫英メソッド」の効果には驚かされる。コロナ禍を乗り越え、さらに進化した同校の英語教育と、生徒たちの活躍に注目したい。



武庫川女子大学附属中学校高等学校



from the School

世良田重人校長

武庫川学院が一体となり、「一生を描ききる女性力」の育成に取り組みます。

文理の枠にとらわれず 自らデザインした未来へ羽ばたく



自国文化を知る大切さと同時に、世界に伝えるべき価値あるものとして、「総合的な学習の時間」を活用し、中2で茶道・華道、中3で書道の授業が行われる。



アイルランドやフィンランドなど6カ国7校と交換留学の提携を結んでおり、外国からの留学生も常に受け入れている。



どこからも見える時計塔が目印。広いキャンパスには樹齢を重ねた大きな木が枝を広げ、生徒たちを見守っている。



韓国文化・フランス文化・中国文化から選択する第二外国語では、語学の習得はもちろん、その国の歴史や文化、慣習まで、高2から2年かけて学ぶ。



グローバル研修体験でタイのチェンマイの現地校と交流する。



西宮市と姉妹都市提携を結んでいるワシントン州スケポーン市にあるアメリカ分校。

大学附属校だからできる 10年かけた学び

保育園から大学院までを有し、1万人以上が学ぶ全国有数の女子総合学園である武庫川学院。武庫川女子大学附属中学校高等学校は私立女子高初のSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）の指定を受けて以来、10年以上にわたって科学に関する学びを深めてきた。

2024年度からはさらに深化し、新たな2コース制となった。

「SOAR」グローバルサイエンスコースでは、SSHの活動を継承し、科学的立場から探究的な活動に取り組み、グローバルリーダーとして活躍できる女性を育成していく。

「SOAR探究コース」は、中高を通して地元の各機関や大学と連携し、探究的な活動に取り組む。「本物」と直接触れることを重視し、将来のあるべき自分を見つめる。両コース共に文理の枠にとられない幅広い学びを選択できるのが特徴だ。

コース名の「SOAR」は武庫川女子大学独自の未来教育プログラムで、ジェンダー、セクシュアリティ、キャリアデザイナーなどを学び、主体性・論理性・実行力のある女性の育成を目指すというもの。「新コース設置に当たり、プログラムを中高に拡大しました。8割の生徒が武庫川女子大学に進学する本校では、中高の連携によって理数教育、英語教育、国際理解教育、探究活動といった強みがより際立つ内容となっている。

「ます」と世良田重人校長。海外姉妹校提携や短期・長期留学制度など、早くから世界に目を向けてきた同校。校内のセミナー棟には海外からの交換留学生が学ぶ特別教室があるなど、設備とともにノウハウも充実。「SOARグローバルサイエンス」では中3が約2週間、ワシントン州にある「アメリカ分校研修」へ。寮生活による短期留学で、語学力と異文化理解力の向上を目指す。

また中学では2・3年を対象に隔年でタイ・アメリカへ、高校では1〜3年を対象に、隔年でオーストラリア・北欧へ、それぞれ行き先を変えた研修を企画。注目したいのは北欧研修（デンマーク・スウェーデン・フィンランド）だ。好循環型社会の構築に向けて国家戦略として取り組む国々を訪問し、本物のウェルビーイングを体感する、他校にはない試みだ。生徒たちの個性は実に多彩。クラブ活動で全国大会に進出する生徒もいれば、学外活動を頑張る、理系を極める、留学を目指すなどそれぞれが輝き、共鳴し合う。得意分野の力を高め、自らの人生をデザインする。最上のステージがここにある。

School Data

〒663-8143
兵庫県西宮市枝川町4-16
☎0798-47-8102
(入試相談室)

<https://jhs.mukogawa-u.ac.jp>

- 創立 1939年
- 交通 阪神本線「甲子園」駅、「鳴尾・武庫川女子大前」駅から徒歩約20分

コアネットの目

2024年度より新コースがスタート。文理の枠にとられないプログラムに注目▶一生を描ききる女性力を育む女子校。2024年度よりSOAR探究コースとSOARグローバルサイエンスコースがスタート。どちらのコースも留学制度の充実度は卓越しているが、特にグローバルサイエンスコースは、SSHでの活動を継承しており、理系分野の活動もハイレベル。新コースの躍進にご注目いただきたい。



from the School

ランディ・ライマー先生

ネイティブ教員が担任を務め、常に英語のシャワーを浴びられる環境をつくっています。

左/チーム担任制で生徒一人ひとりをしっかりフォローする。
上/ネイティブの先生が教室にいるのが当たり前。ごく普通に英語での会話が始まる。



神戸龍谷中学校高等学校

Homepage



ネイティブ教員が深く関わり グローバル感性が育つ学びを強化



上/1年間の長期留学、3～6カ月の中期、1カ月の短期留学、海外研修と、海外に目を向ける制度が整っている。写真は高1の春に行うカナダ研修。

左/神戸市を見下ろす高台に位置する青谷学舎では、中学1～2年生が学ぶ。

開校からの英語教育が 新体制でより充実

100年以上の歴史を誇る神戸龍谷高等学校の併設校として、2005年に開校した神戸龍谷中学校高等学校。その歴史はグローバルな英語教育と共にあり、山崎眞一郎校長は「開校時にはクラスの大半が交換留学で海外に行き、また海外からの留学生を受け入れるプログラムがありました」と紹介する。現在も長・中・短期留学から海外研修まで幅広い海外プログラムを展開し、帰国子女の受け入れにも積極的。英語の授業では中1から少人数の特別クラスを設置し、英語を国語のように学ぶハイレベルな授業を展開。帰国子女だけでなく、入学後に英語力を伸ばした生徒にも門戸は開かれている。

そんな同校の最大の特徴は、ネイティブ教員が担任として生徒の学校生活に寄り添う環境だ。以前から学年ごとに1～2名のネイティブ専任教師が存在したが、昨年よりチーム担任制を導入したことで、ネイティブを含む6名ほどの教員が1学年の全クラスを担当。週替わりのローテーションでクラスを回るため、生徒全員が授業以外にもネイティブ教員と過ごす機会をより多く持てる環境が生まれた。

チーム担任制は、担任団が学年全員の個性や習熟度を把握することにもつながっている。同校では中間テストの代わりに、3週間に一度のペースで単元の内容を確認するプロッ

クテストを実施。さらに全教科のテストの結果をパソコンで管理し分析することで、生徒一人ひとりの細かな習熟度だけでなく理解のクセを把握し、教員間で共有して指導する体制を整えている。中学では週3回のフォロー授業があり、教科の枠を超えて生徒のわからない部分を残さない時間として活用している。

同校ではネイティブ教員を、アシスタントではなくメイン教員として採用。20年以上勤める教員もおり、神戸龍谷歴12年のランディ・ライマー先生は昨年より、全教科の学習指導統括も務めている。

「学習データの蓄積・分析をさらに高め、生徒のより良い支援につなげたいと考えています。本校は教員同士のフレキシブルな協力関係ができしており、英語・日本語を交えながらより魅力的な学校にしよう」と頑張っています。そこが神戸龍谷の素晴らしさですね」とライマー先生。グローバルな環境があるからこそ、長・中・短期留学の利用者も多い同校。多様な経験を生かして国公立大学進学も期待されている。

School Data

〒651-0051
兵庫県神戸市中央区神仏通1-3-8
(青谷学舎)
☎078-241-6417
<https://www.koberyukoku.ed.jp>

- 創立 2005年(中学校)
- 交通 ●神戸市バス2、18系統「青谷」下車、青谷学舎まで徒歩約5分
- 阪急神戸線「王子公園」駅から徒歩約25分

コアネットの

2コース体制に生まれ変わった神戸龍谷の進化▶2023年よりエキスパートとアドバンスの2コースへ移行した同校。同時に、以前から定評のあったフォロー体制をさらに進化。チーム担任制の導入など、新しい神戸龍谷へ生まれ変わった。ネイティブ教員が常勤し、海外研修の機会も充実させており、生徒たちの幅広い進路希望に対応できるよう整備された環境は、ぜひ実際にご覧いただきたい。



三田学園中学校・高等学校



from the School

眞砂和典校長

グローバルリーダー育成を目指し、海外の大学に行きたくなる仕掛けを整えています。

グローバルリーダーを育成し 海外大学進学への道を開く

和5年度三田学園中学校入学式



左/昨年の中学校の入学式には、姉妹校となった西オーストラリア州のGMAS (Georgiana Molloy Anglican School) の教員が来校してあいさつ。

下/Yele UniversityのWhim'n Rhythm公演。



昨年夏に行われたGMASへの研修旅行には20人の生徒が参加。



左/16万㎡もの広大な敷地を誇る学園。



右/9月にはニュージーランドの中学校の生徒20人をホームステイで受け入れ。体育大会にも参加して交流を深めた。

日本型と世界標準教育とのハイブリッドな教育へ進化

創立113年目を迎える三田学園中学校・高等学校では、2030ビジョン「Creation of Future Values (未来の価値観創造)」を掲げ、文武両道の伝統校からグローバルリーダーを育成する学校への進化を進めている。

2022年度より課題解決型の「総合学習」、ロボティクスの要素を盛り込んだ「STREAM」、国際人に必要とされる資質をオールイングリッシェの授業で磨く「GCP」の三本柱からなる探究SGメソッドをスタート。なかでも「GCP」ではコミュニケーション能力や適応力、共感力といった非認知スキルを高めることに重きを置き、スキルを数値で評価するアセスメントを導入。生徒が自身の非認知スキル成長を実感できる仕組みが整えられている。さらに三田学園では教科指導の特色化にも取り組み、従来の講義型から、問いを立てる創発型授業への転換も進められている。

この改革を推進しているのが、長年にわたり国際バカロレア(IB)教育に携わってきた眞砂和典校長だ。22年の校長着任よりIBのノウハウを教員に伝え、日本型教育と世界標準教育のハイブリッドとなる独自の教育スタイルをつくり上げている。さらに学園としてグローバルプログラムの強化にも注力し、新たにニュージーランドの中学校(BHB)

と姉妹校協定を締結し、以前からの姉妹校である西オーストラリア州にある高校(GMAS)と共に、文通やホームステイで国際交流を深め、生徒のグローバル志向を徐々に高めている。その結果「日本に来た姉妹校の生徒と友達になったので、次はこちらから会いに行きたい」といったモチベーションから、姉妹校研修に参加する生徒が着実に増えているという。

姉妹校研修のほか、シリコンバレーでの研修や、最長3カ月のチーム留学に加え、24年度からはデュアル・ディプロマ・プログラム(DDP)も導入した。「DDPとは2年間のオンライン履修で、三田学園の卒業資格とアメリカの高校卒業資格の同時取得が可能となるプログラムです。マサチューセッツ大学ボストン校などのアメリカの大学への道が開かれるため、グローバルリーダーを育成する三田学園にふさわしいと考え、導入しました」と眞砂校長は語る。DDPは国内大学総合型選抜試験にも活用可能。新たな三田学園はハイブリッドな進路を生徒に提案している。

School Data

〒669-1535
兵庫県三田市南が丘2-13-65
☎079-564-2291
<https://www.sandagakuen.ed.jp/>
●創立 1912年
●交通 神戸電鉄「横山」駅から徒歩1分

コアネットの

伝統の全人教育と国際教育がさらに進化▶グローバルリーダーの育成を目標に掲げ、国際人に必要とされるコミュニケーション能力やリーダーシップを育むプログラムの実践を積み重ねてきた同校。今年、新しい海外オンラインプログラムの導入によりアメリカの高校卒業資格の取得が可能となり、進路選択肢がさらに広がった。



from the School

情報科 平柳 秀先生

デジタル端末で共同作業をするのは、本校の生徒たちにとって、当たり前になっています。

城北中学校・高等学校

Homepage



中1から始まるプログラミング 共通テストを見越す「情報」教育



上／朝の主体的な特別活動の時間。生徒自身のクリエイティブな発想が磨かれる。
右／高校棟5階のコンピュータ教室。「情報」の授業や総合学習などで利用する。



中学の総合学習「情報」でICTの基礎から応用までを学ぶ。プログラミングも実践する。



左／アクティブラーニングの専用教室「iRoom」。
下／一人ひとりが独自のテーマを掘り下げて研究する「卒業研究」。中3の3学期にICTを駆使して発表する。



23区内最大級の人工芝のグラウンドでは、サッカー部やラグビー部などが活動する。

情報科の専任教員を配置 生成AIも積極的に活用

城北中学校・高等学校は「人間形成と大学進学」を教育目標とする男子校。教育指導にICTを積極的に導入する取り組みを続けてきており、その環境も充実している。だが、単に黒板やノートに置き換えるのではなく、興味・関心に従って生徒たちが自ら学べる環境づくりが、同校のICT活用の目的だ。

周知のとおり、2022年度より高校で「情報I」が必修科目となり、2025年入試から大学入学共通テストの科目にも加えられる。同校はその準備にも怠りがない。

「共通テストに照準を合わせた情報教育を、中学から実施しています」と言うのは情報科の平柳 秀先生。情報科の専任教員を置く学校は、まだそう多くはない。この点でも同校は一歩先んじている観がある。

「中学では総合学習において『情報』の内容も盛り込みながら授業を展開しています。機器やアプリの使い方はもちろん、中1から人型ロボットを動かすプログラミングも学びます」

高校の「情報I」で学ぶのは、ネットなどから得られる情報の信頼性の判断や、情報の適正な扱い方や表現、そしてプログラミングとデータ活用などだ。しかし、同校では「中学の3年間で、共通テストで要求されるレベルのことは、ひととおり学習する」と言う。

さらに、中学の「総合学習」は「調

べる↓ディスカッションする↓まとめる↓発表する」という探究学習のプロセスを経て卒業研究・発表へとつないでいく。

高校2年の「情報I」では「最近話題の生成AIを使いながら、データサイエンスの学習もします」と平柳先生。AIは便利なツールだが、その仕組みや影響をよく理解し、自分自身で判断して適切に活用していく能力が求められる。

「逆に言うと、AIの活用では、回答の信頼性を判断できる（ファクトチェック）能力の有無が大切になります」そこで、いきなりAIに回答を求めめるのではなく、問いかけるテーマについて調べたうえで、AIを使う指導法を探る。AIの回答をあくまで参考とし、自身の回答を補完して独自のものにしていくのである。

「進学対策でも、総合型選抜や学校推薦型選抜の自己推薦書作成で、アピールしたいことをうまく表現できない生徒もいます。来年度の高3では、その対策にAIを活用しようとも考えています」

「情報」の学びも城北のそれは、一貫して実践的である。

School Data

〒174-8711
東京都板橋区東新町2-28-1
☎03-3956-3157
https://www.johoku.ac.jp

- 創立 1941年
- 交通 ● 東武東上線「上板橋」駅から徒歩約10分
- 東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原」駅から徒歩約20分

コアネットの

活気あふれる進学校。昔も今も変わらぬ生徒の向上心とそれをサポートする教員▶言わずと知れた進学校の城北。進学校であり続けるゆえんは、「負けないぞ」という生徒の向上心に尽きる。そしてそれを見守る教員は、ここ数年で一気に若返っている。20～30代が多く、校内はスピード感と活気あふれる。新しい時代に求められる教育活動に意欲的にチャレンジする姿は要注目だ。



聖心女子学院 初等科・中等科・高等科

発達段階に合わせた4・4・4制と生活に関わる理科教育に特色

from the School



理科 平山美樹先生

ボランティア活動が盛んで、世界の中で自分が置かれた立場を実感できます。



左/細胞生物学、生態学、生物多様性など生物的話題や、実験技術や解剖法などを英語で学ぶ。使える英語を身に付ける。

下/学校生活では、異学年が交流するさまざまな機会がある。



8年生は奥日光へ。電気もガスも電波もない環境で、2泊3日のキャンプ体験をする。

初等科から顕微鏡の使い方を学び、解剖実験を行う。顕微鏡は1人1台用意されている。



5・6年の校外学習は清里へ。清里の自然について学び、自然を守るために自分たちに何ができるか考える時間を過ごす。



五感で読み解く さまざまな体験型授業

カトリックミッションスクールとして創立され、2023(令和5)年度に115周年を迎えた伝統校。祈りと宗教教育により自分と向き合う姿勢を大切に、「より良い社会を築くことに貢献する賢明な女性の育成」を掲げる小中高一貫校である。女子の成長に適した4・4・4制

で展開する教育プログラムに、同校の特色がある。それは教育方針の「魂を育てる、知性を磨く、実行力を養う」に基づき、卒業時の目標を細かく設定したもので、小中高の12年間を通じ「社会性」「意欲力」「生き方における志向性」を育む内容となっている。ファースト・ステージは小学1年〜4年、セカンド・ステージは小学5年〜中学2年、サード・ステージは中学3年〜高校3年で、学年も1年(小)から12年(高3)と通して呼ぶ。

したがって6・3・3制に準じた中学入試は行われておらず、初等科5年(小5)の転入・編入入試と中等科7年次(中1)の帰国生入試がある。国際性や探究心の育成にも力を入れているが、その教育姿勢をよく表す教科として理科がある。

港区白金に約5ヘクタールの緑豊かなキャンパスを持つ同校。「その自然を利用して、生徒一人ひとりが五感で感じたものを、生活のなかに活かしていただける授業を展開しています」と理科の平山美樹先生。

「生徒は初等科の1年次に自分の木を決めて、継続観察します。季節ごとの変化や年を追って成長するその姿から、身近な自然や生き物に向けて目を養っていきます」

一人一台の顕微鏡が備えられ、実験体験も多彩だ。例えば、解剖実験は初等科から行う。8年生(中2)では豚の眼球、10年生(高1)では豚の胎児の解剖を行うというから驚く。学内の畑で野菜の栽培をすれば、カイクを育てて繭から糸を紡ぐといった経験もする。今年度から新たに養蜂を始めるという。

衣食住の生活がどう成り立っているのかが見えにくい現代。「五感を働かせる理科の体験で、自分たちが何によって生かされているのかを知り、命の尊さを実感し、倫理観も育まれていく」と平山先生は言う。それは科学的で論理的な思考を育むこと、社会や経済を知ることにもつながる。実際に理系の大学に進む生徒は、受験生のおよそ3分の1を占める。暮らしのあらゆる部分に関わる科学する力を、聖心女子学院は大切にしている学校である。

School Data

〒108-0072
東京都港区白金4-11-1
☎03-3444-7671
https://www.tky-sacred-heart.ed.jp

- 創立 1908年
- 交通 ● 東京メトロ南北線・都営三田線「白金台」駅から徒歩10分
- JRF「渋谷」駅、「恵比寿」駅から都営バス田町駅行き都営バスで、「北里研究所前」下車、徒歩3分

コアネットの



32の国・地域にまたがる姉妹校ネットワークを活かした国際交流▶世界中に姉妹校や提携校があり、毎年大規模な交換留学を実施している。2023年度は、豪州やアメリカ各地、英国等の姉妹校や提携校から、約40名を留学生として受け入れ、聖心女子学院からもほぼ同数の生徒が海外へ留学している。留学だけでなく、姉妹校や提携校との交流会も行われており、国際交流の機会が豊富に用意されている。



from the School

今井 誠副校長

生徒がやりたいことを応援します。「失敗しても気にしない」が、すでに校風になっています。

三田国際学園中学校・高等学校

Homepage



「サイエンスリテラシー」を基礎に 社会課題の解決に挑む実践教育



上/理論と実践の双方のアプローチで研究活動を深める。



上/メディカルサイエンステクノロジーコースの高1~2で行う基礎研究β。研究者としての姿勢を培う。

右/探究の技法を学ぶ、「サイエンスリテラシー」の授業。中1全クラスで行う。



左/「サイエンスを学ぶことは、さまざまな課題を解決するための道具を手に入れることです」と、サイエンス教育を牽引する教頭・MST部長の辻 敏之先生。

科学的アプローチを軸に 目指すは「世界標準の教育」

校名を改称し、共学化した2015年以来、三田国際学園中学校・高等学校は、教員が一同となった教育改革において先陣を走り、その注目度が年を追って高まっている。

「近年は、本校が掲げる『世界標準』の教育に対する認知が、かなり定着してきた気がします」と今井 誠副校長は言う。

その「世界標準」の教育は、3本の柱からなっている。「SCIENCE」「INTERNATIONAL」「THINK&ACT」である。なかでも考える力の基礎づくりが「SCIENCE」だ。

その捉え方は和訳の「科学」とも、学科の「理数」とも意味合いが異なる。「科学的で論理的なアプローチによる考察」を指す。教科や学問領域を分けることなく、自由な発想で物事を考え、自ら見いだした課題の解決を図る探究の学習プロセスとも重なり合う。そうした教育姿勢は、インターナショナルサイエンス（ISC）、メディカルサイエンステクノロジー（MSTC）、インターナショナル（IC）という、同校のクラス（中学）、コース（高校）の名称とカリキュラムにも色濃く反映されている。論理的に考える力（SCIENCE）を礎として、国際性（INTERNATIONAL）を身に付け、考えた解決策を実行に移し（THINK&ACT）、国際社会に貢献できる人材に育てることを、同校

は使命としているのである。

その教育に対する認知度、共感度は、出願者数と進学実績にも表れている。今年度の入試では、160人の募集に2717人の応募があった。大学合格実績が昨年度の3期生まで連続して伸びる一方、入試では受験生の学力レベルも上がり、2月1日午前の出願者の受験率は9割を超えた。「本校の教育を熱望する保護者が多いことの表れ」と今井副校長は見る。

この春は東京大学、米国アイビーリーグのプリンストン大学にも入学生を送り出した。国内外の難関校に多数の合格者を出しており、今後の実績のさらなる伸びも期待される。

中学の3年間で身に付ける 研究者としての素養

考える力と自律的な学習姿勢を育む同校には、それを特長づける授業として「サイエンスリテラシー」がある。中学1年次に、全クラスの生徒がこれを受ける。サイエンスリテラシーでは「課題発見→情報・知識の収集→分析→意見構築→表現」という科学的なアプローチのサイクルを身に付ける。これが客観的な理解と論理的な考察の基礎となるからだ。「この学びのサイクルを体験すると、生徒たちはやがて、自分でテーマを探し出して学習するようになります」と言うのは博士号を持つ辻敏之教頭。「科学的アプローチのサイクルは、理系に限らずあらゆる分野において、正解のない社会課題を解決し



上/国際ナショナル・ティーチャーは34人。授業だけでなく進路指導、受験対策、課題活動の指導も行う。



左/3つのサイエンスラボに併設されているカルチャーラボ。微生物の培養や遺伝子組み換えなどの高度な実験もできる。



上/準備が進められているサイエンスラボ棟。多様なスペースが用意されている。

最近で特筆すべき同校の話題は、サイエンスラボ棟(仮称)の新設である。現在もサイエンスラボと名付けられた教室があるが、この新校舎は生徒たちが自主的に「科学する場」としてオープンする予定だ。

理科実験などを行う講義室に加え、グループワークや生徒が1人で思索するスペースなど多様な空間が組み込まれる。同校には辻教頭をはじめ博士号を持つ教師陣と専門スタッフがいる。従来同様に、サイエンスラ

自由な発想で活用できるサイエンスラボ棟を新設

同校では、科学的な考察という基盤の上に、社会や世界への好奇心、探究心を築いていく体系的な教育プログラムが組まれている。

へという流れになっている。

「新設されるサイエンスラボ棟では、社会的にニーズが高まっているデータサイエンスも取り入れようと考えています。また、探究の学習と体験は、生徒たちのキャリアデザインに反映されていきます。サイエンスラボ棟がその舞台装置として活用されることを期待しています」

社会課題を解決するための同校のサイエンス教育の環境は、さらに充実度を高めようとしている。

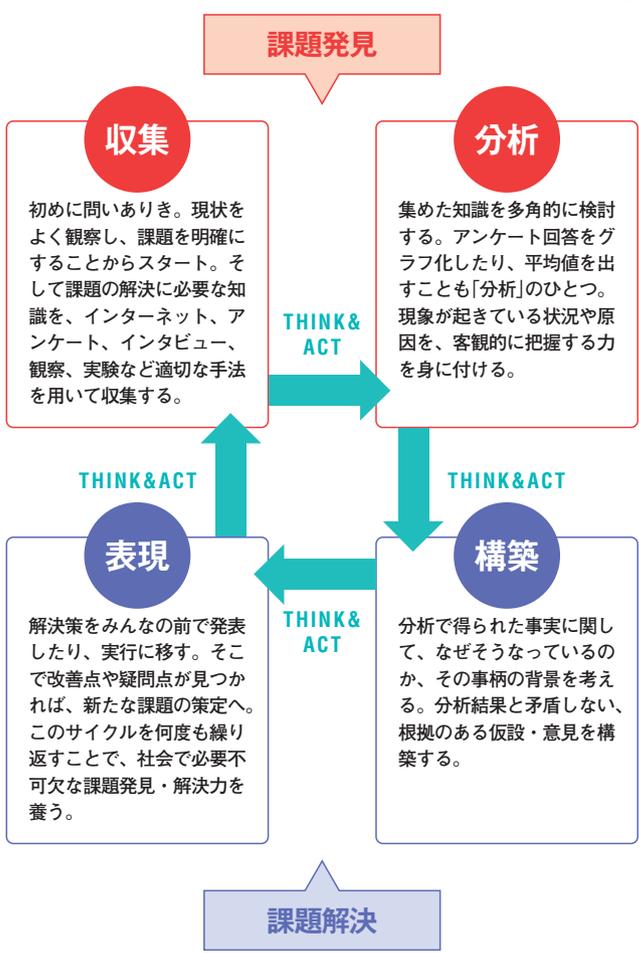
School Data

〒158-0097
 東京都世田谷区用賀2-16-1
 ☎03-3707-5676
<https://www.mita-is.ed.jp/>

- 創立 1902年
- 交通 東急田園都市線「用賀」駅から徒歩5分

コアネットの 生徒たちの発想力を支えるため、研鑽を続ける教員団 ▶年に3回、全員参加で行われる教員研修で、これからの時代に必要な教育について考え、共有をしている三田国際学園。博士号を持つ先生方や30名以上の国際ナショナル・ティーチャーも含めた知識豊富な教員団が、生徒たちの探究心や自由な発想を引き出す手助けをしてくれている。

科学的アプローチのサイクル





from the School

片倉 敦教育支援センター長

学内外の人たちと交流し刺激し
合える環境があります。創造的
学力を伸ばしましょう。

順天中学校・高等学校

Homepage



探究から研究へ、 そして未来を創る人になる



高等部の海外研修は6カ国7コースから選べる。「マレーシアスタディツアー」では児童養護施設の子供たちや現地スタッフと共に活動する。



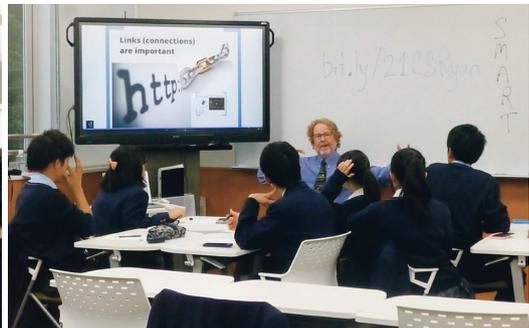
福祉教育にも力を入れている。地域と協力してさまざまな活動を行っている。高齢者施設を訪問して一緒にダンスを楽しむ。



左／高校理数選抜類型「理数探究」の授業では、課題の見つけ方、研究の方法、実験技術の基礎を学ぶ。写真は「ミドリムシによる大腸菌減菌作用」の実験の様子。

下左／理数選抜類型は、中高生を対象としたサイエンスコンテスト「つくばサイエンスエッジ」の日本語・英語ポスター発表に出場。

下右／「グローバルウィーク」は国内外の大学教員、企業・団体職員などが来校し、それぞれのテーマで生徒とディスカッションを行う場。



独自の教育がさらに進化 2026年に大きく変わる

「英知をもって国際社会で活躍できる人間を育てる」を教育目標とする順天中学校・高等学校。創造的学力（主体性）、国際対話力（多様性）、人間関係力（協働性）の三つの資質・能力を育てるために中1から独自のカリキュラムを組んでいる。十分に時間をかけて系統的に学習する国・数・英に対して、社会と理科は探究型の学習を展開。「なぜ？」という疑問を足掛かりに、主体的に学んで思考を深める姿勢を育てていく。

中学で築いた探究学習を土台に、高校ではさらに上のステージへ。高1・高2と学年をまたいで実施される週1回の「総合的探究」の授業では、全員が自分のテーマを設定。国内外のネットワークを生かして社会貢献につながる課題解決に取り組む。高校の理数選抜類型（Sクラス）では「理数探究」の時間が設けられ、研究を発展させることができる。生徒たちの研究成果は学会や科学コンテスト等で発表する。2024年の「つくばサイエンスエッジ」で「日焼け止め成分ベンゾフェノンが淡水域生態系に及ぼしうる深刻な影響」が環境分野の最高賞であるGLQ賞を受賞し、海外コンテストの招待権も獲得したのをはじめ、JSEEC（高校生・高専生科学技術チャレンジ）、大学主催のコンテスト等でも受賞した。「高校生の授業であっても、再現性のある独自の研究を目指しています。」

「理数探究」の授業を担当している亀田麻記子教員の下、ミドリムシチームの研究は現在も続いています」と片倉敦教育支援センター長。研究環境を整えるために、日本学術振興会の助成金を得たり、大学の研究室で実験をさせてもらったり、外部組織と積極的に協力・連携して、生徒たちの探究心を支えているという。昨年、同校に決定的な動きがあった。学校法人順天学園と学校法人北里研究所の合併により、2026年度より北里研究所が設置する学校となる予定なのだ。

和算の研究者・福田理軒が開いた順天堂塾を始まりとする同校。建学の精神は「順天求合自然の摂理に従って真理を探究する」で、医療・生命科学系の総合大学である北里大学、および母体の北里研究所とは、目指す方向や社会貢献に対する思いを同じくする。「付属校になることで、これまで以上に理数探究が深まっていくでしょう」

新しくなる順天への期待は大きい。今、最も目が離せない学校の一つだ。

School Data

〒114-0022
東京都北区王子本町1-17-13
☎03-3908-2966
<https://www.junten.ed.jp/>

- 創立 1834年
- 交通
 - JR京浜東北線、東京メトロ南北線「王子」駅から徒歩3分
 - 東京さくらトラム（都電荒川線）「王子駅前」駅から徒歩3分

コアネットの

探究学習に力を入れる、順天の「グローバルウィーク」▶「立場を超えて互いに学びあう一週間」をスローガンに、2016年から実施している「グローバルウィーク」。生徒と共有したい話題を持つ大学教員などが、2023年は83組も来校。生徒と情報交換や意見交換を行った。「味覚」をテーマにしたトピックに参加し、将来の進路を食関連にしたいと考えようになった生徒もいたそうだ。



大阪女学院中学校・高等学校



from the School

理科 宮崎拓哉先生

理科教育を通じて、生徒たちには未知の世界を切り開く知性と強さを身に付けてほしい。

リベラルアーツなカリキュラムで 自由で多様な未来を開く力を育成



上・左/街中とは思えない落ち着いた学舎。正面の建物はヴォーリス設計のハールチャペル(国登録有形文化財)。
右/創立者ハール宣教師の名を冠したハールチャペルの内部。キリスト教教育で心豊かな情操を育む。



ボランティア活動にも積極的だ。



中高で5つの理科実験室があり、生徒は実体顕微鏡と光学顕微鏡の2種類を1人1台使うことができる。



科学的な思考力・表現力を 育む中学校の理科教育

1884年の創立より、キリスト教に基づく女子教育を続けている大阪女学院中学校・高等学校では、自分で考え、行動し、その結果を引き受ける「責任ある自由」を身に付ける教育を大切にしている。自主性を尊重する校風で、生徒たちは学校生活を伸び伸びと楽しみ、8割以上の生徒がクラブ活動をしながら行事や勉強にアクティブに取り組んでいる。

中学では、コース設定のないリベラルアーツのカリキュラムを実施。英語教育に伝統があるが、理科教育にも力を入れており、中高で化学・物理・生物・地学系統の計5施設の理科実験室を有し、授業では一人一台の顕微鏡が利用できる環境が整っている。

中学では実験室を活用した授業を展開。中1では学院の豊かな庭園で植物採集を行い、双眼実体顕微鏡で観察。中2では庭園のビオトープで微生物を観察し、生態系についての学びに発展させる。また中2・中3では解剖にも挑戦し、10年ほど前から1人1尾のフナを1カ月かけて解剖する取り組みを行っている。人間と比較しながら臓器の特徴や構造を理解し、スケッチで記録を残しながら種名を判断する。

大阪女学院が理科教育に力を入れる目的について、中学の生物の授業を担当する宮崎拓哉先生は「理系への苦手意識を払拭する目的もありま

すが、これからの社会では、未知なるものと遭遇したときに、何ができるかを自分で考え、行動できることが大切。理科実験はその予行練習になると考えています。また理科に限らず、すべての教科が人生を豊かにするという考えから、本校では中期は幅広く人文科学に触れることを大切にしています」と話す。

高校では、普通科文系・普通科理系・英語科英語・英語科国際バカロレアの4コースから生徒自身が進路を選択するが、中学での理科教育を機に理系を選択し、大学も医学部や農学部などへ進む生徒も少なくないという。また英語教育に力を入れているため、理系を選択しても英語が得意だという生徒が多いのも同校の特色。大学受験でも、英語力を生かした推薦枠を利用できるのが強みだと宮崎先生は話す。

年齢に応じた生徒の興味関心を喚起する本物の学びを用意することで、多様な進路選択の実現につなげている本校。140年の女子校の伝統は、今の時代にも輝きを放っている。

School Data

〒540-0004
大阪府大阪市中央区玉造2-26-54
☎06-6761-4451 (中学校)
https://www.osaka-jogakuin.ed.jp/

- 創立 1884年
- 交通
 - 大阪メトロ長堀鶴見緑地線「玉造」駅から徒歩約3分
 - JR大阪環状線「玉造」駅から徒歩約8分
 - 大阪環状線・大阪メトロ中央線「森ノ宮」駅から徒歩約12分

コアネットの

文理の分野を問わない長い実践の蓄積が平和をつくる女性を育む▶海外大学への進路を支援する専門の部署があり、国際教育に力を入れていることで知られる同校だが、実は伝統的に理系教育にも力を入れている。女子が興味を持つ教え方を知り尽くした同校の理系カリキュラムは、文理問わず女性の活躍が期待される昨今においてますます注目されている。アットホームな校風もぜひイベントで体験していただきたい。



龍谷大学付属平安高等学校・中学校

Homepage



新たな学び舎が誕生 可能性を広げる6年間が始まる

from the School

山脇 護校長

「STEAM棟」には、日々の学校生活の中で探究心が育まれる工夫を仕掛けています。

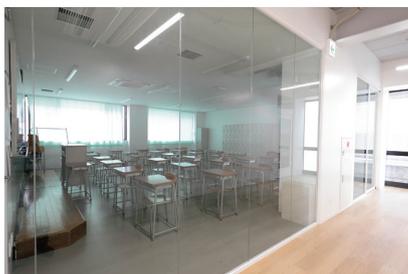
あえてむき出しにした理科室の天井。生徒たちの好奇心をあおる仕掛けだ。



理系探究合宿、中1は琵琶湖の水質調査(上)、中2は化石掘りを体験(下)。



昨年9月に完成したばかりの北校舎「STEAM棟」外観。



徹底的に「見える化」にこだわった教室。



理科、教頭兼企画情報部部长
五十嵐先生。



知的好奇心や探究心を 育む「STEAM棟」

親鸞聖人の教えに基づく人間教育を建学の精神とし、1876年に創設された龍谷大学付属平安高等学校・中学校。難関大学を目指す「特進」、龍谷大学に進学する「プログレス」のほか、甲子園での全国制覇を目標とする硬式野球部の生徒で編成される「アスリート」の3コースがあり、それぞれに人間力を磨き、夢の実現を目指す教育を実践している。2026年に創立150年を迎える同校は今、大きく変わろうとしている。27年3月完成予定で平安エリア施設整備準備事業が進行中で、昨年9月には新校舎（北校舎、至心館「体育館」）が完成。北校舎は別名「STEAM棟」として、建物自体を教材化している。

例えば1階の和室を見ると、天井から床、柱、建具まで種類の異なる木が使われ、色や木目の違い、特性から用途まで、生徒たちが考える工夫がなされている。仮設で使われている教室は、ガラス張りで開放的な雰囲気。教室棟が完成すると、このスタイルが採用される予定である。

3階には二つの理科室があり、面白いのが天井の見せ方だ。このフロアは直天井になっており、配線や配管がむき出しの状態。建物の中がどうなっているかを知ることができる。さらにシンク下のパネルを外すとスケルトン状態で、透明なパイプを流れる水を見ながら、構造や形の意味

に自然と触れられる。

教育設備の委員長でもある五十嵐茂樹教頭は、設計の意図をこう語る。「中1のときはパイプの構造を面白く感じるだけでも、学年が上がれば授業で習ったあの原理だと理解できる。校舎を教材化することで、日々発見したり、疑問を持つなどの思考力が育まれます」

今後も施設整備を進め、来年3月には龍谷大学心理学部との共有施設となる黎明館、27年3月までにすべての校舎整備が完了予定。一つの校舎を大学と中高がシェアして共に学ぶ黎明館は、同校が取り組む「中高大連携」の起点となる。

「探究とSTEAM教育は、別物ではなく連動させないと意味がない。それが結果的に文理融合となり、生徒の視野も進路選択の幅も広がっていく」と五十嵐教頭。だからこそ同校では学ぶ動機を多角的に掘り起こし、いろいろな視点から物事を見て考える力を身に付けさせる。日々の探究的な学びは、目指すべき未来への確かな道しるべとなるはずだ。

School Data

〒600-8267
京都府京都市下京区
大宮通七条上ル御器屋町30
☎075-361-4231
<https://www.heian.ed.jp/>

- 創立 1876年
- 交通
 - JR「京都」駅からバスで約5分、または徒歩約15分
 - JR嵯峨野線「梅小路京都西」駅から徒歩7分
 - 阪急京都線「大宮」駅からバスで約5分、徒歩約15分

East

首都圏

東京都 / 神奈川県
埼玉県 / 長野県

私立ならではの教育が魅力の首都圏の中高一貫校37校



Nagano

松本駅 ■ 松本秀峰 P62

Saitama

Ibaraki

Tokyo

文京学院大学女子 P51

成城(グローバル) P30

城北(サイエンス) P42

城西大学附属城西(グローバル) P34

目白研心(グローバル) P36

明法 P61

佼成学園(グローバル) P29

東京農業大学第一(探究) P20

立川駅

共立女子第二 P53

佼成学園女子(グローバル) P32

八王子駅 国本女子(グローバル) P31

穎明館 P55

桐光学園(グローバル) P35

東京都市大学付属 P50

三田国際学園(サイエンス) P44

昭和女子大学附属昭和(グローバル) P33

実践女子学園(探究) P12

神奈川大学附属 P56

法政大学第二 P60

武南 P58

順天(サイエンス) P46

女子聖学院(探究) P13

東京家政学院(探究) P14

駒込(探究) P18

神田女学園(探究) P11

共立女子 P52

和洋九段女子 P54

東京女学館(探究) P15

聖心女子学院(サイエンス) P43

青稜(探究) P19

文教大学付属 P59

東京国際空港(羽田空港)

立正大学付属立正(探究) P21

池袋駅

新宿駅

上野駅

東京駅

品川駅

川崎駅

横浜駅

関東学院(探究) P17

横浜女学院(探究) P16

Kanagawa

日本大学藤沢 P57

山手学院(グローバル) P37

Chiba



from the School

篠塚弘康校長

生徒と教員の距離が近いのも校風です。教員は気兼ねなく相談できる先輩でもあります。

東京都市大学付属中学校・高等学校

Homepage



夢の実現のため、社会と自分を知る 中高6年間の「自分発見プログラム」



上/ニュージーランド語学研修。語学力と「生きる力」を磨くことができる。

左/社会で活躍する先輩方の講演会「業あり先生」。OBが「働くとは何か」について語りかける。



「キャリア・スタディ」発表会。伝えたいことは全身で表現することも成果のひとつだ。



先生と生徒が廊下で談笑するのは日常の風景。



左/文化祭は生徒たちがつくり上げる最大のイベント。中庭は特設ステージになる。

右/勉強も部活も全力で取り組む。打ち込めるものがあることは、成長につながる。



生徒がアポ取りから始める 企業研修で自主性を育む

建学の精神は「公正・自由・自治」。「高い次元で国際社会に貢献できる人間力を育む」を教育目標とし、高校での募集を行わない完全中高一貫の男子校である。

「本校は、主体的な学びとキャリア教育、国際理解教育に力を入れています」と篠塚弘康校長。「大学進学に対する生徒の希望も、保護者の期待も大きいですが、それにしっかりと応えていくことが使命だと思っています」と言う。

生徒の興味を引く授業の工夫はもろろだが、身に付けた力を将来につなぐため「自分発見プログラム」をベースに中高6年間の成長プロセスを組み立てている。

中学では「身近な社会を理解する」(中1)、「勤労の意味を知る」(中2)、「自分を知り、職業を知る」(中3)と進む。「社会のなかの自分」を意識して自己を見つめ、自ら進路を導き出していくのである。

その通過点として重視しているのが中3の「キャリア・スタディ」だ。さまざまな業界で活躍するOBの講演を聞く「業あり先生」に始まり、夏休みには企業研修を行う。

「協力企業30社のなかから希望する企業を選び、生徒がアポイントを取って訪問します。自分の興味に基づいて行動を起こす経験です」

企業研修後には発表会もある。そうした経験も踏まえ、自分で選んだ

テーマによる中期修了論文を高1で作成する。そして、文理選択調査なども行い、実質の進路選択に臨む。

国際理解教育は、3カ月間のニュージーランドチーム留学(中3)をはじめ、マレーシア異文化体験プログラム(中3)、ニュージーランド語学研修(高1)がある。いずれも希望者対象だが「生徒が自立心を身に付け大きく成長する機会になっています」と篠塚校長は言う。

また今後、全員が参加する高1の国内研修旅行は、「自主性を育むため、生徒たちが企画するかたちにしていく」とのこと。これは現在、準備を進めている。

一方で、「本校には海外に目を向ける生徒が多くいます。帰国生は全校生徒の約6人に1人の割合です。英語圏以外からの帰国生も多い。そういう生徒が身近にいますから、海外で得られる刺激を無意識に感じ取って、興味を抱くのだと思います」

学校生活そのものが将来へ、そして海外へと生徒の視野を広げていく学校なのである。

School Data

〒157-8560
東京都世田谷区成城1-13-1
☎03-3415-0104(代)
<https://www.tcu-jsh.ed.jp/>

- 創立 1951年
- 交通
 - 小田急線「成城学園前」駅から徒歩約10分
 - 東急田園都市線・大井町線「二子玉川」駅から徒歩約20分、「東京都市大学付属中高前」下車すぐ

コアネットの

文武両道の校風で、初の東大理Ⅲ合格者を輩出! ▶ サッカー部などの運動系から自動車部、鉄道研究部といった文化系まで、25種類以上もの部活動があり、加入率も高い。勉強と部活動の両立によって、効率のいい勉強法や時間の使い方を自ら考える力も育てており、結果としてI類・II類どちらのコースからも難関大合格の実績が多数出ている。

文京学院大学女子中学校高等学校

Homepage



探究・グローバルの2本柱で 一人ひとりの資質能力を伸ばす

from the School



佐藤泰正 高校副校長

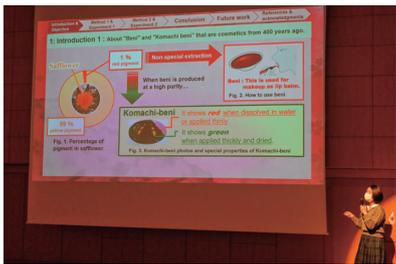
自分の頑張りたいことを文京学院で見つけてください。頑張るあなたに教員が全力で伴走します。



上/St. Mary Schoolの生徒たちが来校。自己紹介から文化交流まで、英語コミュニケーション力を発揮する。
左/ゼミ形式の課外授業「国際塾」。オールイングリッシュの課外授業だ。



教育提携しているアオバジャパン・インターナショナルスクールに「One Day留学」。日本にいながら留学体験ができる。



左/自由研究コンテンツJSECで堂々と研究成果を発表し、日本代表メンバーに選出された。
右/探究学習の成果は、ISEF2023(国際学生科学技術フェア)で、「材料科学部門・優秀賞4等」を受賞。



「英語で学ぶ」音楽のコラボ授業。数学や理科、社会、体育などでも行われている。

楽しく学びを深める日々が 進路選択・進路実績に直結

2024年、創立100周年を迎えた文京学院大学女子中学校高等学校の学びの特色は、グローバル教育と探究学習だ。

グローバル教育の基本は「英語で学ぶ」。同じ校舎を共有するインターナショナルスクールとの交流を含め、日常的に英語に触れる環境が整っている。日本人教員とネイティブ教員が合同で進めるコラボ授業は、美術、音楽、社会、理科など、中学から高等学校まで発達段階に応じて実施される。他にもネイティブ教員の専門性を生かした放課後の国際塾、海外語学研修、中・長期留学プログラムなどが豊富に設定されている。

高校ではそれぞれの興味・関心、進路に合わせてコースを選択するが、2年次に設定される国際教養コースSクラスは、ネイティブ教員と日本人教員のダブル担任制を敷き、海外大学進学も視野に、英語教育に特化している。

探究の授業では、教科の枠にとどまらない対応ができるよう、理系と文系の二人の教員で担当する。オリジナル教材を用いて「言語運用能力」「数理分析能力」「課題設定問題解決能力」を段階的に身に付け、高等学校2年次の「個人研究」へとつなげていく。

理数キャリアコースは、文部科学省からのスーパーサイエンスハイスクール指定以来、タイ王立科学高校

との交流が特徴的。日頃から理科を英語で学び、科学論文を英語で読む授業の成果を発揮し、英語でのプレゼン、質疑応答まで行う。この経験が、日本最大規模の科学技術コンテスト「JSEC」での成果につながり、アメリカで開催された国際学生科学技術フェアで材料科学部門4等入賞に結びつき、最優秀高校生研究者として文部科学大臣からも直接表彰されている。文京学院の科学教育、探究活動、グローバル教育が融合した成果が発揮された一例である。

「文系の生徒たちも、全国最大規模のビジネス系課題解決型コンテスト『キャリア甲子園』では、ここ数年毎年最終選考まで進んでいます。また、探究学習の成果は、近年の進学実績にも表れ、学校推薦型選抜や総合型選抜の合格者が増加。アンケート結果から、ほとんどの生徒が、「グローバル教育、探究活動が進路選択につながっている」と回答しています」と佐藤泰正副校長。

一人ひとりの資質能力を伸ばす文京学院のグローバル教育と探究的な学び。学ぶ楽しさが、生徒自身の満足度や進路実績に直結している。

School Data

〒113-8667
東京都文京区本駒込6-18-3
☎03-3946-5301
https://www.hs.bgu.ac.jp

- 創立 1924年
- 交通
 - JR山手線・東京メトロ南北線「駒込」駅から徒歩約5分
 - JR山手線・都営三田線「巢鴨」駅から徒歩約5分

コアネットの

自分自身の本当に学びたいことが見つかる場所▶ 探究学習の成果として国際大会に出場する生徒もいるという。自分自身が学びたいことに取り組み、成果を出し、その成果によってさらに研究を深めることができる環境は、同校の大きな特色のひとつだろう。生徒が学びたいことを学ぶための環境は、先生たちの生徒に伴走して取り組む姿勢によって支えられている。



from the School

前田好子校長

たくさんの人と出会い、自分が本当にやりたいこと、ワクワクすることを発見できる学校です。

共立女子中学高等学校

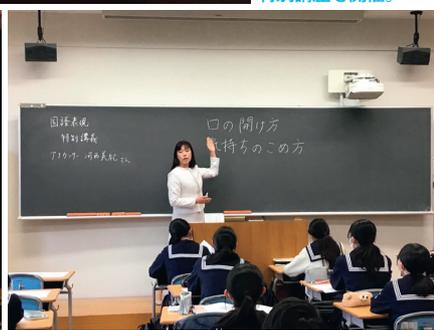
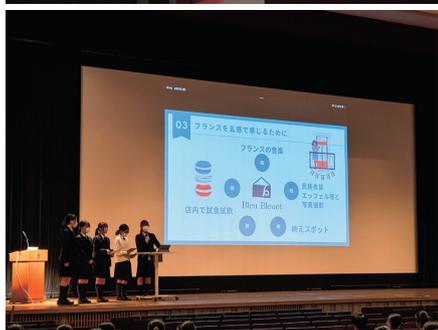
Homepage



自分軸を打ち立て、他者と協働し 人生を輝かせるための6年間



左／中1の「国語表現」の集大成として、共立講堂で1分間スピーチを行う。



下左／高2の選択授業「共立探究実践」では、企業からのゲストにプレゼンを行うなど、より本格的なリーダーシップ開発に取り組む。
下右／卒業生でフリーアナウンサーの河西美紀さんを講師に迎え、思いが伝わる話し方の特別講座を開催。



東邦大学理学部の出前授業。高3生希望者が細胞の遺伝子解析実験を行った。



共立祭では、センスを生かした映えスポットが各所に配置される。入試相談コーナーもあり、共立祭は受験生には絶好の機会。

「共立リーダーシップ」と「国語表現」で発信力を磨く

1886(明治19)年創立の伝統女子校。女性が自立し社会の中で役割を担うことを目指してきた、女子教育のパイオニアだ。都心にありながら1学年約320人と規模が大きく、「東京一出会いの多い女子校」としても知られている。さまざまな個性が集まり、誰もが自分らしくいられる校風が、多士済々の卒業生を輩出してきた。

そうした「共立らしさ」を一步進めるかたちで、現在、同校の教育の根幹となっているのが「共立リーダーシップ」だ。特定の人が發揮するものとされてきたリーダーシップを、「チームにポジティブな影響を与えることはすべてリーダーシップである」と捉え直し、どんなリーダーシップを發揮していくかを生徒が自分で探っていく。共立女子大学ビジネス学部プログラムをアレンジして、中学1・2年の総合的な学習の時間で展開。ファシリテーターとして大

学生も参加し、グループワークを通してリーダーシップを学ぶ。
もう一つ、同校の学びの土台となっているのが、同じく中学3年間で設定されている「国語表現」だ。「本校は伝統的に国語教育を重視し、文法も作文も独自のカリキュラムで丁寧に行ってきました。そうした教育内容を踏まえ、より発信力を高めるために論述やプレゼンテーションの基礎を学ぶ時間になっています」

と前田好子校長。「国語表現」の総まとめとして、学年末に共立講堂で1分間スピーチを行うが、その参考として、昨年度はフリーアナウンサーによる特別講座を中1全クラスで開催。発声や表情などプロの技術を学んだ。講師を務めたアナウンサーは卒業生だ。現役生のために力を貸してくれるOGが大勢いることも共立女子中学高等学校の強みだろう。
若い卒業生によるキャリア講座では、キャリアアップのための転職経験や中高時代に刺激となったことなどが語られ、身近な話だけに生徒たちの心を捉えたという。「講師をしてくれた卒業生も、高3のときに聞いた特別講座が進路選びにつながったと話していました」

このような多彩な講座や、高大連携の出前授業が頻繁に実施されていることも同校の特色の一つ。ワークショップ形式のものも多く、学年を超えた交流の場になっているという。こうした学びの機会をこれからも増やしていくと語る前田校長。共立女子の進化に期待が高まる。

School Data

〒101-8433
東京都千代田区一ツ橋2-2-1
☎03-3237-2744(代)
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/chukou/>

- 創立 1886年
- 交通
 - 東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線「神保町」駅から徒歩3分
 - 東京メトロ東西線「竹橋」駅から徒歩5分
 - JR「水道橋」駅・「御茶ノ水」駅から徒歩15分

コアネットの

「東京一出会いの多い女子校」は、珍しい部活の宝庫▶太極拳部や能楽部、競技かるたを行う古典文化部に、山岳部(高校のみ)、歩行部(高校のみ)など、珍しいクラブを含む30以上の部が活動中。新しい分野への興味や、チャレンジングな意欲をかき立てられるラインアップとなっている。誰でも自分に合う部活が必ず見つかるだろう。



共立女子第二中学校高等学校

6年間の独自のキャリア教育が培う「セルフリーダーシップ」

from the School



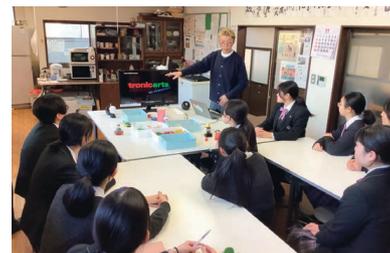
池田 孝教頭

自分の人生に責任を持ち、輝ける人になってほしい。そのため
のキャリア教育を実践します。



6年間のキャリア教育のなかで、中3で行われる「職場体験」は、生徒たちにとって大きな成長の場になる。

広大なキャンパス。さまざまな体験プログラムが実施できる環境が整っている。



地域や企業、卒業生などの協力の下、主体的な探究活動に取り組む。写真は、英語コースの企業コラボ探究の様子。



左「職場体験」後に行われる発表会。事前学習、事後学習・発表というプロセスを経て、将来について考える機会になる。
右／英語コースではクラス全員がニュージーランドへのターム留学に参加する。



全国大会にも出場するゴルフ部のメンバー。

ゼロからつくり上げる 中3の「職場体験」

自然に恵まれた八王子市郊外に広大なキャンパスを有する共立女子第二中学校高等学校。母体である共立女子学園の建学の精神「女性の自立と自活」を継承しながら、21世紀を生き抜く力の育成を目指す「リーダーシップの共立」を教育指針に掲げている。そのキーワードが、「セルフリーダーシップ」という言葉だ。

「自分の人生では誰もが主人公。そんな自覚を持ち、将来的に自分らしく社会に貢献できる女性になってほしい。『セルフリーダーシップ』とは、従来の人を率いるものではなく、まず自らを主体的にリードし、目の前の課題に自分の持ち味を活かして取り組む力を指します」と、池田孝教頭は説明する。

「セルフリーダーシップ」育成の柱となるのが、進路指導とキャリア教育を融合させた「針路プログラム」だ。「大学進学だけでなく、10年後、20年後の生き方そのものを見据えているため、あえて『針路』という漢字を用いています。中学生から段階を踏んで、進路への意識を徐々に高めながら自分の未来を見つめ、6年間をかけて具体的な将来像を描いていくプログラムです」

まだ自分の将来像に実感の湧かない中1は、職業調べからスタート。各人が興味を持った職種を黒板に貼り出し、各職業の意義や重要性についてディスカッションを行う。中2

では社会人のキャリア講演会や企業人への職業インタビューを通して、社会観・職業観を深めていく。

そして、中学でのキャリア教育の集大成として実施するのが、中3のゼロからつくり上げる「職場体験」だ。1学期から準備を始め、11月に本番を実施。学校のお膳立てが一切ないなか、希望する職場を自ら探し出し、アポイントメントも生徒自身が行う点が最大の特徴だ。自分が通っていた小学校や幼稚園に申請する子もいれば、地域の図書館や通学路にある動物病院などに受け入れを要請する子もいる。航空会社や自衛隊に行くケースもある。

「生徒たちには『社会に貢献する意味を学んできなさい』と言って送り出します。『職場体験』を通して、受け入れ先の大人や両親への感謝の気持ちをお口にすることが多いです」
自身の希望をかねた成功体験は自己肯定感につながり、高校ではその自信を基に進路を具現化していく丁寧なプロセスを踏む独自のキャリア教育を通して、自ら未来を開く力をじっくりと育ててくれる女子校だ。

School Data

〒193-8666
東京都八王子市元八王子町1-710
☎042-661-9952
https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/nichukou/

- 創立 1886年
- 交通 JR中央線・京王線「高尾」駅、JR中央線「八王子」駅南口からスクールバスあり。みなみ野・七国循環ルートも運行 ※スクールバスは無料



和洋九段女子中学校高等学校

Homepage

体験を優先するPBL授業を
多彩な外部機関との連携で展開

from the School

中込 真校長

他者とのつながりを大切にし、協働を通して成り立っているのが本校の学びです。



左/PBL授業は、生徒たちが主体的に学ぶ姿勢が育まれる。

下左/日系企業を訪問したり、現地の大学生や高校生と交流する、中3のシンガポール修学旅行。

下右/「地方創生プロジェクト」に取り組む、高1の長野研修旅行。



上/フランス大使館を訪問する。社会とのつながりを大切にする活動のひとつ。



右/第1回全国高校生政策甲子園で高1の3人が優秀チームに輝いた。

空理空論に流されず
実質を重んじる姿勢が定着

「先を見て齊える」を校訓とし、時代に即した教育を旨とする和洋九段女子中学校高等学校。ICT教育、キャリア教育、PBL(課題解決型学習)を柱にしている。

「そのなかでもPBLの成果が、目に見えるかたちで表れたのが昨年度だった」と中込真校長は振り返る。「中3、高1を中心に、さまざまなかコンテストに応募しました。その結果、2学期の終業式時に30枚余りの表彰状が私の手元になりました」

一例を挙げると、第1回全国高校生政策甲子園で高1の3人が優秀チームに選ばれた。若い世代の選挙への関心を高める政策として、街づくりゲームと投票行動を組み合わせられた提案が高く評価された。

キャリア教育も、PBLをベースにした体験活動だ。中1〜中2では、生徒のグループが周辺の企業やNPO法人、大使館などにアポを取り、SDGsの取り組みや他国の現状を聞き、課題の解決事例を発表する。

中3のアントレプレナー講座では、商品企画を行う。東日本銀行の融資担当者が融資にかなうかどうかを評価するというから本格的だ。「高1で実施する長野研修旅行から、この起業講座が生まれた」と言う。

その長野研修旅行とは、山間の限界集落を訪ねて農業体験をし、地元の方々と共に地域の活性化プランを考え出す「地方創生プロジェクト」。

「その際に、地域の特産物や特色を生かした商品やサービスの開発手法も学ぶのですが、それを『もっと早く知っておきたかった』という声が生徒たちから上がったのです」

大学や外部機関との連携は、多彩な広がりを生んでいる。例えば、シンガポールへ行く中3の修学旅行では、日系企業を訪ね、日本との国情の違いやアジアの現状を学ぶ。また昨年度からは、学校紹介をメタバース(インターネット上の仮想空間)で展開する「メタスクール体験プロジェクト」も始まった。

授業はもとより課外活動にもPBLの考え方が取り入れられ、学園生活の全般に「自ら考え、行動すること」が浸透している。

「こうした課題解決の体験を積むと、生徒たちは空理空論を言わなくなり考えたことを具体化するようになり、それはまさしく、校訓「先を見て齊える」の実践であり、次代の担い手に求められる素養である。」

それはまさしく、校訓「先を見て齊える」の実践であり、次代の担い手に求められる素養である。

School Data

〒102-0073

東京都千代田区九段北1-12-12

☎03-3262-4161

https://www.wayokudan.ed.jp/

●創立 1897年

●交通

- 東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅から徒歩約3分
- JR総武線「飯田橋」駅から徒歩約8分
- 東京メトロ有楽町線・南北線・都営大江戸線「飯田橋」駅から徒歩約8分

コアネットの



PBLを経て深まる他者への理解と自己表現▶和洋九段の大きな特徴のひとつであるPBL授業。この授業を通して他者への理解を示す力も育ててきている。他者への理解が深まっていくことで、自分の考えをより確固なものとし、自身のキャリアにおいても先を見据えた進路を自分で考えて決める生徒もいるようだ。大学よりさらに先を見据えている学びは、同校ならではの。

穎明館中学高等学校



from the School

橋本好広校長

失敗を恐れず、知的好奇心を持ってチャレンジしてください。その挑戦を全力で支えます。

Homepage



「EMK未来プロジェクト」で「好き」や「得意」を伸ばし、夢の実現へ



中3から設置されるアドバンスクラス。学力別のクラス編成により、細やかな指導ができる。



英語の授業は週7時間ある。中1・中2の英会話の授業は2クラスに分けて行われる。



室内温水プールで水球の授業を楽しむ。



放課後学習支援システム「EMK未来サポート」。学力アップにつなげる。



理科の授業では実験のほか豊かな自然を生かした野外観察も行う。



日替わり昼食が提供される「スクールランチ」。週に1回ほどイベントメニューもある。

※プロジェクトに冠したEMKは、Experience(経験)、Morality(道徳)、Knowledge(知識)の頭文字を組み合わせたもの。穎明館のイニシャルにも掛けている。

進学校として原点回帰し 中学入試改革を決定!

緑豊かな多摩の自然に抱かれるようにキャンパスが広がる穎明館中学高等学校。「国際社会に羽ばたく真のリーダーの育成」という教育目標の下、2019年度から「進学指導の進化」「放課後学習支援の強化」「グローバル教育の活性化」「ICT教育の充実化」「探究学習の整備」を5本柱とする学校改革「EMK未来プロジェクト」を推進している。なかでも進学指導の実績は目覚ましく、難関国立大学や医学部合格者を多数輩出するなど、安定した成果を上げ続けている。

中3から、5教科のバランスが取れた成績上位者を選抜する「アドバンスクラス」と、基礎学力のアップを目指す「スタンダードクラス」に分けて授業を展開。学力別クラス編成により生徒同士の切磋琢磨が生まれただけでなく、「誰もが最後まで第一志望大学に挑戦する意志を貫き、皆で合格しよう」という強い絆が生徒間に生まれたという。

「今年度の大学入試では、本校初の東京大学推薦入試合格者が出ました。探究心を芽生えさせる学校風土と、合格した生徒を取り巻く、整備された本校の学習環境も含めて評価されたと感じており、大変喜ばしい出来事でした」と橋本好広校長は語る。EMK未来プロジェクトが順調に軌道に乗るなか、穎明館では中長期目標の一環であった中学入試改革に

踏み切った。中学入試期間中、最終日の1回のみ実施していた「総合入試(国語・社会、算数・理科)」を「4科総合入試」と名称を変え、2025年度入試から2月1日午後を含め、計3回実施する。その狙いについて橋本校長は次のように説明する。

「背景には、教科学習を重視する進学校の原点に立ち戻り、多様で幅広いポテンシャルを秘めたお子さんに、本校がこだわる教科教育を通して、各人の『好き』や『得意』を見いだしてもらいたいとの思いがあります。自分の『好き』こそが学習意欲の向上につながり、ひいては本当に行きたい大学、真に学びたい学問や分野を目指して頑張れる原動力になると考えるからです」

低学年から始まる同校の探究学習やキャリア教育も、生徒それぞれの「好き」を見いだす糸口となり、教科学習を後押し、教科学習が探究をさらに深めていく。そんな連鎖が期待できる。多感な中高の6年間で揺るがぬ自分の「軸」をつくらせ、夢の実現に向けて学校を挙げてバックアップする、そんな情熱に満ちた教育が穎明館の大きな魅力だ。

School Data

〒193-0944

東京都八王子市館町2600

☎042-664-6000

https://www.emk.ac.jp

●創立 1985年

●交通

- JR中央線・京王高尾線「高尾」駅から京王バスで約15分(直行便で約10分)
- JR横浜線・相模線・京王相模原線「橋本」駅からスクールバスで約25分

コアネットの

一人ひとりの主体性が育まれる、充実の学習環境 ▶ 「EMK未来プロジェクト」の推進によって生徒一人ひとりの夢の実現を見据える穎明館。同校初となる東京大学への推薦入試合格は、生徒自身の「好き」や「得意」が育つ教育環境のひとつの成果といえるだろう。今後ますます進化して、真のリーダーを輩出し続けていく同校に注目したい。



from the School

小林道夫校長

偏差値で測れない力を開花させる生徒も多い学校です。個性や才能を本校で発揮してください。

神奈川大学附属中・高等学校

Homepage



活躍中の卒業生が全面協力する キャリア教育と学習支援



上／「放課後自習室学習支援プログラム」で、ティーチングアシスタントからアドバイスを受ける。
右／「東大生セミナー」では文系・理系に分かれて個別にアドバイスを受ける時間も。



上／緑の多い広大なキャンパスも魅力。伸び伸びと中学高校生活が過ごせる。

左／中3・高1の探究の時間に、東京薬科大学でiPS細胞の実験を行った。



探究活動の一環として、ベンチャー企業ツバメインダストリを見学。搭乗型ロボット「アーカックス」に圧倒された。

卒業生が務める ティーチングアシスタント

神奈川大学創立者・米田吉盛の理念「教育は人をつくるにあり」を体現するかのようには、教科学習はもとより、ICT教育に代表される先進的な学び、体験を重視した探究プログラムなどを通して、社会に貢献する人材を数多く世に送り出している神奈川大学附属中・高等学校。近年、卒業生との連携により実現したプロジェクトが注目を集めている。

昨年8月には、同校OBが設立したベンチャー企業、ツバメインダストリ株式会社を訪問。同社が完成させた、高さ4.5メートル、重さ3.5トンの搭乗型ロボット「アーカックス」は、昨年のジャパンモビリティショー（旧東京モーターショー）で話題をさらい、メディアで大きく紹介されたものだ。

「映画『トランスフォーマー』を彷彿とさせる巨大ロボットを目の当たりにして、生徒たちも大興奮でした。開発を手掛けた吉田龍央社長は本校在学時、私が担当した情報科のプログラミング授業では、ずば抜けたセンスを発揮していました」と語るのは新校長の小林道夫先生だ。

例年、東京大学をはじめとする難関国立大や難関私大に多くの合格者を出している同校だが、そんな進学実績の背後にも卒業生の活躍がある。例えば、今年度で6年目を迎える「東大生セミナー」は、東大に進学した卒業生が起業した株式会社ビ

ルズの協力で実現した課外講座。東大を中心とする難関大学を目指す高校生への学習サポートのみならず、進路実現に向けた志を共有する場だという。

「昨年、中学3年生を対象を広げて受講者を募ったところ、東大を目指したいというチャレンジャーが30人も集まり、うれしい驚きでした」

また、昨年はじめた校舎1棟を丸ごと使った自習室では、中高生の希望者を対象に「放課後自習室学習支援プログラム」を実施。卒業生を中心とした現役大学生・大学院生がティーチングアシスタントを務めている。

「協力してくれるOB・OGたちは皆、『在学中に卒業生から受けた恩恵を、今度は自分が後輩に還元したい』と口を揃えて言ってくれています」と小林校長。

こうした母校愛の絆と循環が、「学習塾に通う必要なし」を標榜する同校の学校完結型・自律型の学習支援体制を力強く支えているのだ。

School Data

〒226-0014
神奈川県横浜市緑区台村町800
☎045-934-6211
<https://www.fhs.kanagawa-u.ac.jp/>

- 創立 1984年
- 交通
 - JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅から徒歩15分
 - 相模鉄道線「鶴ヶ峰」駅より相鉄バス「西ひかりが丘」行き終点下車、徒歩3分

コアネットの

第36回「国際情報オリンピック」日本代表選手に最年少で選出 ▶ 「国際情報オリンピック」は、与えられた問題を解くためにアルゴリズムを考え、それに基づいてプログラムを書き、コンピュータ上で実行させて出力した結果の正しさを競う。昨年度、中学2年生の平澤由瑩君が最年少で日本代表選手に選出。同じ日本代表に選ばれた灘と筑波大駒場の高校生と共に、9月にエジプトで行われる世界大会に挑戦する。



日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校

Homepage



広大なキャンパスで伸び伸び過ごす6年間 豊かで多彩な体験が未来につながる

from the School

広報部主任 池田直哉先生

中学高校それぞれで異なる体験ができる学校です。将来に向け、豊かな土台をつくってください。

右／中2の職業体験は、藤沢市内の店舗、公共施設などで行う。写真は総合病院での様子。多感な時期に体験から得られるものは大きい。



下左／中1は大学の広い圃場を利用して、土づくりから収穫まで、1年間をかけて農場実習を行う。
下右／キッサニアでの職業体験学習。



右／中1から段階に合わせて行われる進路講演会。大学受験を見据えた学習計画の立て方なども取り上げる。



下／日大商学部を訪問し、模擬授業を受ける高1生。



進路を広げる 体験重視のキャリア教育

日本大学生物資源科学部の広大なキャンパスに隣接する日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校。最新のスポーツ設備や大学研究施設が利用できる環境は、付属校の圧倒的メリットだ。実際に土に触れながら自然への探究心を掘り起こす、農場でのフィールドワークなど、大学の施設で学ぶ体験プログラムも魅力となっている。体験重視は同校の特色の一つだ。中1から始まるキャリア教育では、外部企業によるプログラムも活用。中2では、近隣の会社や施設の協力を得て行う職業体験に臨む。「中高の6年間で大きく成長するために、早い時期からさまざまな刺激を提供し視野を広げる機会をつくっています。今年度から新たに実施するホスピタリティ教育プログラムは、他者の役に立つとはどういうことかを意識付けするもので、校訓の「健康・有為・品格」に通じる体験型学習と言えます」と広報部主任の池田直哉先生。

これらのプログラムのほかにも、中学生高校生を対象に進路講演会を毎学期実施している。講演者は基本的に卒業生が務め、キャリア構築中の社会人がどう仕事に向き合っているか、大学生がやりたい学問分野を見つけていった方法などのテーマで語ってもらう。そこには、たくさんという学校としての狙いがある。

高1では高大連携授業やキャンパス訪問を経験し、高2になると手厚い進路指導がスタート。日大の学部説明会だけでなく、10以上の大学を招いての説明会も開かれる。他大学受験のための入試対策講習もあり、中学からの内進生のうち約半数が他大学に進学するという。「北海道大学に進学した先輩の話を講演会で聞き、自分も行きたいと刺激され、合格を勝ち取った生徒もいます」

日大生物資源科学部獣医学科を目指して中学に入學した生徒が、希望通りに合格を果たす例も多々あり、数ある付属高の中で獣医学科への進学者数が最も多くなっている。

「本校の場合、中学は少人数で体験型の教育を充実させることができ、高校になると一転して大規模校のスケール感を味わうこととなります。高校における生徒会活動では内進生が中心となって動くことが多く、中学での経験を踏まえて大きく成長した姿が見られます」

昨年は4年ぶりに日藤祭が開催され、中高共に内進生が生徒会長として活躍したという。キャンパスに、一度は足を運んでほしい学校だ。

School Data

〒252-0885
神奈川県藤沢市亀井野1866
☎0466-81-0125
(中学校)
☎0466-81-0123
(高校)
<https://www.fujisawa.hs.nihon-u.ac.jp>
●創立 1949年
●交通 小田急線「六会日大前」
駅から徒歩約8分

コネットの

広大な施設の中で、充実のキャリア教育を！▶小学校から大学までを有する緑あふれる広大なキャンパスにある日本大学藤沢中学校。首都圏有数の恵まれた学習環境の中で施されるのは、丁寧に生徒に寄り添いながらも、未知の時代を力強く切り開く力を育成するキャリア教育。系統立てられたバリエーション豊かな活動で、男女問わずに生き生きと過ごせる学校である。



from the School

英語科 神殿朋宏先生

少人数制の学習環境の中で、一人ひとりの興味・関心を引き出し、伸ばしていく学校です。

武南中学校・高等学校

Homepage



先進的な教育を推進し 次世代グローバルリーダーを育成



上/STEM教育の教科横断型授業を展開する。「英語+国語」をテーマにした探究授業。右/中2を対象にしたSTEM教育のプログラミング授業。埼玉大学のSTEM教育研究センターの先生が指導する。

左/「STEM教育の充実を図っています。教科の壁をなくし、プログラミングなども総合的に学び、主体的な問題解決力を育てます」と数学科の佐藤 寛先生。



上/カンボジアやベトナムへの海外研修は中2で実施する。

右/社会科のフィールドワークは、中1では鎌倉散策、中2はJICAとユニセフ訪問、中3は民間企業や研究機関などを行う。



※Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)の頭文字を取った分野横断型教育。武南中学校では、埼玉大学のSTEM教育研究センターの協力の下、一昨年からSTEM教育をプログラミング学習に導入している。

国際人たる英語力プラス、 教養と知性を育む6年間

2012年に併設型の中高一貫校として開校した武南中学校・高等学校は、「国際社会で活躍する高い知性と探究心、豊かな教養を身に付けた人材の育成」を教育目標とし、「激変する時代を生き抜く力」を育むための先進的な教育に次々と取り組んでいる。

一昨年、中学2・3年を対象に導入され、武南教育の目玉として注目されるSTEM教育もそのひとつだ。担当の数学科の佐藤寛先生は次のように語る。

「STEMを活用したプログラミング学習に加え、昨年度は『数学+理科』『英語+国語』のように教科横断型授業を行い、手応えを得ました。今から学ぶ教科学習が、社会や自分たちの日常生活といかにつながっているかを知り、生徒たちの学習意欲が目に見えて上がったのです」

「BUNAN INNOVATION」と銘打った独自の国際教育も昨年度からスタート。中学で英会話授業を10名程度の少人数で展開し、4技能を磨く土台づくりを行う。高校では多様な課題について「問い立て」とディベートを行い、論理的思考と英語による発信力を鍛える。

「使える英語力だけでなく、総合探究という枠組みの中で本校が行う各種フィールドワークや海外研修とリンクさせ、異文化理解や思考力を同時に伸ばしていきます」と英語科の

神殿朋宏先生は説明する。

中学のフィールドワーク(以下、FW)では、授業で体験できない本物に触れ、国際人にふさわしい教養と知識を養う。

例えば、歌舞伎や能などの古典芸能やオペラを鑑賞する「美術FW」、日本の地質学発祥の地・長瀨の岩畳を見学する「理科FW」、JAXAや民間企業を訪問する「社会科FW」など、教科と連動させながら綿密な事前・事後学習を行う点が特色だ。中2の全員が参加するアジア研修も真の国際感覚を養う「国際教養FW」の位置付けで実施される。

「昨年はカンボジアの中高一貫校を訪問し、日本文化について英語でプレゼンしたり、現地生徒と一緒に折り紙や現地の伝統菓子を作るなどして交流しました。英語圏ではないアジアでも、英語は国際交流に欠かせない世界共通のコミュニケーションツールなんだと、生徒たちは身をもって実感したようです」と神殿先生。時代を先取りしたさまざまな教育を融合させながら、武南は10年先のグローバルリーダーの育成を目指している。

School Data

〒335-0002
埼玉県蕨市塚越5-10-21
☎048-441-6948
<https://www.bunan.ed.jp/j-highschool/index.html>
●創立 1963年
●交通 JR京浜東北線「西川口」駅から徒歩約10分

コアネットの

豊富なフィールドワークや体験学習を通じた、グローバルかつ課題解決型の学び ▶ 独自の異文化理解プログラム「BUNAN INNOVATION」や埼玉大学と連携した「B(武南)-STEM」など、特色ある教育から毎年出願者数が増加している武南。特に大切にしているのは体験学習だ。芸術、理科、社会と関連したフィールドワークやアジアやアメリカ研修には生徒全員が参加し、経験値と幅広い教養を身に付けられるのが大きな魅力だ。

文教大学附属中学校・高等学校



from the School

神戸 航校長

学習でも課外活動でも、生徒は行動的です。主体性を引き出すマインドが醸成されています。

Homepage



独自の新教育プログラムで 世界へ目を向ける生徒が急増



上/海外研修は、オーストラリア、カナダ、アメリカ、セブ島など、短期語学研修から中長期まで用意されている。

左/オールイングリッシュの授業は、GCPの取り組みのひとつ。世界基準のマインドを育成する。



放課後の学習支援システム、文教ステーション(通称Bステ)。年々利用する生徒が増えている。



左/社会貢献を軸にして行う探究学習。リサーチや議論を重ねて、探究活動に取り組む。



右/「探究祭」は、独自の探究学習プロジェクト「クリエイティブチャレンジ」で取り組んだ内容を発表し合う。



キャンパスは「Port(港)」がコンセプトになっている。食堂がある「East Port」。

生徒の主体性を引き出す プログラムが充実

建学の精神である「人間愛」を育む教育とは何か。その問いを基に、文教大学附属中学校・高等学校は2022年度、新構想による教育指針を始動させた。「文教ユニバーサルコンピテンシー」である。

「現代社会において求められる『人間愛』を『国際標準の貢献力』と広義に捉え、それを身に付け発揮するために必要な発見力、思考力、行動力、探究力、表現力、この社会が求める五つの力を育成するのが「文教ユニバーサルコンピテンシー」の狙いです」と神戸航校長は説明する。新構想は、それを具体化する「グローバルコンピテンシプログラム(GCP)」と「クリエイティブチャレンジ(CC)」を柱としている。

GCPは、オールイングリッシュのチームティーチングによる授業。「世界に通じる価値観、ものの見方や考え方を身に付けるプログラムです。中学では英語の授業のうち1時間を充てます」と神戸校長。「昨年度までGCPは中2から高2で実施していましたが、今年度からは中1から始めました」と言う。

CCは「貢献」をキーワードとして、新たな価値を創造していく探究学習。生徒の主体性を重んじ、教員はサポート役に回る。CCの導入で生徒たちの意識が変わったという。「例えば昨年度、生徒会を中心とする生徒たちから、冬の指定コートの

自由化が提案されました。重くて着用率が低いことが理由です。教員と対話を繰り返し、ルールと改正の手順づくりも生徒たちがしました」
こうした生徒主体の取り組みは、これまでにあまりなく、神戸校長は「授業で体得した学びを活かそうとする姿勢が、生徒の間に育まれている」と感じている。

CCの探究は、中1の自校を知る「文教学」と地域を知る「品川学」に始まり、中2では鎌倉をテーマに地域貢献の探究学習、中3からは生徒がテーマを選び、社会貢献に取り組む。そして2月の「探究祭」でその成果を発表する。

同校は、海外留学や海外研修においてもプログラムが多彩だが、「文教ユニバーサルコンピテンシー」が実践されてから「海外へ目を向ける生徒が増えた」と言う。

「留学希望者が多いので、中長期の留学先を増やしました。また、オーストラリア語学研修は、応募が定員の2倍を超えました」
同校の、世界へ羽ばたく人材の育成は、さらに加速している。

School Data

〒142-0064
東京都品川区旗の台3-2-17
☎03-3783-5511(代)
<https://www.bunkyo.ac.jp/jsh/>

- 創立 1927年
- 交通 ● 東急大井町線・東急池上線「旗の台」駅から徒歩約3分
- 東急大井町線「荏原町」駅から徒歩約3分
- 都営浅草線「中延」駅から徒歩約8分

コアネットの

生徒の主体性を支える先生方のサポート▶ここ数年、生徒の自学探究の姿勢が身に付くまでのサポートを重要視してきた同校。今では学校行事や探究学習プロジェクト「クリエイティブチャレンジ」の成果発表の場である「探究祭」でも、想像を超える内容が増えているという。生徒の成長をとて嬉しそうに話す先生方の表情からは、彼らへの深い愛情を感じる。



from the School

入試広報主任 黒田 学先生

時間をかけて行う本校の教育は、自分とは異なる他者の考えを受け止める寛容さを育みます。

法政大学第二中・高等学校

Homepage



協働を大切にする授業を展開 大学受験にとられない学びが魅力



中3の広島研修旅行で平和記念資料館を見学。研修後には、現地で学んだことに対する自分の考えをまとめ、個人やグループで発表する。



高校音楽の授業の最終目標である自作・自演の発表会に向けて、グループで練習。



左/生徒会を中心に生徒が協力してつくり上げる体育祭。高校生になると、競技種目決定も話し合って決める。

右/蔵書数6万5000冊以上を誇る図書館。6年の間、何度も利用することになる。



中学理科は実験・実習重視。楽しく取り組むことで自然と探究する心が生まれる。

体験を基に自ら考え 楽しさを知る中学の学び

卒業生の9割近くが法政大学へ進む付属校。中・高・大の10年間をかけて、大学憲章に掲げる「自由を生き抜く実践知」を培い、研磨する。「大学受験にとられない学びが、本校の一番の良さ」と、入試広報主任の黒田学先生(国語科)。

「じっくりと時間をかけて、本当の生きる力、人間としての地力を身に付けていく教育環境が本校にはあります」と言う。

塾に通う生徒はほとんどおらず、9割以上がクラブ活動や自主活動に参加。主体性が重んじられ、体育祭や文化祭は生徒が企画立案し運営する。「自分たちで話し合って決めたことを自分たちで実行する。それは民主主義の実践であり、探究的な学びにもつながる経験です」

中学での学びは体験重視だ。例えば理科では、週に1度実験の授業がある。好奇心を揺り起こし、楽しく考察する体験を積む。

「総合」の授業では、中1では図書館の使い方を学び、ネットから得られる情報と書籍から得られる情報の違いを検討しながら、情報リテラシーを身に付ける。中2では行事などの体験を通して集団生活の基礎を学ぶ。「中3の広島研修旅行を『総合』の集大成と位置付けています。平和や歴史、文化、自然環境をテーマにしつかりと事前学習を行い、学びを深めていきます」

中学でこうした体験と実践的な学びを積み重ね、クリティカルシンキング(論理的考察)を軸とする高校の授業へと展開していく。「皆で調べ、協働して何かをつくる、そして発表するというプロセスをたどる授業が多いです。美術では部屋の模型作り、音楽では自作の曲を演奏するということもします」

大学の手厚いサポートがあるのも付属高ならではの。理工学部の協力の下に行われる、高校の「ワンデーサイエンスカレッジ」は、大学に出向き、大学生と一緒に実験を行う。

高3の3学期は、法政大学に進学が内定した生徒を主な対象として、進学先の学部学科別にクラスが再編成され、各自が研究課題に取り組むが、そこには大学教員やOB・OGのサポートがある。

6年間の体験重視の自主的な学びは、大学での深い学びにつながっていく。

School Data

〒211-0031 神奈川県川崎市中原区木月大町6-1

☎044-711-4321(代)

https://www.hosei2.ed.jp/

●創立 1939年

- 交通 ●JR南武線「武蔵小杉」駅西口から徒歩約12分
- JR横須賀線(総武快速線・湘南新宿ライン・相鉄線直通)「武蔵小杉」駅横須賀線口から徒歩約15分
- 東急東横線(みなとみらい線・東京メトロ副都心線・東武東上線・西武池袋線・相鉄線直通)、東急目黒線(東京メトロ南北線・埼玉高速鉄道・都営三田線・相鉄線直通)「武蔵小杉」駅南口から徒歩約10分

コアネットの

付属校だからできる10年一貫教育で、成長過程を見据えた学び▶高校からの入学者もいるため大規模校という印象があるかもしれないが、中1・中2の間は1クラス20名台と驚くほど手厚い体制で基本的な学びの土台をつくる。中3からは1クラス30名台、高1からは内部生と外部生が混合になることで、さまざまな価値観や可能性を広げ、内部生は自然とリーダーシップを発揮している。

明法中学・高等学校



from the School

岡田貴之校長

人生は選択と決断の連続です。最善と思える判断ができる知性と感性を本校で磨いてください。

Homepage



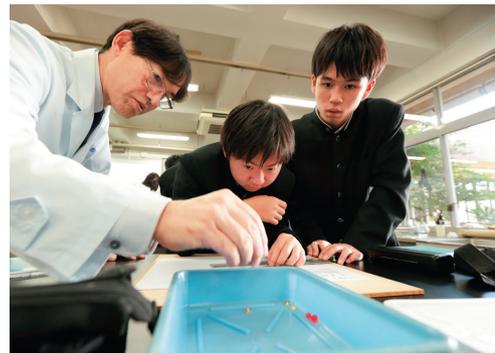
2025年度に中学が男女共学に！ 進化する21世紀型プログラム



上/「GSP」の学びを生かし、高校でターム留学に挑戦する生徒も。



右/「サイエンスGE」の授業では、プログラミングを学びラジコンカーを製作。



本物に触れる教育を大切にする明法では、実験・観察にこだわった理科の授業を展開。



右/音楽棟で行われる器楽の授業。5人の専門講師によるレッスンを受ける。



左/中学生全員参加の百人一首大会。学年の枠を取り払い、チームを組んで団体戦で行う。



本格的な舞台装置と音響を備え、約1000名を収容できる講堂。学校の式典を行うほか東村山市の成人式にも使われる。

中学共学化へ向け カリキュラムを強化

1964年に男子校として創立した明法中学・高等学校は、5年前の高校共学化を経て、2025年度に中学校も男女共学化し、新たなステージへと踏み出そうとしている。

「ジェンダー平等や多様性への配慮がますます求められる時代になっています。価値観の固まっていない中学生の段階から共学の環境をつくり、男女を問わず尊敬を認め合い、違いを乗り越えて互いを思いやれる人を育てたい。『個性の尊重』は、建学以来本校が大切にしている『この世に生を受けたことに感謝する』という教えとも通底しています」と岡田貴之校長は語る。

中学共学化に向けて、カリキュラムの改変も進められている。明法中学校の学びを特色づける、ロボットプログラミングなどを通じて科学的思考力や問題解決力を伸ばす「サイエンスGE(Global Endavors)」に加えて、今年度から、高校の「GSP(Global Studies Program)」の準備プログラムとなる「GSD foundation」を新設した。外部施設も活用した英会話実習なども導入し、高1で実施するカナダへのターム留学(希望者対象)に向けて、英語によるコミュニケーション能力を高めていく。

「新体制では中1の生徒全員が、『GE』と『GSP』両方の入門編を学べるようにしました。中2〜高1で学びを深めながら自分の『好き』や興

味関心をじっくりと見極め、高2・高3では、それまでの4年間を土台に進路実現につなげていきます」

中学での目標は、教科横断型の「GE」で基礎プログラミングから学び、校内ロボットプログラミングコンテストに挑戦。「GSP」では、英語で自分の考えを表現するコミュニケーションスキルを磨き、中3修了時までに全員が英検準2級取得を目指す。

「両プログラム共、21世紀を生き抜くために不可欠な創造性を筆頭に、批判的思考力、コミュニケーション力、他者貢献の精神を育む要素が詰まっています」と岡田校長。

教師1人に生徒14人という少人数教育も明法の特徴だ。感性を磨く情操教育の一環として、中学生全員がプロの音楽家から管楽器や弦楽器の演奏の手ほどきを受ける器楽の授業もある。明法中学校が用意する魅力的で充実した学習環境で、来年度からは女子も学ぶことになる。

School Data

〒189-0024

東京都東村山市富士見町2-4-12

☎042-393-5611(代)

https://www.meiho.ed.jp

●創立 1964年

●交通

- 西武新宿線「久米川」駅から立34系統バス7分、西武拝島線「東大和市」駅から同バス11分、西武多摩湖線「八坂」駅から同バス5分、JR「立川」駅から同バス28分、それぞれ「明法学院前」下車、徒歩1分
- 西武国分寺線・拝島線「小川」駅から徒歩18分

コアネットの



本物に触れる授業によって深まる探究心▶本物に触れる教育を大切にしている明法。見る、触れる、聞くなどの五感を刺激しながら学習することで、興味関心だけでなく理解も深まっていく。その体験のひとつに器楽の授業がある。中2・3が楽器を習い、文化祭でオーケストラの演奏をするという。どのような成長を遂げているか、ぜひ秋の文化祭でご覧いただきたい。



from the School

宗像 諭学校長

世界中どこに出ても堂々と自分らしく生きられる、“確固たる自分”を本校で築いてください。

松本秀峰中等教育学校

Homepage



2025年首都圏入試が決定！ 真の次世代教育が進路実現へと導く



左／1年次秋の写生会では、国宝松本城や旧開智学校を描く。歴史と文化の香り漂う松本市で過ごす6年間で、思い出がたくさんできるだろう。

下左／1年次の6月に斑尾高原で行われる「秀峰アドベンチャー」。協働して課題を解決し、互いを信頼する心を育てるのが目的。
下右／5・6年次に設置されている「メディカルコース」では、地域医療や、医師に求められる倫理観などをテーマとする特別講義を受ける。



上／4年次に実施するイギリス研修では、ケンブリッジ大学の学生との交流も。

右／行事の際はハツラツと楽しむ秀峰生。バンド演奏で盛り上がる。



ゴールを見据えた 圧倒的学力を育てる

北アルプスの雄大な風景が広がる長野県松本市に学舎を構える松本秀峰中等教育学校は、2010年に長野県初の完全中高一貫校として開校。「進路実現」というゴールを見据えた本物の教育環境を謳い、1期生からこの春卒業した9期生まで、多くの生徒を難関国公立大学や医学部医学科に送り出してきた、県内トップクラスの進学校である。

昨年度赴任した宗像 諭学校長は、時代のニーズを先取りし、私学の新たなトレンドを起こしてきた経歴の持ち主。「高いゴールを目指す首都圏にお住まいのお子さんにも、本校が誇る恵まれた教育環境をぜひ利用してほしい」と、東京を試験会場とする2025年の首都圏入試を決定した（1月8日実施予定）。設備の整った学生寮が学校至近に用意されており、東京へ松本間のアクセスは3時間程度。週末の行き来も楽々可能だ。

6年間のカリキュラムは、3段階の学習ステージに区分される。「基礎期（1・2年次）」は圧倒的な基礎学力を身に付け、続く「充実期（3・4年次）」ではイギリス海外研修やキャリア教育を行いながら、高校の教育課程を履修。そして、「発展期（5・6年次）」は、それぞれの進路目標に応じたコースを選択し、志望大学合格を目指して邁進する。

「学習適性の高いお子さんが集まる学校なので、入学時にミドル、ボト

ムレンジだった子供たちも、成績上位者に引つ張られて、総体的に学力が伸びていくのが、本校の特色です」
1年次に実施する、斑尾高原を舞台に協働しながら課題解決に取り組む「秀峰アドベンチャー」や、金沢や東京に赴いて知見を広げる2・3年次の宿泊研修など、地域の特性を生かした探究プログラムも充実。
2023年度から、理系・文系に分かれる5・6年次のコースに、医学部進学に照準を絞った「メディカルコース」を設置し現役での医学部合格を目指す。信州大学医学部や、同校生徒の保護者に多い医療関係者とも連携し、講座の充実を図っている。

「志望大学に合格した生徒から、『医者になりたい。その志を同じくして学べる仲間との絆がなによりも励みになった』との声が寄せられています」と宗像学校長。
単なる学力偏重の進学校ではない。生徒自身が主体的に、生き生きと学校行事などを運営する姿勢を奨励する校風も魅力。学力向上と心身の成長の両立を願う保護者が、安心してわが子を預けられる学校だ。

単なる学力偏重の進学校ではない。生徒自身が主体的に、生き生きと学校行事などを運営する姿勢を奨励する校風も魅力。学力向上と心身の成長の両立を願う保護者が、安心してわが子を預けられる学校だ。

School Data

〒390-0813
長野県松本市埋橋2-1-1
☎0263-31-8311
https://www.shuho.ed.jp/

- 創立 2010年
- 交通 JR「松本」駅から徒歩約20分、松本バスターミナルから横田信大循環線、北市内線などで約10分「秀峰学校前」下車、徒歩すぐ

コアネットの

生徒寮も充実し、医学部進学に絶対的強みを持つ進学校▶長野県トップレベルの完全中高一貫校が2025年度からいよいよ東京会場入試を始める。大学入試を見据えた一貫教育は秀逸。学習指導のレベルは東京のトップ進学校と比較しても勝るとも劣らない。5年次から「メディカルコース」を設置し、医学部への対策もしっかり行う。昨年度は17名が国公立をはじめ医学部に合格(82名卒業)。首都圏在住の中学受験生の1月入試の有力選択肢となるだろう。

West

関西

大阪府 / 京都府
兵庫県 / 奈良県

私立ならではの教育が魅力の関西の中高一貫校28校





from the School

平岡宏一校長

自利利他という目標を持つことで、核心に触れるまで努力する姿勢が培われます。



平岡校長は毎朝、生徒たちの前に立ち、時事問題や心の話など生徒たちに話しかけている。



通学の便が良いのも同校の魅力。

清風中学校・高等学校

Homepage



混迷の時代にこそ求められる ぶれることのない「人間教育」を実践



左・上／文武両道で知られ、約9割の生徒が部活動に参加する。

下／今年で41回を数えた100km歩行。毎年、寒さが残る3月に、途中で励まし合いながら30時間歩き通す。



マンツーマンで徹底的に読書感想文や小論文の指導を行い、生徒の論理的思考を伸ばしていく。



世の中で役立つために、
まず自分自身を磨く

五輪出場選手を20名以上輩出し、インターハイなどでも多くの競技で活躍するスポーツの強豪校であると同時に、例年、京大などの国立大や関関同立など難関大学に多数が合格。さらには多くの生徒が医学部に進む「文武両道」の男子校である清風中学校・高等学校。近年になって小論文型入試を実施する大学も一般的になってきたが、清風では40年ほど前から読書・論文指導に力を入れている。

これは読書・論文指導部という独立した部署が指導に当たるもので、国語の授業とは別に週1回、中学で年間20回ほど課題に取り組み、さらに学期に1回の読書感想文の添削指導など実践的に取り組むもの。作文は専門的な視点からチェックし、細かく添削されフイードバック。生徒の表現力や作文力の向上を図り、同時に物事の見方や考え方を広げられるよう努めている。「今は若者に酷な時代ではないでしょうか。さまざまな機会を得て大成できたかもしれない子も、自主性という名の下に放置されている。しかし、生徒たちを律するためには、時として厳しい事も言わなければ、正しい方向へ導けないと私は考えています」と高野山真言宗僧侶でもある平岡宏一校長。仏教の精神に基づいた人間教育を行う清風では、誠意を持って相手に向き合い「言葉で導く」ことを学校の軸とする。そして相手の立場になってものを考える「自利利他」の精神で、自分を磨

いていくことの重要性を説く。同校にはそういった人間性を高める行事が数多くある。その一つが30年以上続く「100km歩行」だ。学校のある大阪市天王寺区から和歌山県の高野山・奥の院までの30時間を超える耐寒ウォーキングは、希望制であるにもかかわらず、毎年700名近い生徒が参加する。

「昨年、京都大学を受験して不合格だった生徒が、浪人して受験勉強を続けるのがつらいと私大への進学を決めました。しかし卒業前に行われた100km歩行に参加して完歩すると、その翌日に電話がかかってきて、やっぱり浪人して京都大学を目指しますと言うんです」。結果、1年間の努力が実り、希望する京都大学法学部に合格。100km歩行をやり遂げたという自信が、もう一度受験に挑戦しようと、心を奮い立たせたという。

健全な心身の鍛錬と知性や教養の育成、そして高い志を求める同校の理念は、「清風魂」として生徒たちの心と体に息づいている。

School Data

〒543-0031
大阪府大阪市天王寺区石ヶ辻町12-16
☎06-6771-5757
<https://www.seifu.ac.jp/>

- 創立 1945年
- 交通
 - 近鉄・阪神なんば線「大阪上本町」駅から徒歩約3分
 - 大阪メトロ谷町線・千日前線「谷町九丁目」駅から徒歩約7分
 - JR大阪環状線「鶴橋」駅から徒歩約12分

コアネットの

激動する時代にこそ骨太な人間教育の厚みが生きる▶仏教に基づく人間教育と進学実績に定評がある同校。6年間で心身に刻む「自利利他」の精神は、激動の時代に不可欠な資質として卒業生たちを支えるだろう。生徒全員が留学を選択できる、自由度の高い新体制を構築。熱意ある先生方が粘り強く添削する論文指導も健在で、確実に表現力と思考力を育むと保護者、生徒からの信頼も厚い。



東山中学・高等学校



from the School

塩貝省吾校長

生徒自身が選び、望む道に挑戦する。それが本来の教育であり、受け継がれてきた伝統です。

自分自身で未来を切り開き、可能性を見いだす生徒を育てる



上・下/作った米は学校がすべて買い取り、「秋の観光案内PROJECT」のひとつである「東山マルシェ」で販売。農家に対しても通常の約1.7倍の利益をもたらした。



「東山米」は「幻の米作り」をコンセプトに、昔ながらの米作りこだわった。木で組んだはざ掛けによる天日干しコシヒカリは希少で、ブランド価値が高くなる。



教頭時代、遅くまで自習する生徒のために100人分もの夜食を手がけた塩貝校長。現在は月に数回、校長室を「こちょこちょカフェ」として開放し、おでんやカレーを振る舞っている。

ロボット研究会は昨年は全国大会「FIRST LEGO LEAGUE 全国大会」で1位となり、今年4月にヒューストンで開催された世界大会に出場した。

真摯に向き合い 生徒の心に灯をともし

浄土宗総本山・知恩院を母体とし、1868年の創立以来、歴史を刻んできた東山中学・高等学校。その教育には主体的に道を切り開いてきた先人の精神が、脈々と受け継がれている。「これをセルフ・リーダーシップの育成という言葉で表し、自ら課題を見つけ、解決策を考え、行動できる人間を育成していきます」と語る塩貝省吾校長。この積み重ねが、高い難関大学合格率へつながっている。シンボルとなるのが「土台力の木」だ。人生の支えとなる力を「まなぶ」「つながる」「つくる」とし、そこから枝分かれしたコミュニケーション力や人を思いやる力などを「土台力」と表現。しっかりと根を育む土壌から、天に向かって生い茂るこの樹木こそ、生徒に望む将来像である。

脳科学オリンピックや数学オリンピックなど、生徒たちはさまざまな分野で自身の興味関心を追求している。東山は150年を超える歴史の中で数多の卒業生を送り出してきた。大手企業の社長や老舗の店主、有名アプリの開発者など、実社会で活躍する人も多い。こうしたOBとの縁をつなぐ活動が「東山学縁」だ。ここで昨年始まった「東山中高ブランド米プロジェクト」は、生徒がブランドینگし、米の生産から流通、販売、消費までのサプライチェーンを実践的に学ぶ取り組み。参加した中高6学年約50名の生徒は企画、デザイン、販売、宣伝広報の4部門に分かれ、起業家や農家、学校と組んで「持続可能な農家の在り方」を模索した。この経験を通して、起業を目指す生徒も現れたという。

自らの「選択と挑戦」の繰り返しが道を切り開く。だからこそ選択できる場面を少しでも多く。その一つが脳科学の権威である大学教員を招いて自然科学系の学問を深め、考える喜びや科学リテラシーを高める『ヒト』の科学セミナーだ。文系でも今年度より大学教員を招いての学びの探究ゼミを計画中だという。生徒の思いや自由な発想を受け止めてチャレンジを後押しするのも東山の伝統。世界大会に出場した「ロボット研究会」も、10数年前に生徒主導で立ち上げた。高校の運動部の多くが全国レベルで活躍するほか、

教育と愛情の両輪があつてこそ学校、と語る塩貝校長。「本校の教育環境は、教員の使命感や情熱に支えられています。毎日の授業や活動を通じて、生徒の『心に灯をともし』ための手助けをするのが教員の役目です」

School Data

〒606-8445
京都府京都市左京区永観堂町51
☎075-771-9121
<https://www.higashiyama.ed.jp/>

- 創立 1868年
- 交通 京都市営地下鉄東西線「蹴上」駅から徒歩約10分

コアネットの

世界有数の環境にある学び舎にはさまざまなチャレンジの種がある ▶ 京都でもトップクラスの進学実績を誇る伝統ある進学校だが、その取り組みは非常にユニーク。校長自ら、「校長チャレンジ」や「東山米」など、さまざまな取り組みを先導。日常の学校生活には、子供たちの学びに対するモチベーションを向上させる多彩な工夫が凝らされている。「土台力」を固めた生徒たちのますますの活躍が楽しみだ。



from the School

川口直彦校長

父母やそのまた父母に感謝して、社会に貢献できる人間教育を行っています。

報徳学園中学校・高等学校

Homepage



感謝と人を思いやる心を育み、
社会に貢献できる「報徳人」を育成



上/毎月の言葉から、二宮尊徳の教えを学ぶ「報徳講話」の時間。

左/社会に出てから頑張れる男子を育てる。



中1が参加する二宮尊徳の遺跡巡り。



上・左/クラブ活動も盛ん。今春の選抜高校野球では、準優勝を勝ち取った。

右/構内には何体もの二宮金次郎像がある。



右/素読に用いられる「二宮尊徳のことば」。

下/報徳教育部長の橋本先生。



「好き」を最大限に
伸ばせる環境を用意

報徳教育部長の橋本和彦先生によると「中学では週1回、高一では月1回、『報徳講話』の授業を通じて尊徳先生の教えや道歌に触れます」。この授業では自らの生活に照らし合わせ、「自分ならどうしたか」と問題解決の観点からも報徳思想を学んでいく。「今、意味がわからなくても、反復することで、教えが浸透していきます。心に響く言葉に出会い、それが人生の指針になることもあります」(川口校長)

川口直彦校長は言う。「報徳教育部長の橋本和彦先生によると「中学では週1回、高一では月1回、『報徳講話』の授業を通じて尊徳先生の教えや道歌に触れます」。この授業では自らの生活に照らし合わせ、「自分ならどうしたか」と問題解決の観点からも報徳思想を学んでいく。「今、意味がわからなくても、反復することで、教えが浸透していきます。心に響く言葉に出会い、それが人生の指針になることもあります」(川口校長)

School Data

〒663-8003
兵庫県西宮市上田市5-28-19
☎0798-51-3021
https://www.hotoku.ac.jp/
●創立 1911年
●交通 阪急今津線「甲東園」駅から徒歩約20分

いが、真の意味で「文武両道」を徹底する報徳では、特別扱いしない。優秀な選手でも、小テストの点が足りなければ部活に参加できないという。ここで忍耐力を鍛え、報徳の思想を学び、身に付けた生徒は、どんな社会でもたくましく生き抜く力を持った人間へと成長していく。

多様性という言葉が叫ばれるが、遥か昔から尊徳はモノや人に備わる良さ、持ち味を「徳」と名付け、あらゆるものに「徳」があると考えた。「徳」とは個性。報徳では生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、どう生かせば伸びるかを真剣に考え、6年間多くの仕掛けづくりを行っている。

例えば昨年度は京都大学に3人現役合格したが、1人はプログラミンが好きで、情報オリンピックに参加するなど自分の興味があることに熱中し、学校推薦型選抜の特色入試で電気電子工学科へ進んだ。スポーツに打ち込む生徒も、勉強を頑張る生徒も、それぞれに興味や得意なところが異なる仲間と共に過ごす6年間、彼らは自分の「好き」と向き合い、進むべき道を見つけていくのだろう。

コアネットの

文武両道の男子校。比類なき報徳教育を根底に、さらなる飛躍を目指す▶報徳思想を根底に、社会で必要とされている生き抜く力を身に付けることができる文武両道の男子校。自分の役割を認識し高めることにより、向上心へつながり、個性を伸ばすことができる。甲子園での活躍はもちろん、京都大学へ2年連続で合格者を輩出するなど、進学実績の向上も著しい。文武両道の秘訣を学校説明会に聞きにいらしてください。



甲南女子中学校・高等学校



from the School

入試広報室主任 松原稔幸先生

探究的な視点を持ち、仲間と協力して前向きに取り組む自立した女性を育てます。

対話を通して、自ら思考・発見し 判断できる新しい学びを



左/私学ならではのオーケストラ部をはじめ、全国レベルで活躍するアーチェリー部、弓道部など部活動も活発。

下左/何でも自分たちでやるのが当たり前。同校では文化祭(4月)と体育大会(5月)を「Konan Girls' Festival」と呼んでおり、応援団やマスゲームなど生徒たちの躍動する姿が見られる。

下右/9月の学校説明会はオープンスクールを開催予定。模擬授業や部活動体験など、イキイキとした甲南ガールのスクールライフを垣間見られる。



中2・3が班ごとに行う英語劇。良いものにするための意見交換も活発だ。



相手を尊重しつつ自分の意見を主張するコミュニケーションの方法である「アサーション」を学ぶ。

伝統×先進的取り組みで 自立した女性を育成

1920年創立の甲南女子中学校・高等学校。「まことの人間をつくる」という建学の精神は、100年の時を超え、現代社会に合わせた形で今も受け継がれ、多方面で活躍する「自立した女性」を輩出してきた。また、毎年国公立大学や難関有名私立大学への合格者を多数送り出す進学校としても名高い。

「スタンダード」と「Sアドバンス」の二つのコースがあり、入学後にコースを変更することもできる。コース変更を希望する生徒は、普段の成績に基づいて可否が判断され、生徒のチャレンジに柔軟に対応する。「自分の意見が言いやすい」「異性の目を気にせず、やりたいことが堂々とできる」「主体性や自立心が強くなる」。これらは「女子校の良さは？」との問いかけへの、同校の現役中2生と高2生の答え。こうした特色を生かした教育を、未来へ向けて進化させている。

例えば中1で行われている「対話」の授業。ここではコミュニケーション教育のアサーションを駆使して、「自分の意見をしっかりと伝え、同時に「相手の話をよく聞く」という自己尊重のコミュニケーション力の基礎を身に付けたい」という議論をしていく。中2では「聴く」「語る」の経験を重ね、単なる会話ではない対話スキルを身に付ける。行事ではこうしたスキルが遺憾な

く発揮される。中2・中3による英語劇では、良い舞台にするために意見を交わし合う場面が多く見られ、体育祭では、高1・高2合同のマスゲームが工夫された振り付けと息の合った演技で感動を呼ぶ。

これぞ「自分の意見が言いやすい」土壌があつてこそ。入試広報室主任の松原稔幸先生は「社会では、自分一人で完結する仕事はほとんどありません。周囲の意見を聞きながら自分の意見をしっかりと伝えることが身に付けばと考えています」と語る。

高1では「探求」がテーマ。調べ学習のテーマも「地域創生」から「フエアトレッド」「マイクロプラスチック」まで、自分の興味のあるものを臆することなく追求できる。この総合学習は、推薦入試の比率が高まっている大学受験でも大きな力になり、学部選択にもつながっている。学者や作家、スポーツ選手に芸術家など、さまざまなジャンルで活躍する卒業生たち。そのバイタリティーは、こうした中高時代の幅広い学びに源がある。そのバトンをしっかりと受け取り、彼女たちは自分らしく、未来を切り開いていく。

School Data

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町5-6-1
☎078-411-2531
http://www.konan-gs.ed.jp/
●創立 1920年
●交通 ●阪急神戸線「芦屋川」駅から徒歩約15分
●JR神戸線「甲南山手」駅から徒歩約10分

コアネットの

進化し続ける「探求」と伝統の全人教育が融合しさらに豊かな体験をつくる▶100年以上、社会で輝く自立した女性の育成に邁進してきた同校。地道に実践を積み重ねてきた「探求」プログラムを通じ、相手を尊重し、対話することの大切さを学んだ生徒たちは、さまざまな行事を体験し強い絆で結ばれる。ますます厚みを増す、伝統校の全人教育にご注目いただきたい。



from the School

広報部長 社会科 秋山伸彦先生

根幹にあるのは「人を大切にする精神」。人に喜んでもらった経験が、喜びとなります。

神戸海星女子学院中学校・高等学校

Homepage



「心の教育」がもたらす 人を大切にする精神と、学び続ける力



上/生徒たちからの質問も活発に出る、社会人OGによる進路ガイダンス。
左/夏制服は特に人気がある。



右/神父の話を聞き、神に愛される存在として自己を肯定的に受け入れ、自分らしい生き方を考える「静修」の時間が年に1度ある。
左/高2のフランスへの修学旅行は、リジュールなどの地方都市と、同校と縁(ゆかり)のある修道院も訪ねる。写真はオンフルール。



校舎の上に立つマリア像が、静かに生徒たちを見守っている。

奉仕の心と国際性を 身に付ける「心の教育」

大海原に浮かぶ星のように、人々を導く聖母マリア像。それは神戸海星女子学院中学校・高等学校を象徴する姿。小学校から高校までが同じ敷地内にあり、校内は静かで落ち着いた雰囲気をつたえている。

「真理と愛に生きる」を理念とする神戸海星では、「学び続ける力」を新しいテーマに据えた。「本人が主体性を持って進路を選び、社会に出ても学び続けていく。それが結果として社会貢献につながります」と広報部長の秋山伸彦先生。その力を構築するために大切にしているのが「心の教育」で、自身と対話する「祈る心」、社会奉仕を教育の一環とする「人のために役立たせる心」、国際的な視野を養う「異文化理解の心」を三つの柱とする。

中1・中2では基礎学力定着のため、教科学習は小テストと宿題を徹底し、学年が上がると数学、英語では習熟度別授業・少人数授業を行う。中1から自分で課題を見つけて「TODORIST」や、試験前の学習計画表の作成で生活面の土台づくりをし、中3からは異文化体験合宿、職業調べなどを通して将来像を描き始め、高校のキャリアプログラムで将来の進路を考えさせる。「最近では国立大の理系学部にも合格する生徒も多く、また芸術方面に進学する生徒もいます。チャレンジ精神が旺盛なのも、本校生徒の特長です」

「同校には自己を見つめ直す「静修」の時間がある。高3では1泊2日で行われ、キャンドルを手に6年間一緒に過ごした仲間への気持ちや、自分の秘めた思いを一人ひとり話していく。そこでより絆が深まり、共に大学入試に向けて頑張れるという。外国語は必修の英語だけでなく、中3から選択制でフランス語も学べる。高2の修学旅行ではフランスを訪れ、地方都市の文化や生活に触れ、修道院も訪問するのは、カトリック校ならではの。ほかにも語学留学制度、海外姉妹校との短期交換留学プログラムなど、異文化を理解するためのプログラムも豊富だ。

6年間を通して互いの個性を尊重し、認め合いながら学院生活を送るからだろう、卒業生の母校愛は強い。「高1・高2が対象の『卒業生による進路ガイダンス』では、毎年20人が来校。社会に出てからの女性の生き方を先輩から学びます」。同校らしいキャリア教育は、憧れの先輩が最高のロールモデルになる。

「学ばないで後悔するよりも、学んで後悔する方が多い」と秋山先生。社会に出てからも学び続ける力を育む神戸の女子進学校。6年間を掲げ、社会に出てからも学ぶことを継続してほしいとの思いから、さまざまな取り組みを実践。中3からはフランス語の授業を選択できるなど、生徒の視野を広げる取り組みが充実している。同時に大学受験への支援も手厚く、進学実績は神戸トップクラス。多様な価値観のなかで成長した海星生の活躍に注目したい。

School Data

〒657-0805 兵庫県神戸市灘区青谷町2-7-1
☎078-801-5601
<https://www.kobekaisei.ed.jp/jr-high/>

- 創立 1951年
- 交通
 - JR神戸線「灘」駅、阪急神戸線「王子公園」駅から徒歩10～13分
 - 「三宮」駅から神戸市バス②阪急六甲行き、または⑧摩耶ケーブル行きで「青谷」下車徒歩2分
 - 阪急「六甲」駅から神戸市バス②三宮行きで「青谷」下車徒歩2分

樟蔭中学校・高等学校



from the School

小嶋信男校長

興味のあることに、伸び伸びと取り組めるのも、伝統ある女子校ならではの魅力です。

Homepage



「なりたい私」になる！ 時代に求められる「選ぶ力」を育む



左／創立10年を記念して1927(昭和2)年に建てられた記念館は、同校のシンボル。登録有形文化財。

下左／個々のブースがあるCSルームの教室。担任のほか学習サポーター、コーチングスタッフなどがサポートする。
下右／中学からプログラミングの授業があり、スキルだけでなく論理的思考を鍛える。



上／国際教養コースの探究の時間。



右／表現や舞台芸術などを学ぶ身体表現コース。

自分で考え選ぶ力を養う 「国際文理」コースが始動

1917年創立、幼稚園から大学院まで擁する女子の総合学園へと発展を遂げた樟蔭中学校・高等学校。中学3年間は進路や興味関心、学力に応じて「国際教養」「総合進学」「身体表現」の3コース制だったが、2025年度募集から「国際教養」が「国際文理」とコース名を変更、新たにスタートを切る。

「このコースではSTEM教育を進めており、例えばプログラミングではスキルだけでなく、論理的思考の定着を重視しています」と小嶋信男校長。

大学でも「工学芸学部リベラルアーツ学科」の設置を構想中で、樟蔭学園全体として文理融合教育を推進中だ。「これまでは学力やリーダーシップを持つ人間が選ばれてきたが、今後は分析力や判断力といった『自分で考えて選ぶ力』が重要になってくる。自分の人生を自分が選ぶという考えは、総合選抜型受験への出発点にもなります」

探究学習は同校の建学の精神である「知・情・意」の連携を体現する大事な時間。高校の総合進学コースでは高2から週3時間使い、探究活動を強化している。高2の前半は好きなテーマを選び研究。高2後半では先のテーマを深める生徒もいれば、近畿大学附属高等学校の生徒と共に「こーばへ行こう！」プロジェクトに参加し、ものづくりの現場

を研究する生徒もおり、高3では希望する進路について研究発表する。この過程を経て、生徒たちは知識を得て(知)、感じたことを(情)、行動にどうつなげていくか(意)を学び、主体性や実践力を身に付け、結果として総合選抜での合格が約8割という強さを見せている。

また、先駆的な取り組みといえるのが、中学からの「キャリアサポータールーム(CSR)」の存在。さまざまな理由から学校に通いづらくなった、授業を受けられるように設置された制度で、担任やカウンセラーのケアの下、自分のペースで学習し、進路実現を図るセーフティネットとして17年から導入された。一定期間ここで学習してHR(ホームルーム)クラスに戻る生徒もおり、高校CSルームでは9割が大学に進学する。手厚いサポーター体制は、一人ひとりに寄り添う樟蔭らしい。

小嶋校長は女子校の魅力「共学なら自然と男子の役割とされてしまうことも自分たちでやり、経験の幅が広がります」と語る。樟蔭での学びが、生徒たちを「なりたい私」へと近づけていく。

School Data

〒577-8550
大阪府東大阪市菱屋西4-2-26
☎06-6723-8185
<https://www.osaka-shoin.ac.jp/>

- 創立 1917年
- 交通 ● 近鉄奈良線「河内小阪」駅から徒歩4分
- JRおおさか東線「JR河内永和」駅から徒歩5分



上宮学園中学校・上宮高等学校

Homepage

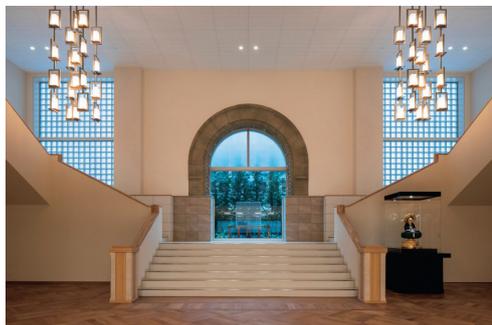


愛を持って子供たちを見守る 面倒見のいい伝統校

from the School

木戸俊治教頭

「正思明行」の校訓の下、生徒の自主性を重んじ、主体的に行動できる力を育みます。



1890(明治23)年に設立された浄土宗の開祖法然上人の教えを届ける浄土宗大阪支校が母体。校訓は「正思明行」。物事を正しく見つめ、明らかに実行するという教えだ。



2月にはスキー実習も行われる。



左/授業は「進んでは戻る」を繰り返して、学び残しをつくらない。

右/ネイティブ教員による英会話や少人数制指導など、手厚い英語学習環境がある。



中学の体育祭はエディオンアリーナで行う。さまざまな生徒が活潑し、大いに盛り上がる。

見守られている安心感が
挑戦への意欲を生む

130年余を誇る大阪で最も歴史ある私立校、上宮学園中学校・上宮高等学校。高校は17クラス約2000名の生徒が通うが、中学校は3〜4クラスと少人数制で、教員チームが保護者と綿密に連携しながら安心感のある学びの環境を提供。生徒に異変が見られたり、叱る必要がある場合は、すぐに保護者に連絡し、学校と家庭の両輪で生徒を見守る体制を整えている。

「本校では教員が汗をかくことを厭わず、生徒を手厚くフォローしています。教員は昼休みなども教室で過ごし、生徒たちの様子を見ています。何かあれば教員が率先して解決へと働きかけるため、生徒も学校を信頼して教員と本音で語り合う関係が育まれます。そういうところから、本校の楽しい雰囲気生まれているのでしよう。保護者の口コミで本校を選んだというご家庭も多いのです」と木戸俊治教頭は語る。

中学には難関国立大学進学を目指す特進コースと、指定校推薦・高大連携入試も活用して国公立・難関私大を目指すGコースがあるが、自主性を大切に、勉強を頑張る生徒も、部活に注力する生徒も、等しく全力で応援するのが教育方針。授業では両コース共に着実性を重視し、極端な先取りは行わず、個々の理解度に合わせて教員が伴走する。一方で生徒全員がタブレットを持ち、授業や

課題提出、連絡事項はオンラインで完結するICT環境も整っている。伸びやかな学校環境の下、さまざまな体験から生徒のポテンシャルを引き出していくのも上宮学園の特徴だ。ECC国際外語専門学校と連携したグローバル体験プログラムでは、ホテルやエアライン業界を模した英語体験を生徒に提供。体育祭のリレー競技では、中継地点で計算問題が出されるため、俊足と頭脳の総合力が問われ、大会一の盛り上がりを見せる。「どんな生徒にも活躍の場を提供しています」と木戸教頭。

高校進学時は系列の上宮太子高等学校を含む多彩なコースから、自分に合った選択が可能。塾・予備校の授業を校内で受講できる「Uゼミ」も開講し、国立大学現役合格に向けた受験対策も万全だ。「Uゼミ」では中3生に向けた「高校進学準備講座」も開講。国立大学などに進学した卒業生らが指導に当たり、受験に向けた意識づくりや勉強方法をレクチャーする。伝統校は、生徒一人ひとりにどこまでも手厚い。

課題提出、連絡事項はオンラインで完結するICT環境も整っている。伸びやかな学校環境の下、さまざまな体験から生徒のポテンシャルを引き出していくのも上宮学園の特徴だ。ECC国際外語専門学校と連携したグローバル体験プログラムでは、ホテルやエアライン業界を模した英語体験を生徒に提供。体育祭のリレー競技では、中継地点で計算問題が出されるため、俊足と頭脳の総合力が問われ、大会一の盛り上がりを見せる。「どんな生徒にも活躍の場を提供しています」と木戸教頭。

School Data

〒543-0037
大阪府大阪市天王寺区上之宮町9-36
☎06-6771-5701
<https://www.uenomiya.ed.jp/>

- 創立 1890年
- 交通
 - 近鉄大阪線・奈良線・難波線「大阪上本町」駅から徒歩6分
 - 大阪メトロ谷町線・千日前線「谷町九丁目」駅から徒歩10分
 - JR大阪環状線「桃谷」駅から徒歩12分

コアネットの

すべての生徒に活躍の機会がある、伝統ある手厚い上宮教育に注目▶入学後の手厚いケアに定評がある同校。保護者からの信頼、満足度は非常に高く、弟や妹を入学させるケースが多い。6年間さまざまな用意された行事・校外学習の機会では、葛藤がありながらも教員に支えられて大いに成長を遂げる。今後の生徒たちのさらなる飛躍にぜひご注目いただきたい。



追手門学院中学校・高等学校



from the School

技術・家庭科主任 松下恭平先生

「学びのプロジェクト」では「好き」「驚いた」ものを掘り下げ、気付きを形にしました。



上/未来に向かって出航する船のような特徴的な校舎。

右/保護者を招いて行われた「学びのプロジェクト」発表会。生徒たちが調べたことはポスター化して貼り、その前に「気付き」を表現した作品が飾られる。保護者も興味津々の様子だ。



上/常に書籍に囲まれ、刺激を受けながら過ごすことができる学習環境一体型の校舎内。



左/学校内の各所にあるホワイトボードは、生徒たちが気付いたことを書き込み、議論する場でもある。

やってみる姿勢と振り返りを大切に

「いつでも、どこでも学べる」をテーマに、既存の学校のイメージを抜本的に見直した学びの空間。それが追手門学院中学校・高等学校のキャンパス「スマートパレット」。この未来型学習拠点では先鋭的な探究学習への挑戦が続く。

2020年度より中高共に教科として「探究」を開始、授業は週2時間、中1から完全オリジナルの「学びのプロジェクト」に取り組み。技術・家庭科主任の松下恭平先生は現在の中3が新入生のときから、探究の授業も担当してきた。生徒は自分の感情や気持ちをアートや言葉で表現し、少しずつ自分を掘り下げてきたという。

「3年生にはまず最初に模造紙を教室に貼り、国語や英語、数学といったフレームを与えます。それぞれに対して『自分が驚いた内容』や『こんなことがあった』ということを書き込みます。そうやって3年間学んだ内容を眺めて、何が一番驚いたかを見つけ、それを掘り下げます」

例えば「本能寺の変の黒幕」に興味を持った生徒は、諸説を調べ上げ、本能寺跡地にも赴いた。しかしこれをまとめて終わりにしないのが、追手門らしいところ。生徒は本能寺の変の黒幕は、読み解く人の立場によって変わることに気付き、「事実は一つでも、立場によって見え方は変わる」ことを作品で表現。そこで箱

に穴を4カ所開けて、中に棒に刺さった球体を設置。ひとつの穴からは背景にサッカーゴールが描かれた面が見える。しかし別の穴からのぞくと、今度は宇宙を描いた背景が現れ、惑星にも見える。ここから「形は『丸』だけど、角度によって全く違うものに見える」ことに落とし込んだ。

12月に保護者と教員に向けて生徒たちが行った学びのプロジェクト発表会では、調べ学習を超えた内容や成長への驚きから、保護者からは「100%良かった」と好反応だった。中学3年間かけての「探究」は、

高校でさまざまな刺激を受けて、学びを深めていくうえでのアドバンテージになるはずだ。同校では「学ぶとはどういうことか」という問いかけを大切にしている。与えられた知識を詰め込む教育ではなく、「まずはやってみる姿勢」と「振り返り」を重視。こうした積み重ねが生徒の自己肯定感を高め、湧き出る興味へ突き進む原動力となるはずだ。

School Data

〒567-0013
大阪府茨木市太田東芝町1-1
☎072-697-8185
https://www.otemon-jh.ed.jp/

- 創立 1947年(中学部開設)
- 交通 ● JR京東線「総持寺」駅から徒歩約19分
- 阪急京都本線「総持寺」駅から徒歩約24分
- 阪急京都本線「茨木市」駅から近鉄バスで約15分、「追大総持寺キャンパス前」下車すぐ





from the School

数学科 杉邨仁美先生

「野生動物学初歩実習」は大変な
労力が必要ですが、生徒は勉強
と両立し結果を出しています。

関西大倉中学校・高等学校

Homepage



未来をイメージしながら学ぶ 多彩なプロジェクトを推進



左/9期目となる「野生動物学初歩実習」の高2生メンバー。今回から高1の募集を開始し、昨年から継続する高2生と共に11人が参加した。

下左/「野生動物学初歩実習」に関わった京大法学部学生の紹介で、「模擬裁判」も始まった。既存プログラムをそのまま導入するのではなく、さまざまな縁からゼミや講座が生まれるのが、関倉らしさ。下右/春には天王寺動物園の飼育員体験を行い、飼育員や同園の獣医に話を聞いた。これも生徒が自主的に探してきたものだという。



自然に囲まれた抜群の環境。

創立120周年を記念して完成した中央共用棟と高校棟。



大学の学びに触れる 高大連携プロジェクト

広大な敷地に、季節の移り変わりを身近に感じる豊かな自然。そこに調和するように、多機能型図書館やサイエンスラウンジなど充実した教育環境が用意された関西大倉中学校・高等学校。知的好奇心を刺激するアカデミックな取り組みや企業探究などでキャリア教育を実践し、「将来大学で何を学び、社会にどう貢献するか」を生徒たちにイメージさせ進路選択をサポートしてきた。

「野生動物学初歩実習」もその一つ。これは京都大学霊長類学・ワールドライフサイエンス・リーディング大学院が主催する高大連携プロジェクト。京都大学に進学した同校の卒業生と、府立北野高校の卒業生で企画し、2校の生徒で2015年より開始した。

ここでは高校生が主体的に研究のテーマや手法を設定し、観察、発表を行い、京都大学の学部生がアドバイザーとして活動を補佐する。彼らは休日を利用して京都市動物園に通い、ゾウやサル、シマウマ、キリン、ペンギンなどの行動を観察し続けた。研究の成果は今年2月、愛知県で開催された「第68回プリマータス研究会」で発表され、2組がポスター賞を受賞。「研究者や大学生、教育関係者も参加するイベントで、自分たちの研究内容を熱心に伝える姿が印象的でした」と実習を担当した杉邨仁美先生は振り返る。

このプロジェクトは観察に多くの課外活動時間を要し、そこで得た膨大なデータを解析、仮説、結論へと導く。夏は暑く、冬は寒い動物園での観察は過酷だが、「粘れば粘るほど濃いデータが出る」とわかっていたので、つらくても頑張りましたとの声も。実習を通して生徒たちからは「動物の研究は答えがすぐ出るわけではないかと、いろんな視点から考えられるようになった」「動物を観察していたら次々と疑問が湧く。それを解決していくプロセス自体がどんどん楽しくなった」と、成長を感じさせる感想が次々と返ってきた。

京都大学の先生や学部生など、多くの人との出会いがあり、この経験から進路を見つけ、将来の夢につながる人を紹介してもらったことも。ほかにも同校では、高大連携として国公立大学の研究者を招いて年間10回以上講義を行う「学問体感」があり、多様なテーマで一線の研究者が生徒へ語りかける。「大学の学びに触れる」引き出しの多さと奥深さも同校の魅力といえるだろう。

このプロジェクトは観察に多くの課外活動時間を要し、そこで得た膨大なデータを解析、仮説、結論へと導く。夏は暑く、冬は寒い動物園での観察は過酷だが、「粘れば粘るほど濃いデータが出る」とわかっていたので、つらくても頑張りましたとの声も。実習を通して生徒たちからは「動物の研究は答えがすぐ出るわけではないかと、いろんな視点から考えられるようになった」「動物を観察していたら次々と疑問が湧く。それを解決していくプロセス自体がどんどん楽しくなった」と、成長を感じさせる感想が次々と返ってきた。

School Data

〒567-0052
大阪府茨木市室山2-14-1
☎072-643-6321
<https://www.kankura.jp/>

- 創立 1902年
- 交通 阪急宝塚線「石橋阪大前」駅、北大阪急行・大阪モノレール「千里中央」駅、阪急千里線「北千里」駅、JR京都線「茨木」駅、阪急京都線「茨木市」駅からスクールバス

コアネットの

探究教育で見つけた夢へのチャレンジを支える中学時代の確かな土台 ▶ 豊かな自然に恵まれた敷地を活用した探究活動と、安定して国公立大学合格者を輩出する学校として評価が高い同校。上記の京都大学との連携も注目だが、学業面での支援も厚く、見つけた目標を着実にかなえる支援体制にもぜひ注目いただきたい。中学時代に築かれた土台を基に、関倉生は大きく飛翔する。

京都先端科学大学附属中学校高等学校



Homepage



テーマは、2050年の世界をデザインする 「京都発世界人財」の育成

from the School

山田尊文教頭

新コースでは大学附属校のメリットを最大限に生かして、新しい教育創造に挑戦し続けます。



上/ 学内に養蜂箱を設置して蜂蜜を採取。それを地元企業とコラボして嵐電「嵐山駅」で販売したところ、5分で100個を完売した!
左/ 地球学の集大成となるプレゼン大会は、生徒一人ひとりがテーマを設定して発表する。
右/ 中3生が全員経験するカナダ研修・留学。



中3キャリア教育でのニデック本社訪問。



左/ 芸術科教員で日本画家でもある米田先生が引率する中1の芸術鑑賞。

右/ 中2・3の選抜メンバーが1週間スウェーデンでホームステイ。現地では「おにぎりプロジェクト」を実施して交流を深めた。



新たに「先端グローバルコース」を設置

2000年の中学開校時から「ホノモノに触れる」をコンセプトに、教科を横断して体験的な学びを実践してきた京都先端科学大学附属中学校高等学校（KUAS）。10年にこれを「地球学」として体系化、さらに独自のSTEAM教育へと発展させ、生徒の可能性を広げてきた。昨年度はイマージョン授業の始動やカナダ研修旅行（中3）の再開と、グローバル教育も加速させている。

これまで中学はGN（Global Network）コースだけだったが、百周年を迎える25年の募集より「先端グローバルコース」を新設。「生徒が社会に出る時代を生き抜く学びを、『2050年の世界をデザインする人財を輩出する』とし、KUASの学びのコアにある地球学をアップデートしていきます」と山田尊文教頭。豊富な体験学習に加え、2050年の「食と農」「環境とテクノロジー」といったテーマを据え、「大学の工学部やバイオ環境学部と、最先端の学びをプログラムに落とし込んで、連携を本格化させます」（山田教頭）

新コースは「アーリーエクスプロージャー」（早期体験学習）として、中学のうちから大学の高度な学びに触れる機会を増やし、将来の可能性や興味の幅を広げていく。中3生全員を対象に9月からカナダへの5カ月間のチーム留学も導入するという。高校では研究の域まで先取りへ。「地

School Data

〒616-8036
京都府京都市右京区
花園寺ノ中町8
☎075-461-5105
https://www.js.kuas.ac.jp/

- 創立 1925年
- 交通 ● 京福北野線「妙心寺」
「等持院」駅から徒歩約3分
- JR嵯峨野線「花園」駅から徒歩約15分

球学」を「知究学」へとアップデートし、大学教員がオムニバス形式で担当する「知の先端プログラム」を実施。教員がファシリテーターとなり生徒と対話しながらの授業では、農学、環境、工学など多様な側面から社会の諸課題にアプローチして2050年の世界をデザインしていく。「知究学」では自分でテーマを見つけ大学教員のサポートを受けながら研究発表するが、アウトプットの形式は問わない。論文やビデオでの発表、あるいはアート的手法を用いても構わない。「論理的に考える思考力も大切ですが、一方で答えのない課題に果敢に挑む想像力や感性も育てていきたい」

高2での海外名門大学における2週間の研修は、設定したテーマに沿って現地の学生や教員とディスカッションする高度な内容。高3では週1回、太秦キャンパスで大学生や留学生と共に学ぶ大学先取り授業「アドバンストプレイズメント（APE）科目」もある。ニデック創業者でもある永守重信理事長の掲げる「世界への挑戦」という理念の下、KUASの教育は深化を続ける。

コネットの アートから、ものづくりまで幅広い体験が本物の知的好奇心を育む▶ 校名の変更もあり急激に注目度を増しているが、地球学を中心とした探究教育の実践の積み重ねは厚い。アート教育は特徴的で、校内で実施されるアートコンペには、多くの生徒が作品を寄せる。ぜひ一度、説明会や学校見学でハイレベルな作品を見ていただきたい。



from the School

安田文彦校長

大学に進んだ先の「夢」に向かって、生徒が出会う世界をどんどん広げていきます。

京都橘中学校・高等学校

Homepage



誰しも自分が輝ける場所がある
夢に向かう生徒を全力で応援



文化部のクラブ活動も盛んで、学校全体の雰囲気は明るい。



上/明治天皇の陵である伏見桃山陵に隣接した、落ち着いた環境にある。



高1の研修旅行はカンボジアと沖縄の2コース。上はカンボジアを訪れた生徒たち。下は沖縄県のうるま市と那覇市を訪れた高1の研修旅行。現地の事業者とともに課題解決に取り組む、自分たちで販売も経験。学校では会えない大人たちと出会い、刺激を受けていた。



左/3月にびわ湖ホールで行われた吹奏楽部の定期演奏会。瞬く間にチケットが完売になるほどの人気だ。

生徒も、教員も、
変化を楽しむ人であれ

緑豊かな伏見桃山陵に隣接する京都橘中学校・高等学校。中高6年間を2年ごとのチームに分けた一貫教育で、難関国立大学や医学部、有名私立大学にも対応できる高い学力とともに、豊かな人間性を育む同校。2023年度入試から募集人員を増やし、新2年生から1学年3クラス制に。さらに全学年が3クラスとなる25年度からは、「Va」1クラスと、「V」2クラス編成での募集となる。「生徒の中には興味関心を広げ、勉強に突き進んでいきたいタイプもいます。『Va』では中3から先取り学習をしながら、第3ターム(高2・3)で国公立αクラスに進みます」と安田文彦校長。「V」クラスはこれまでどおり基礎学習の定着を徹底しながら、ゆるやかな先取り学習をしていく。それぞれの学びに向かう姿勢を尊重した形で、クラスの移動も可能だ。

同校では課題解決力を養う取り組みにも積極的に、探究活動に注力している。探究学習「クエスト」では京都の若手起業家グループ「U35」が協力するなど、独自の方針を確立した。

また高1の3月に行われた研修旅行も探究型に。生徒は沖縄とカンボジアから選択し、SDGsに取り組み現地の起業家とオンラインで話し、現地ではフィールドワークや実践販売まで行った。最終日には直面する

社会問題に対して最終プレゼン。「研修では生徒たちが洗練と活動する姿が見られました。『地元や社会を良くしたい』という熱い思いを抱えた大人と交流することで、自分の生き方を考える。それが生きた教育となります」

京都橘は明治時代中期、女性の社会的自立を目的に「京都女子手芸学校」として開校した伝統校。これからは未来を見据えて進化し続ける意志を込め、「変化を楽しむ人であれ」という新たなタグラインを策定した。「まず教員自身がチャレンジしながら学ぶことが大切だと、教員研修推進チームを立ち上げました。生徒と共に学ぼうとする姿勢を持つことが、何より大切だと考えています」

勉強だけでなく、探究活動やクラブ活動にもしっかり取り組み進路に生かす。特にクラブ活動では、全国区で知られる吹奏楽部に刺激を受けて、さまざまなクラブが切磋琢磨し、学校に元気を与えている。授業もクラブ活動も全力で。個性を磨きながら、社会で必要とされる人間に成長していく。

School Data

〒612-8026
京都府京都市伏見区桃山町伊賀50
☎075-623-0066
https://www.tachibana-hs.jp/

- 創立 1902年
- 交通
 - 京阪宇治線「桃山南口」駅から徒歩約5分
 - JR奈良線「桃山」駅から徒歩約10分
 - 近鉄京都線「桃山御陵前」駅から徒歩約15分

コアネットの

部活も進学も学校全体で支える「チーム橘」の躍進に注目 ▶ 同校の吹奏楽部は知名度が高く、台湾やアメリカへも招待されるなど活躍はグローバル。他の部活動も全国大会常連が多く、「チーム橘」として学校全体で活躍を支えている。同時に放課後や土曜日の学習フォロー体制も非常に手厚く、進学面も「チーム橘」で支える。部活に勉強に、学校全体で全力な校風に注目したい。

同志社香里中学校・高等学校



from the School

入試部主任 中瀬古佳史先生

周囲の変化に柔軟に対応する「しなやかな人間力」を持った生徒を育てていきます。

Homepage



可能性の扉を開く「自治自立」の精神が「しなやかな人間力」を育む



上/ 繋真館(メディアセンター)は図書館として、ラーニングコモンズとして利用されている。



上/ 大阪府にある唯一の同志社系列校として人気が高い。



左/ 日本弁護士連合会主催の「高校生模擬裁判選手権」に毎年参加して実績を積んでいる。



左/ 繋真館の中央には同校のシンボルツリーが立っている。

10年間で将来を描く「七つの教育」を実践

大阪で唯一の同志社である同志社香里中学校・高等学校。社会でたくましく生き抜く「人間力」を養ってきた同校には、10年先を見据え、中高で育成したい人物像と活動方針を示した「Vision2030」がある。

そこに示される「七つの教育」には、校祖・新島襄の思いを受け継いだ同志社の理念「キリスト教主義・自由主義・国際主義」がある。さらに同校の教育活動「中高一貫教育」「ICT教育」「探究活動・学際的な学び」「キャリア教育」により、多様性を尊重し、自由な考えの下、主体的に行動できる人間を育成する。同校が実践的な英語教育に力を入れているのは、「国際主義」の根底において世界中の多種多様な価値観を認め合い、柔軟に考え行動できる「しなやかな人間力」育成を目指しているからだ。そのため2週間のカナダ語学研修をはじめ、高校ではポーストンの名門校で1カ月学ぶ「サマーセッション」、サンフランシスコに10日間留学する系列4校共通の「NEVEA交流プログラム」など、多くの語学研修・留学制度が用意されている。

リベラルアーツが息づいた同校では、全教科で探究的な学びを用意。特に中2の「探究理科」では、実験や観察などを通して、科学的な思考力を身に付けさせる。高校では「総合的な探究の時間」を使い1・2年

で論文を書くための基礎を指導、3年ではテーマを決め、教員のサポートの下、研究し論文にまとめていく。さらに生徒の探究心をかき立てるのが、6万冊の蔵書を擁する図書館とICT環境の整った「繋真館」で、知の拠点として活用されている。

キャリア教育では実社会とのつながりを意識づける取り組みを行い、中3では毎週、さまざまな社会人講師を招いて職業講話を実施。高校では外資系企業でのインターンシップ体験などを通じ、社会の現状を知る機会を設けている。

10年前から取り組むのが「高校生模擬裁判選手権」で、一昨年は全国大会優勝、昨年も関西大会で準優勝と、実績を残している。「これは同志社大学の法科大学院の存在が強み。現役弁護士や同大会に出場した卒業生が指導し、本番さながらの練習を積んでいます」(中瀬古佳史先生)

同校は毎年約95%が同志社大・女子大へと進学するが、そこが学びのゴールではない。新島襄がキリスト教主義の学校を創立したように、既存の枠を越えてチャレンジする精神は今も変わらない。

School Data

〒572-8585
大阪府寝屋川市三井南町15-1
☎072-831-0285
https://www.kori.doshisha.ac.jp/
●創立 1951年
●交通 京阪電車「香里園」駅から徒歩約18分

コアネットの

10年一貫の「同志社教育」は求められる国際感覚を身に付けさせる▶キリスト教主義、自由主義、国際主義に基づく全人教育という柱は不変。中高での学びが大学進学後の研究活動で学び続ける力を育み、教科横断的な探究活動からは共感性や感受性を育むことができる。選択肢の多い海外研修制度も人気で、大学進学後の夢やビジョンを持つきっかけとなるだろう。



常翔学園中学校・高等学校

Homepage



進学その先を見据え、
スキルやコンピテンシーを身に付ける

from the School

入試部部长 花本圭史先生

興味・関心の赴くままに、生徒が全力で走っていきける。それが探究ゼミの魅力です。

生徒が手作りした
成果発表会のパン
フレット。今求め
られている理想の
教育のきっかけに。



「探究アウトプットタイム～Have Fun・Deep Learning～」が開催された。中2生が活動内容を中1生にプレゼンし、今年から2学年一緒に活動していく。プレゼン資料や発表方法も考え抜き、成果物を触れられるようにしたり動画を流す工夫も。下級生に語りかける姿には頼もしさも感じられた。

ワクワクと深い学び
考えることが楽しくなる

教育理念「『自主・自律の精神』と幅広い『職業観』を養う」に基づく、独自の学びを展開してきた常翔学園中学校・高等学校。国立大学合格者が100人を超える進学校、学園内に三つの大学併設校、先進的なキャリア教育を実践する特色教育先進校という要素を併せ持つハイブリッド校として進化した。その最終的な目標は、将来生きていくためのスキルやコンピテンシーを生徒が身に付けること。そのために次々と新しいプロジェクトに取り組んでいる。昨年からは探究・キャリア教育の「常翔STEAM」に続き、スーパーJコースの中で「科学探究」が始動。これは週1回、放課後に開催される研究活動で、理科・美術を中心に多様な教科領域を横断しながら進められていく。生徒は四つのゼミから選択して活動し、3月に成果発表会が開催された。

岡本正夫先生が担当する「ロボットプログラミングゼミ」ではiPadで自律型ロボットにプログラミングし、さまざまなミッションにチャレンジ。「基本さえ丁寧に教えたら、あとは自分たちで工夫をし、課題解決するのを待ちます」（岡本先生）興味を持ったことに対して計画を立てて研究し、自分なりの答えを出すことを目的とした「サイエンスチャレンジ」では、硫酸銅の析出やレールガンについて発表。担当の持田政

治先生いわく「ゼミ生は主体性が高く、実現困難な課題でも最終的にある程度の形に仕上がります」。

藤田風歩先生が担当する「デザイン探究」では、自分が不便に思うことや、「あったらいいな」を形にしようと、今回は「新しいスクールバッグのデザイン」を考える課題に、素材や機能性から改善点を見いだしデザイン画として表現した。

水圏環境探究ゼミは、「学校近くの『城北ワンド』で『外来種も含めたあらゆる生物が共存できる環境を』と、生徒たちがテーマを設定、未来の地球をイメージしながら取り組んでいます」と花本圭史先生。

先生方が口を揃えて言うのは、「アイデアを絶対に、否定しない」。生徒からも「自分で調べ、考えることが楽しい」という言葉が出た。ゼミがもたらした効果は、先生の想像をはるかに超えていたようだ。教員たちが新しいことにどんどん挑戦したいと語る同校では、生徒にも失敗を恐れない空気が生まれた。挑戦はまだまだ止まりそうにない。

「探究アウトプットタイム～Have Fun・Deep Learning～」が開催された。中2生が活動内容を中1生にプレゼンし、今年から2学年一緒に活動していく。プレゼン資料や発表方法も考え抜き、成果物を触れられるようにしたり動画を流す工夫も。下級生に語りかける姿には頼もしさも感じられた。

School Data

〒535-8585
大阪府大阪市旭区大宮5-16-1
☎06-6954-4436(入試部)
<https://www.highs.josho.ac.jp>

- 創立 2011年(中学校)
- 交通
 - 大阪シティバス34号系統「大宮小学校前」下車、徒歩約3分
 - 大阪メトロ谷町線「千林大宮」駅、谷町線・今里筋線「太子橋今市」駅から徒歩約12分
 - 京阪本線「千林」駅、「滝井」駅から徒歩約20分

コアネットの

知的好奇心をくすぐる環境と進学校のような学習環境が共存するハイブリッド校▶学園内に最先端の教育・研究を行う大学が3校あり、最先端の研究に実際に触れて体感できる機会が多い同校。興味・関心が芽生え、学びに向かう力が自然と身に付けられる環境は魅力的。国立大学合格者も100人を超え、右肩上がりの進学実績は、進学校のように丁寧な学習サポートと、こうした知的好奇心をくすぐる環境が支えている。

常翔啓光学園中学校・高等学校



from the School

山田長正校長

国立大学合格者も60名を超え、生徒には多様な進路が広がっています。

Homepage



思春期の心を健やかに伸ばし、 中高大10力年で次世代能力を育成

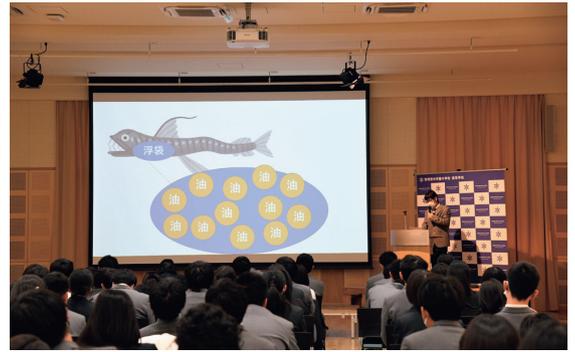


上/自慢のクライミングウォールは、リード、スピード、ボルダリングの3種がそろい、2種が国際基準を満たした本格派。スポーツクライミングの大会も開かれる。

右/学園内大学の大阪工業大学の先生から学ぶ中大連携授業。



中1〜中3の希望者が参加するニューゼーランド夏期研修。ホームステイで現地校の授業に参加する。



上/中3の各クラスの代表が研究成果を発表する「コミュニケーション発表会」。テーマは自由。中1、中2年生も一緒に聞いている。



左/学園内に「啓中農園」があり、中2の技術の時間に田んぼで米作りも行っている。

やりたいことが見つかる 豊かな学びを用意

1957年に男子校として創立。共学化し、2013年より常翔学園のグループ校となった常翔啓光学園中学校・高等学校では、異年齢間教育を行う伝統が、学年を超えて生徒の仲が良い校風を生み出している。入学後すぐに中学3学年の縦割り班をつくり、上級生が下級生に学校生活や勉強の仕方を教える。文化祭や球技大会、体育祭などの行事も縦割りで行い、自身も同校の卒業生だという山田長正校長は「本校は学力の伸長と心の成長の二つを大切にしており、心の成長については異年齢間教育が大きな役割を果たしています」と語る。

学習面では「グローバル教育」「21世紀型教育」「キャリアデザイン教育」の三本柱を掲げる。「グローバル教育」では、中1よりオンライン英会話を週1回実施。希望者は夏期語学研修(10日間)に参加でき、事前学習から上級生が下級生を指導し、現地で日本を紹介する資料作りに取り組む。

「21世紀型教育」では新聞や偉人を教材とした調べ学習を実施し、タブレットを活用したプレゼンテーション能力を磨く。中2では探究の成果をクエストラップで発表し、「ロールモデル」部門で過去にグランプリを受賞。さらに中3では卒業研究を実施し、グランプリを決める3学年合同の発表会は非常に盛り上がりを見せるという。なお、過去のグランプリ実績のうち、橋の構造研究を行った生徒が筑波大学理工学群に、医療系研究を行った生徒が徳島大学医学部医学科に進学した実績もある。

「キャリアデザイン教育」では学園内大学である大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学との中大連携プログラムを実施。ロボティクスや環境工学、バイオ、医療福祉などに関する授業を各大学の教員から受ける。また近隣の関西医科大学と連携協定を締結、関西外国語大学とも実習で提携しており、「進路選択や職業観への意識を、『勉強しようか』という意欲に変える仕掛けをたくさん用意しています」と山田校長。

School Data

〒573-1197
大阪府枚方市禁野本町1-13-21
☎072-848-0521
https://www.keiko.josho.ac.jp/

- 創立 1957年(中学校)
- 交通 ●京阪本線、京阪交野線「枚方市」駅から徒歩13分
- 京阪交野線「宮之阪」駅から徒歩7分
- 「枚方市」駅からバス「中宮住宅前」下車、徒歩5分

学園内3大学への推薦枠が豊富なのも同校の魅力だ。中学校は2コース制で、難関国立大学・医歯薬系大学への進学を目指す特進選抜コースのほか、学園内大学との10力年教育に力を入れる未来探求コースでは、摂南大学文系学部への進学につながるクラス選択が可能。文武両道で伸び伸びと6年間を過ごせる環境がここにある。

コアネットの

ここにしかない体験が「キャリアデザイン教育」にさらなる厚みを与える ▶常翔学園全体で取り組む「キャリアデザイン教育」だが、同校では、独自の「自ら勉強をしようと思うようになる、意欲づくりのための“仕掛け”」がさらに盛りだくさんに詰め込まれている。校内に畑、田んぼ、さらにはクライミングウォールがあり、他校では体験できないリアルな教材をふんだんに使った常翔啓光学園の21世紀型教育にご注目いただきたい。



from the School

下川清一校長

滝川伝統のリーダーシップ教育で、ジェンダーにとらわれない学びの場を提供します。

滝川中学校・高等学校

Homepage



共学化でさらなる高みを目指す 滝川リーダーシップ教育



上/医進選抜コースで放課後に行われる「滝川メディカルゼミ」。左/「ミライ探究一貫コース」は男子のみとし、リーダーシップ教育を完成させる。写真は白川郷にある「トヨタ白川郷自然学校」での研修。

男女の制服。



「Science Global一貫コース」の3カ月のニュージーランド留学。ホームステイで現地校に通い、生徒たちは一皮むけて帰国する。

多様な視点と深い専門性が
新しい学校をつくる

1918年創設の伝統ある男子校、滝川中学校・高等学校では、改革と進化が続いている。今春より男女共学へと踏み出し、「医進選抜コース」と「Science Global一貫コース」で女子生徒の受け入れを開始した。「予想以上に女子の入学希望者が多くて驚いています」と語るのは下川清一校長。「グローバルに活躍するリーダーを輩出したい。その思いに性差はありません。女子も自らの力でリーダーシップを取り、まだまだ男女格差のある社会を変えていく力を養ってほしい」

新コースがスタートして3年目を迎えた滝川。コースごとに明確な目標があり、それぞれ異なる取り組みを実践している。最難関医学系大学・学部への進学を目指す「医進選抜」は、平日の放課後に「滝川メディカルゼミ」の講習を全員が受講。医学部進学に向けて、医系の予備校とタイアップし、ベテラン講師や現役医学部生が指導に当たる。土曜は課外授業として、医療に関する体験型プログラムを用意。倫理観や患者に寄り添う人間性を育む。

国際社会で活躍できる新時代のリーダーを目指す「Science Global一貫」は、中3で3カ月のニュージーランド留学を行う。これは語学力と共に異文化理解、さらに親元を離れた環境での精神的な成長を狙いだ。人前で話すのが苦手だった生徒が、

帰国後は堂々と話すようになり、さらに「滞在中、英語力は一時的に上がるが、継続しなければ意味がない」と語ったことが印象的だったと下川校長。理教科目の強化と実践的な英語学習に注力してきた成果は、進学実績に表れている。進学実績を伸ばす一方で、探究活動や海外体験を通して自ら考え、行動できる人間力を高める機会も数多く設けられている。「ミライ探究一貫コース」では週3時間を探究に充て、学びの幅を広く用意。中2生は4月に「トヨタ白川郷自然学校」で2泊3日のプログラムを体験。昨夏に参加した中3生のうち、7名が自身の経験を生かして後輩を引率した。夏休みには、中3生の無人島体験も計画中だ。挑戦を続けることで、興味のあるものや得意なことが見えてくる。

改革に手応えを感じ、滝川は今まさに躍進の時。「楽しみなのは男子の覚醒。共学化は、彼らにとって大いに刺激になるはず。男女共に互いの良いところを認め、古い価値観を打破して、これからの時代を生き抜ける人間に成長してほしい」。そう語る下川校長の目は、共学化の未来を見据えている。

School Data
 〒654-0007
 兵庫県神戸市
 須磨区宝田町2-1-1
☎078-732-1625
<https://takigawa.ed.jp>
 ●創立 1918年
 ●交通 神戸市営地下鉄・山陽電鉄「板宿」駅から徒歩約5分

コアネットの目 共学化1期生が入学！ 新たな刺激を受け進化する滝川教育に注目 ▶ 今年から共学化し、人気のコースにさらに注目が集まった同校。高い倍率をくぐり抜けた共学1期生たちは、ポテンシャルに満ちあふれている。新校舎への建て替えも控えており、さまざまな分野へリーダーを輩出してきた滝川伝統の教育が、新たな刺激と活力を得てどのように進化していくのか。ぜひご注目いただきたい。



滝川第二中学校・高等学校



from the School

中学主任 英語科 金子幸平先生

個性を大切にすることで、自分が熱中できるものが見つかる。それが大学入試でも役立ちます。

得意分野を伸ばせるコースが 子供を大きく成長させ、夢の実現へ



6月にオーストラリアのケアンズで6週間(または8週間)の海外留学を実施。英語漬けの日々を送り帰国した生徒たちは、英語力と積極性を身に付け、驚くほどの成長を見せたという。



「滝二は全員が仲良くて、毎日学校に行くのが楽しくてしょうがない。授業で印象的だったのは、外国人留学生に姫路城を案内するツアー。いろんな国の方々と仲良くなってうれしかったです」と話す、中学 I.U.E.知識実践コース1年の濱崎隆一さん。

「プログレッシブ数理探究コース」では数理的好奇心をかき立てるプログラムも用意。実験や自由研究に取り組む「プログレ探究」、「プロブレワンデー研修」や「サイエンスツアー」など校内外での体験型授業も豊富。



「部活を頑張りながら、火曜と金曜の放課後に『とことん数学』『とことん英語』といった講座があり、フォローアップ体制も整っています」と話す、中学 エキスパート未来創造コース2年の野村結心さん(上写真右端)。



芯を持った生徒が 学校をより魅力的にする

理数に特化した学びで難関大学合格を目指す「プログレッシブ数理探究コース」、英語力と国際感覚を磨く「I.U.E.知識実践コース」、可能性を高めて自主性を養う「エキスパート未来創造コース」の3コース制となつて4年目を迎える滝川第二中学校・高等学校。

同校では入試でも一人ひとりの個性を大切にしている。昨年、英語入試でI.U.E.知識実践コースに入学した濱崎隆一さんは、3歳からインターナショナルスクールで学び、小4で英検[®]2級を取得した。「面接では、英語を日本語と同じように運用できていることに驚きました」と中学主任の金子幸平先生。

志望動機を「得意な英語が生かせることと、広いコートで大好きなバスケットボールをやりたいかったから」と言う濱崎さんの将来の夢は、「プロのバスケットボールプレーヤー。勉強も部活も全力で取り組んでいる。英語の授業について聞くと「金子先生の授業は、なぜここでこの単語を使うのか丁寧に教えてもらえるので、より深く学べる」と答えた。同コースでは昨年から、全員参加のオーストラリア短期留学が始まったが、濱崎さんはこの語学留学が今から待ち遠しいという。

エキスパート未来創造コースに在籍する野村結心さんは、小6で剣道の兵庫県大会で優勝し全国大会出場。

中学入学後も数々の栄冠を手にし、スポーツの世界で切磋琢磨しながら、勉強との両立にも余念がない。「公立中学は高校受験で部活を引退しなければならぬけれど、中高一貫はその時期にも部活に打ち込める。だから勉強も頑張れます。高校生と一緒に練習できるのもうれしいです」

スポーツの世界で頂点を極めるために、夜遅くまで練習する姿を見たり、話を聞くことで、熱中できることが見つからない生徒も刺激を受け、いい影響が出てくる。「コース再編をしたことで個性や特色が見えやすくなり、『自分はこれで頑張りたい』と芯のしっかりした生徒が集まっています」と井口守人広報室室長。

特色入試はスポーツ限定ではない。本人が熱中するものなら、実績や活動への思いを基に評価する。やりたいうこと、興味あること、得意なことがあれば、滝川第二での学びから無限の可能性が開くはずだ。

School Data

〒651-2276 兵庫県神戸市西区春日台6-23
☎078-961-2381・2385
<https://takigawa2.ed.jp/>

- 創立 1984年
- 交通 ●JR[西明石]「明石」駅・山陽電車「山陽明石」駅から神姫バス「平野小学校前」下車、徒歩約8分。「環境西事業所前」下車、徒歩約10分
- 神戸市営地下鉄「西神中央」駅から神戸市営バスで「西体育館前」下車、徒歩約5分
- *登校時直通バス JR「西明石」「明石」駅と山陽電車「山陽明石」駅から「滝川第二中・高前」まで約25分

コアネットの

入り口から出口まで、好きを認め大事にする滝二の3コースの活躍に注目▶広大な敷地に広がる充実の教育環境を活用した先進教育で、プロ野球選手から難関国公立大合格者まで幅広い生徒を育てている。数理分野・英語運用力・各自の特技にフォーカスした3コースが3年前にスタート。それぞれの特徴的なプログラムを経験し、感動体験を積み重ねた滝二の生徒たちの次なる進化に注目したい。



from the School

田中智晴中学校教頭

生徒の主体的な活動を尊重しながら、目指す進路を実現できるようにサポートしていきます。

桃山学院中学校高等学校

Homepage



自由闊達な校風の中で育まれる
自主的な学びが、未来への夢を広げる



人工芝のグラウンドを完備したキャンパス。クラブ活動も盛んだ。



生徒たちが企画した「正月交流会」。最後はクラス対抗ドッジボール大会を開催。



桃山学院は1884(明治17)年、イギリス人宣教師らによって創設された学校が母体。クリスマスツリーの点灯式も重要なイベント。

「自由と愛の精神」が 息づくキャンパス

キリスト教の「自由と愛の精神」に基づく学びの場として、1884年の創立以来、個々の可能性を開花させ、社会に貢献できる人を育ててきた桃山学院中学校高等学校。全面人工芝のグラウンドや11万冊の蔵書を誇る図書館、室内温水プール、礼拝堂など充実の教育環境を誇る。

桃山学院の魅力として、一番に挙げられるのは「自由な校風」だ。「自主規律」の精神は本校の伝統です。1971年に制服が廃止されましたが、これは当時の高校生が希望し、教員やPTAと何度も話し合って実現したもので、「自主規律」の原点です」と田中智晴教頭が語る。その精神は制服のある中学でも変わらない。以前、男子はネクタイ、女子はリボンの着用が基本だったが、どちらの着用も自由に変更された。生徒会では現在、男女共用水着の導入に向けて取り組んでいるとか。

このように生徒が考え話し合い、目標を定め、苦勞を乗り越え実現していく経験は、受け身の教育では獲得できない大きな成長をもたらしている。教員も生徒の思いを正面から受け止めて判断を下す。「学校説明会では生徒が壇上で話しますが、原稿を用意せずインタビュー形式なのでリアルな声が聞けます。これも生徒を信頼している証しです」(田中教頭) 同時に教員も時代の変化に敏感だ。「私は『ネイティブ教員』という表

現をなくしたい。朝終礼、授業、学校行事など、学校生活において他の教員と同じ役割を果たしている中、英語を母国語としていることで区別をする必要はないと考えているからです」と田中教頭。

桃山学院はクリスマス礼拝をはじめ、サマーキャンプ、スキー合宿や耐寒登山など行事の多彩さでも知られる。生徒会は体育祭や文化祭などを企画・運営するが、昨年度は、より主体的な活動ができた振り返り。中学全学年で行われる恒例の「正月イベント」で、今年は生徒会主導で企画を考え、屋内派は「かくれんぼ」やカードゲーム、屋外派は「球技大会」を同時開催。最後はみんなが集まってクラス対抗ドッジボール大会を行い、大いに盛り上がった。

探究活動では新しい 試みを次々投入

2008年の中学校開設当初から、総合学習としてメディア教育があり、表現力、情報発信や収集能力から加工技術までICTスキルを学んできた。その一環として中2の総合的な学習の時間では、1年かけて修学旅行のプランニングに取り組み。授業を担当する技術科の垣本昌裕先生は、「内容も年々進化していますが、今年は情報を自分の足で稼いだチームが多く見られました」と振り返る。北関東に行くプランを立てたグループが着目したのは、足利市で明治時代から続く花火大会。「自分たちの修学旅行のために花火を上



上／修学旅行のプレゼン大会。中学3年の修学旅行の行き先は、生徒たちがプレゼンしたプランを自分たちが選んで決める。約1年かけて企画をまとめるプロセスは、探究学習そのもの。

右／修学旅行のプランニングの授業。



「英語の桃山」と言われ、英語教育にも力を入れている。



昨年の修学旅行。



上／天王寺動物園で動物の行動を観察し、そのデータを収集・解析し、その結果をデジタルで共有。



左／技術科の垣本先生。



中学3年の希望者を対象に行われる短期海外研修。ホームステイをして現地で生きた英語を学ぶ。

一人ひとりが目指す 進路を切り開く学習体制

桃山学院はきめ細かな進路指導で

「一人ひとりが目指す進路を切り開く学習体制」最近では天王寺動物園で、動物の行動観察データの収集と解析を実施。ここでは瞬間サンプリングとして30分間、動物の行動を観察し、1分ごとに記録していく。後日、動物の基本情報と行動記録をデータ化し、デジタルで共有できるようにした。中1でもこうしたレポートを1時間で作成できたというから、デジタル教育の浸透ぶりが実感できる。

「ほかにGeminiiと併用して比較させたり。間違ふこともあるマイナス面も教えつつ、進化する生成AIを使いこなせるようにさせたいですね」と垣本先生。

16年前の中学校開設当初から、当たり前のように探究学習を実践してきた同校。学校における生成AIの可否については議論が進んでいるが、桃山学院では積極的に使用する方針だ。中1からのプログラミングの授業ではChatGPTを使用して、自作プログラムがエラーを起こしたときに、その理由をChatGPTに求める。

「花火師がいる会社と連絡し、企画と予算を提示。交渉を成立させたうえで、コースを作成してプレゼンした。惜しくも2位となり実現はしなかったが、「電話のかけ方やメールの書き方などは授業で教えました。大人がやるような交渉にも挑戦したのは、うれしい驚きでした」(垣本先生)。

School Data

〒545-0011
大阪府大阪市阿倍野区昭和町3-1-64
☎06-6621-1181
https://www.mosoyamagakuin-h.ed.jp/

- 創立 1884年
- 交通 ● 大阪メトロ御堂筋線「昭和町」駅から徒歩約5分
- 大阪メトロ谷町線「文の里」駅から徒歩約8分
- JR阪和線「南田辺」駅から徒歩約10分

「中学校でいろいろな活動をしてきたので、総合型選抜でも自然な学びのなかでしっかりと合格を勝ち取っています」(田中教頭)。何事にも自分らしく伸び伸びと頑張れる環境で、生徒たちは学校生活を楽しみながら一歩ずつ夢に近づいていく。

また「英語の桃山」の伝統の下、中3は希望者が2週間のニュージールランド研修、高2では7月に中高一貫コースの学年全体でイギリスへの研修も用意されている。こうした数々の取り組みの結果、毎年国公立大や難関私大に多くの合格者を輩出している。

も知られる。中学は超難関国公立大・医歯薬系大学への進学を目指す「6年選抜」と、一人ひとりの進度に合わせた学習で国公立大学・難関私立大学への進学を目標とする「6年進学」の2コース制。放課後には自学自習の場となる「自習ステージ」や授業をフォローする「Rゼミ」を実施し、早いうちから自学自習を身に付けさせる。

好調な進学実績を支える自主性を伸ばす校風と、多彩な教育に注目 ▶ キリスト教の理念の下、学力と人間力をバランス良く伸ばす同校の校風は「明るく自由」で、多くの生徒が行事にも勉強にも積極的。近年、放課後の学習フォロー体制も充実し、大学との連携強化など、多彩な教育プログラムの開発・実践が積み重ねられており、今年は京都大学の総合型選抜入試で7名合格という大きな成果に結実した。



奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

Homepage



生徒が自分の成長を自覚できる
「伸び率日本一の学校」へ

from the School

安井孝至校長

失敗を恐れず、創造的に考え、未知なことにチャレンジし続ける人材の育成を目指しています。



上/天然芝の多目的グラウンドは、野球とサッカーが同時に行える広さ。ナイター設備も完備。
左/ニュータウンとして開発された閑静なエリアに約3万坪の広大な敷地を有する奈良学園。



中学1年から始まる探究学習。グループワークで話し合い、考えをまとめていく。



右/高1の3学期に希望者を対象としたオーストラリアへのターム留学(10週間)を実施している。

左/グローバルな人材に必要な能力を習得するための「グローバルコンピテンスプログラム」も行っている。



中1では約9割の生徒が部活動に参加。競技かるた部をはじめ、24ものクラブがある。

生徒にはまず大学受験に必要な総合的な学力を伸ばす「学び力」を付けさせたいと、個別指導塾と提携した放課後学習支援システム「尚志館」を用意。卒業生を含むチューターが指導し、自学自習に効果を上げている。教育本来の目的は自己実現。10年後、20年後の社会課題を考え解決するためには、課題に対してもの見方が違うチームで取り組む「探究力」も大切。探究学習では学年ごとにテーマを設定し、正解のない問いにチームで取り組み、最適解に落とし込んでプレゼンへ。テーマも身の回り

2008年に中学校、翌年に高校が開校した奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校は、閑静な文教地区の約3万坪の敷地に、天然芝のグラウンドや6面のテニスコート、五つの理科実験室、屋上には天体観測ドームまで完備している。

同校がスローガンに掲げる「子ども自身の伸び率日本一の学校」とは、生徒自身が「奈良登美での学校生活で自分は成長した」と自覚できることを指す。そこには自己肯定感を高めることも含まれる。「数学が苦手、人前で話すのが不得意といったことは成長過程の一コマに過ぎない。そんなことで自分自身にレッテルを貼らないようにと言っています」と語るのは安井孝至校長。教員にも生徒のポテンシャルを生かすために、「型にはめない」よう伝えているという。

生徒にはまず大学受験に必要な総合的な学力を伸ばす「学び力」を付けさせたいと、個別指導塾と提携した放課後学習支援システム「尚志館」を用意。卒業生を含むチューターが指導し、自学自習に効果を上げている。

その基盤の人間力を育成

2008年に中学校、翌年に高校が開校した奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校は、閑静な文教地区の約3万坪の敷地に、天然芝のグラウンドや6面のテニスコート、五つの理科実験室、屋上には天体観測ドームまで完備している。

同校がスローガンに掲げる「子ども自身の伸び率日本一の学校」とは、生徒自身が「奈良登美での学校生活で自分は成長した」と自覚できることを指す。そこには自己肯定感を高めることも含まれる。「数学が苦手、人前で話すのが不得意といったことは成長過程の一コマに過ぎない。そんなことで自分自身にレッテルを貼らないようにと言っています」と語るのは安井孝至校長。教員にも生徒のポテンシャルを生かすために、「型にはめない」よう伝えているという。

生徒にはまず大学受験に必要な総合的な学力を伸ばす「学び力」を付けさせたいと、個別指導塾と提携した放課後学習支援システム「尚志館」を用意。卒業生を含むチューターが指導し、自学自習に効果を上げている。

School Data

〒631-8522
奈良県奈良市中登美ヶ丘3-15-1
☎0742-93-5111
https://www.naragakuen.jp/tomigaoka/t_jun/

- 創立 2008年(中学校)
- 交通
 - 近鉄けいはんな線「学研奈良登美ヶ丘」駅から徒歩8分
 - 近鉄奈良線「学園前」駅から徒歩10分
 - 奈良交通バス「奈良学園登美ヶ丘」下車すぐ

から社会へと広げ、高1ではSDGの課題に挑む。物事を深く考え、未知なことにチャレンジする過程で、学問の面白さや自分自身の専門性に気付くことに期待している。

グローバル教育では語学力や異文化理解、世界とつながり行動できる力を育成。高1のターム留学や高2のオーストラリア研修といったプログラムほかに、コミュニケーションスキルや国際的なマインドを養う「グローバルコンピテンスプログラム」を実施する。

学び力、探究力、国際力を育成する基盤となるのは「人間力」。それを育むのはさまざまな体験学習や部活動だ。弁論部や競技かるた部、囲碁将棋部などは全国大会に出場。陸上部では中1から始めた生徒が100m走で全国優勝するなど、自己の「伸び率日本一」に。一つの目標に向かって自分を律し、最後までやり遂げることが人間力の向上につながる。「本校は素直で穏やかな生徒が多いですが、部活では奈良登美フアイトイニングスピリッツを掲げて、果敢に挑んでいます」(安井校長)。

コアネットの

「伸び率日本一」を本気で支える環境は一見の価値あり! ▶ 勉強も部活も人間力も、何事も「伸び率日本一」を目指す同校。本気でこの目標を目指す同校のサポート体制は、目を見張る充実ぶり。放課後の学習支援も、ただ外部の個別指導塾を呼ぶのではなく、教員も一緒になって学習状況を把握し、苦手を克服していく姿勢は、まさに昨今必要性が叫ばれる「個別最適学習」の最先端のかたちだろう。

プレジデントファミリー 特別企画
プレジデントムック「中学受験大百科」特別付録

注目の私立中高一貫校 この学校のここがスゴイ! 2024年

編集：プレジデント社メディア事業本部 赤池淳一
制作：編集室りっか
デザイン：太田デザイン事務所
取材：蔵 麻子、腰本文子、高橋盛男、中田ひとみ、町田佳子
撮影：柏原真己、合田慎二、茅原田哲郎、鶴田孝介、原田圭介
イラスト：ナツコ・ムーン
協力：コアネット教育総合研究所、日能研関西

©プレジデント社
2024 Printed in Japan
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。
発行所：株式会社プレジデント社
〒102-8641
東京都千代田区平河町2-16-1 平河町森タワー
印刷・製本：大日本印刷株式会社

受験・進学情報の
プロフェッショナルの立場から、
各校の特徴をまとめた
一言コラム

コアネットの目

首都圏執筆 福本雅俊

コアネット教育総合研究所横浜研究室室長。日本キャリアデザイン学会会員。私立高校の教員を経て、2006年同研究所に入所、16年より現職。キャリア教育を主領域に、子供たちの未来を応援する教育活動に関する支援を中心に、学校経営をサポートしている。

関西執筆 松原和之

コアネット教育総合研究所所長。教育コンサルタント。一橋大学社会学部卒、三和総合研究所を経て現職。主に私立中学校や高等学校の学校改革の支援を手掛けてきた。年間延べ100校以上の学校を訪問し、学校現場に精通している。

注目の
私立中高
一貫校

2024年

